

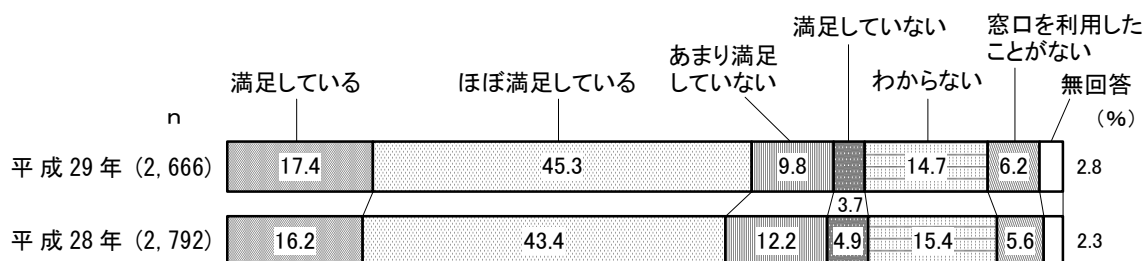
3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

(1) 窓口サービスの満足度

◇《満足》が6割強

問12 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

図3-1-1 窓口サービスの満足度－全体、経年比較

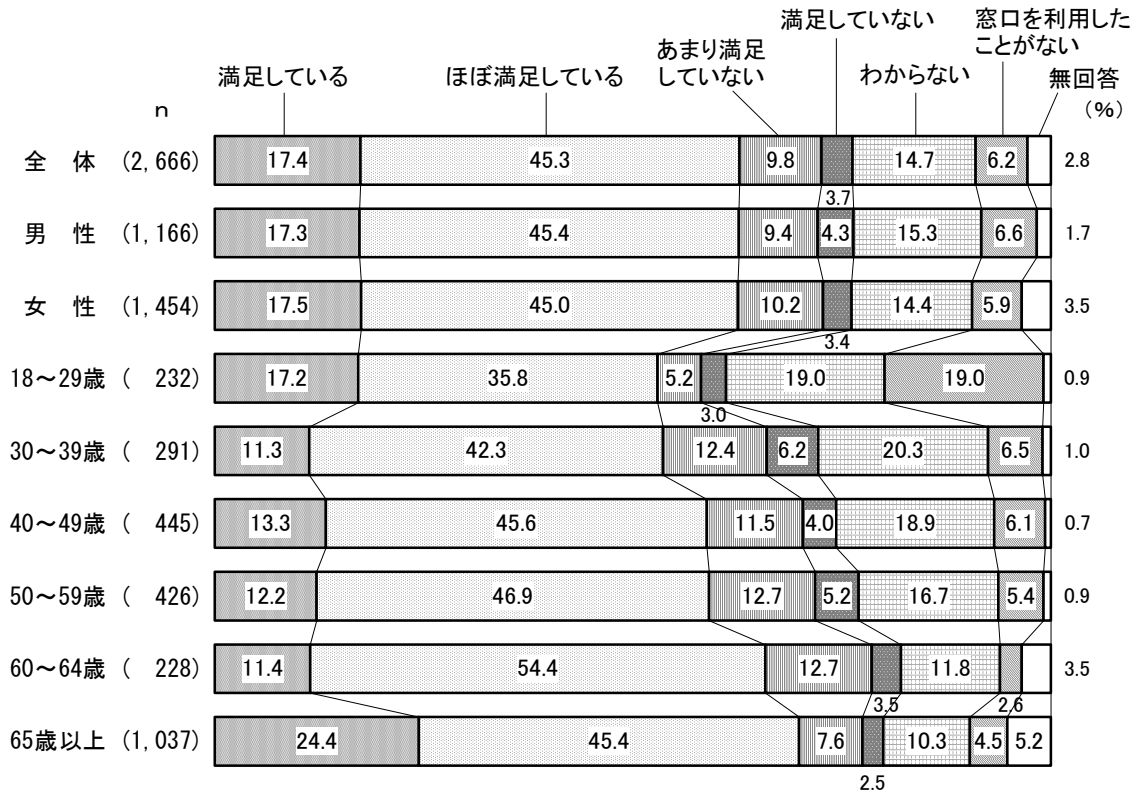


市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（17.4%）と「ほぼ満足している」（45.3%）を合わせた《満足》（62.7%）は6割強となっている。一方、「あまり満足していない」（9.8%）と「満足していない」（3.7%）を合わせた《不満足》（13.5%）は1割強となっている。

前回調査と比較すると、《満足》は、平成28年（59.6%）より3.1ポイント増加している。

(図3-1-1)

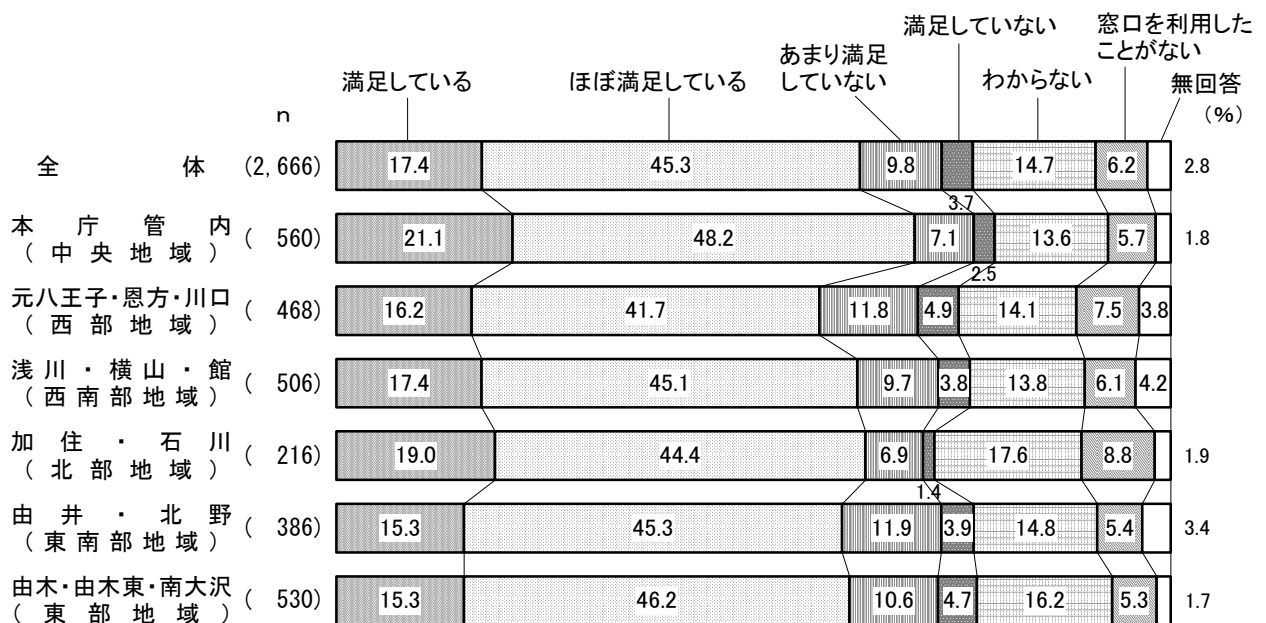
図 3-1-2 窓口サービスの満足度—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《満足》は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（69.8%）で7割弱となっている。（図 3-1-2）

図 3-1-3 窓口サービスの満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（69.3%）で7割弱と多くなっている。

（図 3-1-3）

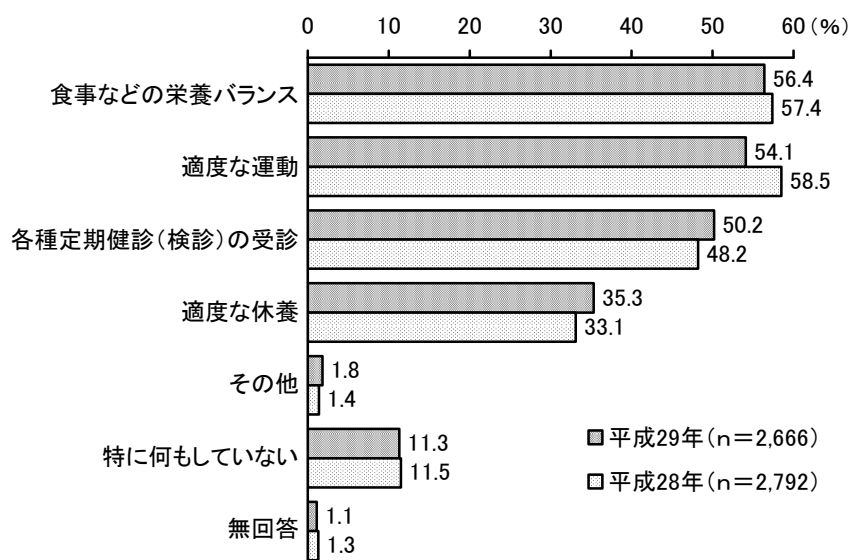
(2) 健康のために心がけていること

◇「食事などの栄養バランス」が6割近く

問13 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

(○はいくつでも)

図3-2-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較

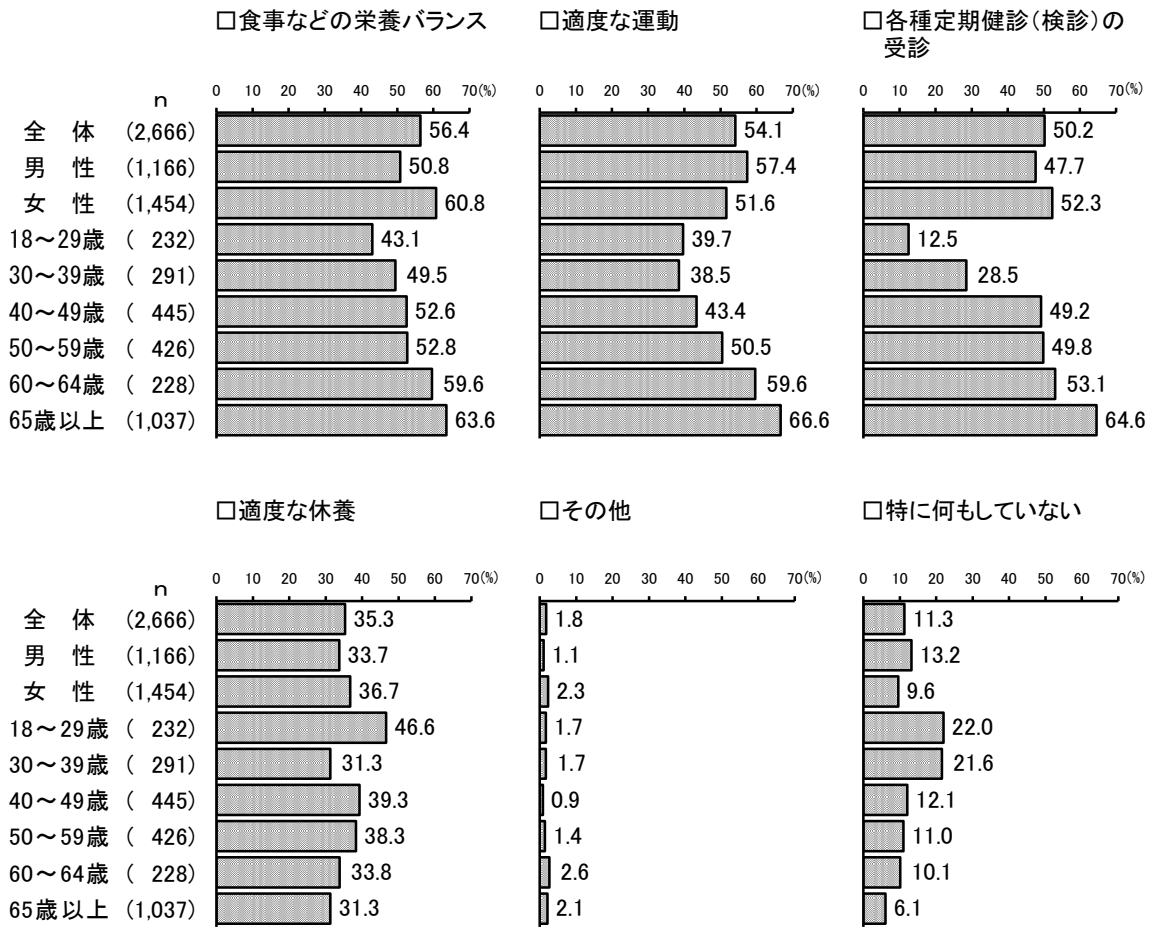


健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「食事などの栄養バランス」(56.4%)が最も多く6割近くとなっている。次いで「適度な運動」(54.1%)、「各種定期健診(検診)の受診」(50.2%)、「適度な休養」(35.3%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「適度な運動」は、平成28年(58.5%)より4.4ポイント減少している。

(図3-2-1)

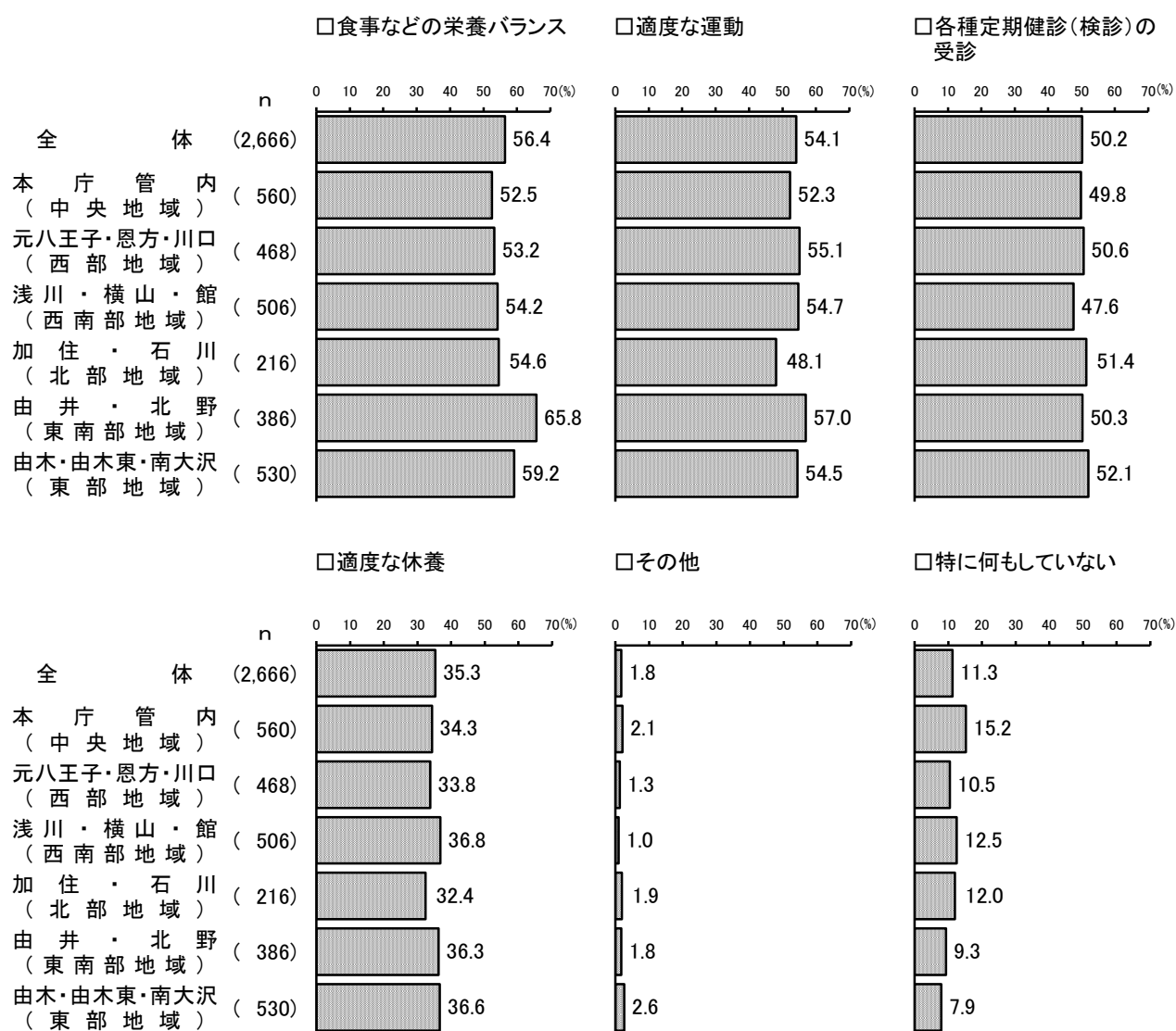
図3-2-2 健康のために心がけていることー性別、年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（60.8%）が男性（50.8%）より10.0ポイント高くなっている。「適度な運動」は男性（57.4%）が女性（51.6%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「食事などの栄養バランス」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（63.6%）で6割強となっている。「適度な運動」は65歳以上（66.6%）で7割近くと多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（64.6%）で6割台半ばとなっている。（図3-2-2）

図3-2-3 健康のために心がけていることー居住地域別



居住地域別にみると、「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（65.8%）で6割台半ばと多くなっている。「適度な運動」は由井・北野（東南部地域）（57.0%）で6割近くと多くなっている。（図3-2-3）

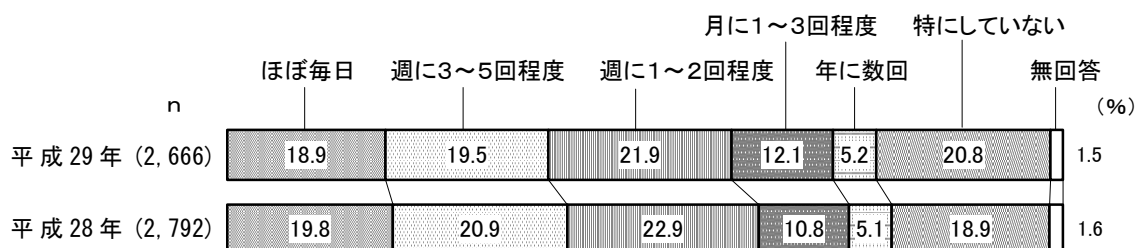
(3) この1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が約6割

問14 あなたは、この1年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動(登山やハイキングなど)や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩(散策、ペットの散歩を含む)などで1日合計30分以上行うものも含めます。

図3-3-1 この1年間の運動頻度—全体、経年比較

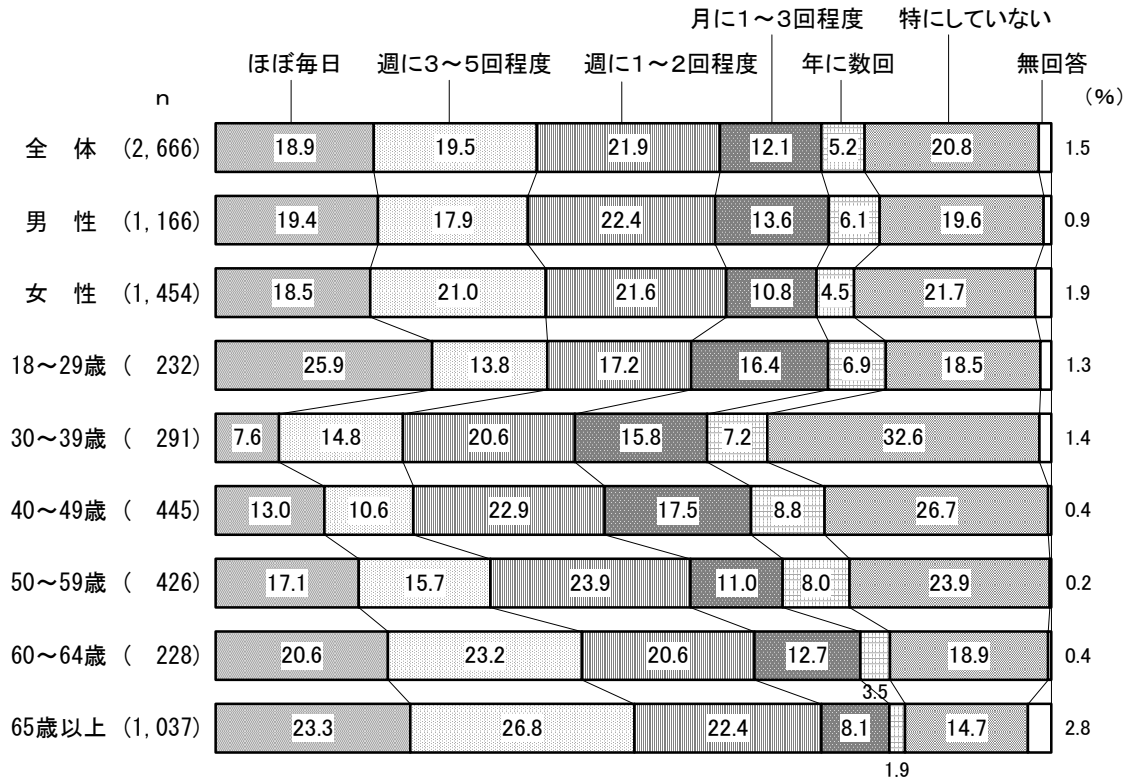


この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(18.9%)、「週に3~5回程度」(19.5%)、「週に1~2回程度」(21.9%)の3つを合わせた《週1回以上》(60.3%)は約6割となっている。「月に1~3回程度」(12.1%)が1割強で、「特にしていない」(20.8%)は約2割となっている。

前回調査と比較すると、《週1回以上》は、平成28年(63.6%)より3.3ポイント減少している。

(図3-3-1)

図 3-3-2 この1年間の運動頻度—性別、年齢別

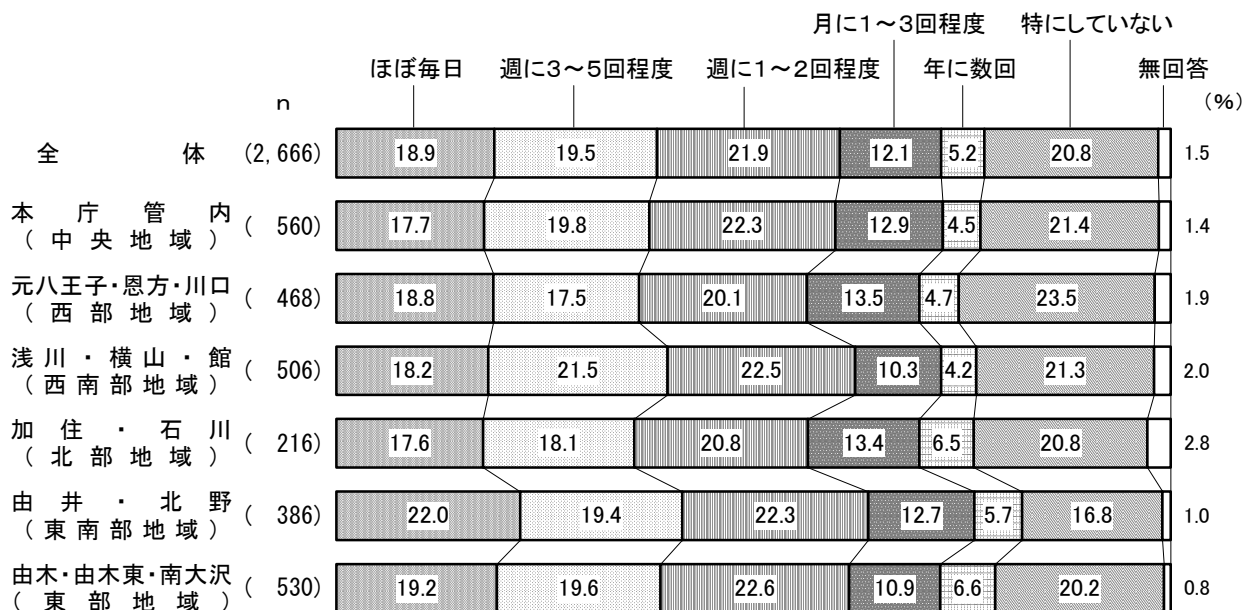


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「週1回以上」は65歳以上（72.5%）で7割強と多くなっている。

(図 3-3-2)

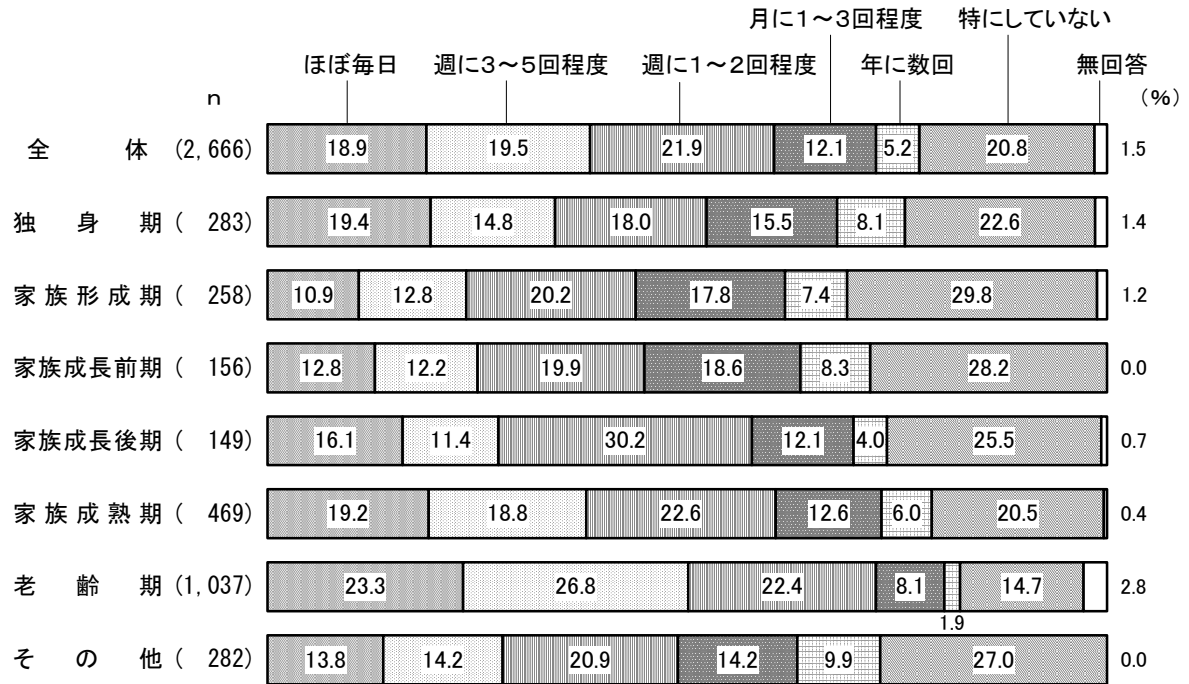
図 3-3-3 この1年間の運動頻度—居住地域別



居住地域別にみると、「週1回以上」は由井・北野（東南部地域）（63.7%）、浅川・横山・館（西南部地域）（62.2%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（61.4%）で6割強と多くなっている。

(図 3-3-3)

図3-3-4 この1年間の運動頻度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「週1回以上」は老齢期(72.5%)で7割強と多くなっている一方、家族形成期(43.9%)では4割強にとどまっている。(図3-3-4)

(4) かかりつけの医療機関の有無

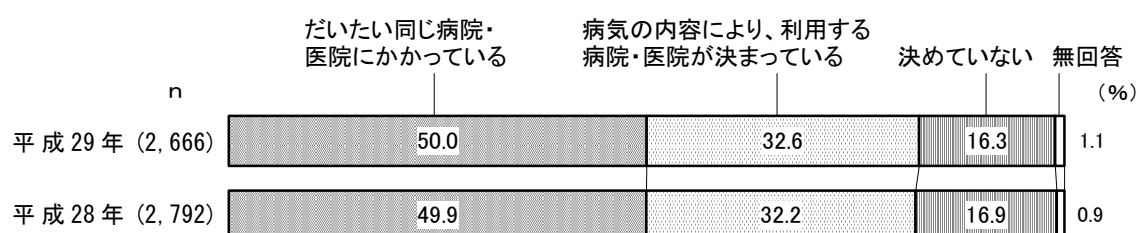
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割強

問15 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

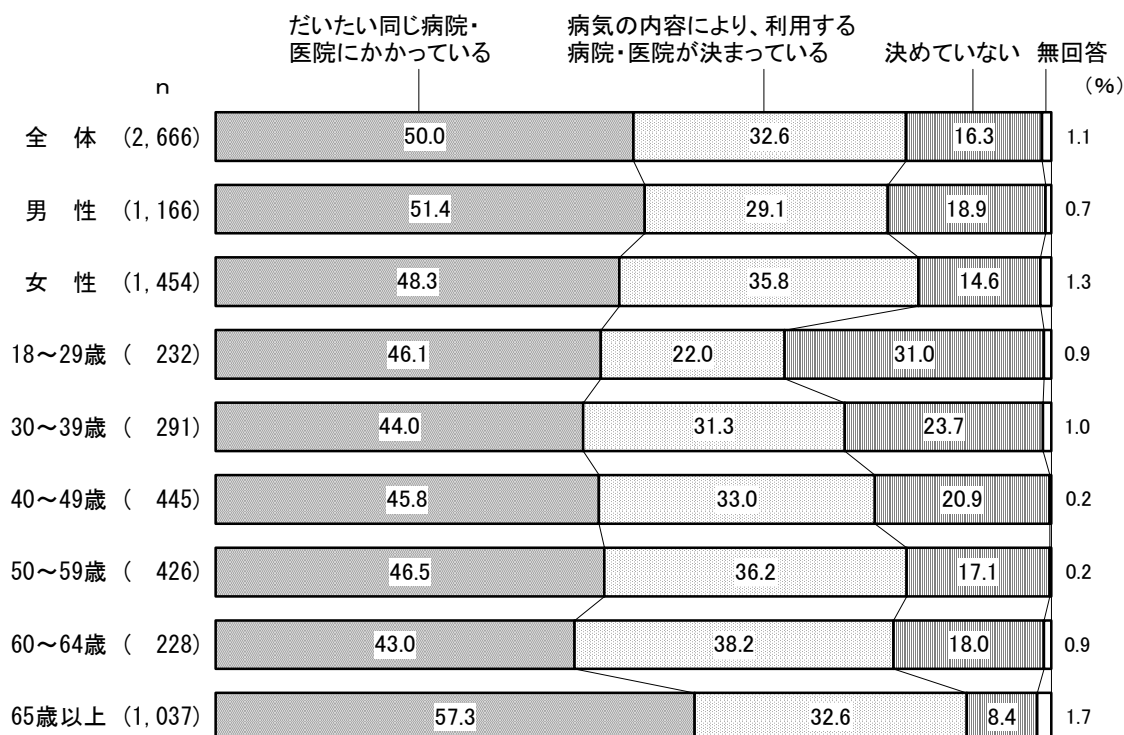
図3-4-1 かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(50.0%)が最も多く5割となっている。これに「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(32.6%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(82.6%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(16.3%)は2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-4-1)

図3-4-2 かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別

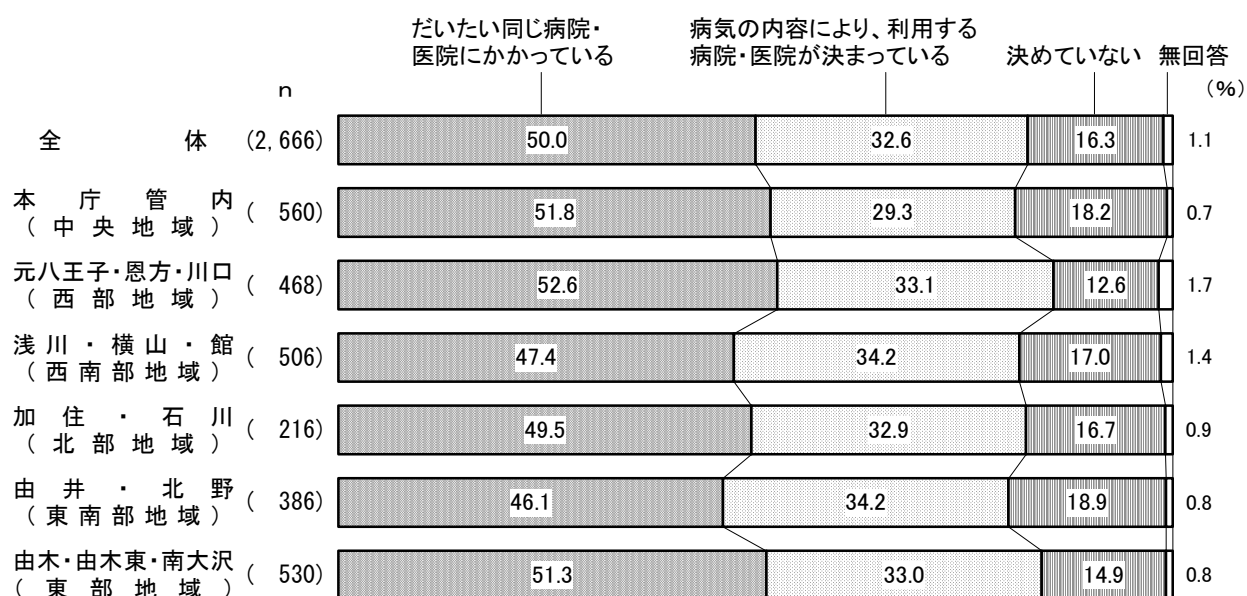


性別にみると、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は女性（35.8%）が男性（29.1%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は65歳以上（57.3%）で6割近くと多くなっている。「決めていない」は18～29歳（31.0%）で3割強と多くなっている。

(図3-4-2)

図3-4-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（52.6%）、本庁管内（中央地域）（51.8%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（51.3%）で5割強と多くなっている。(図3-4-3)

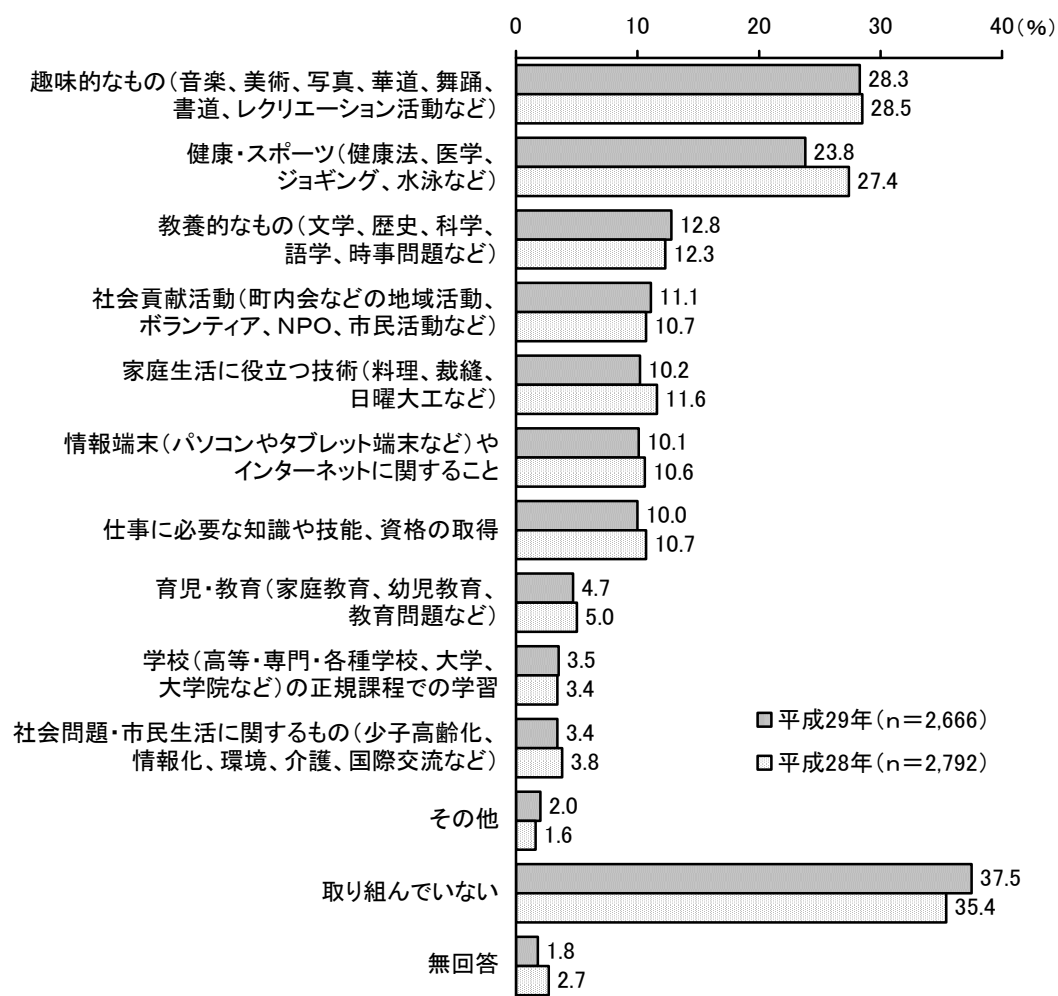
(5) この1年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」が3割近く

問16 あなたはこの1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

(○はいくつでも)

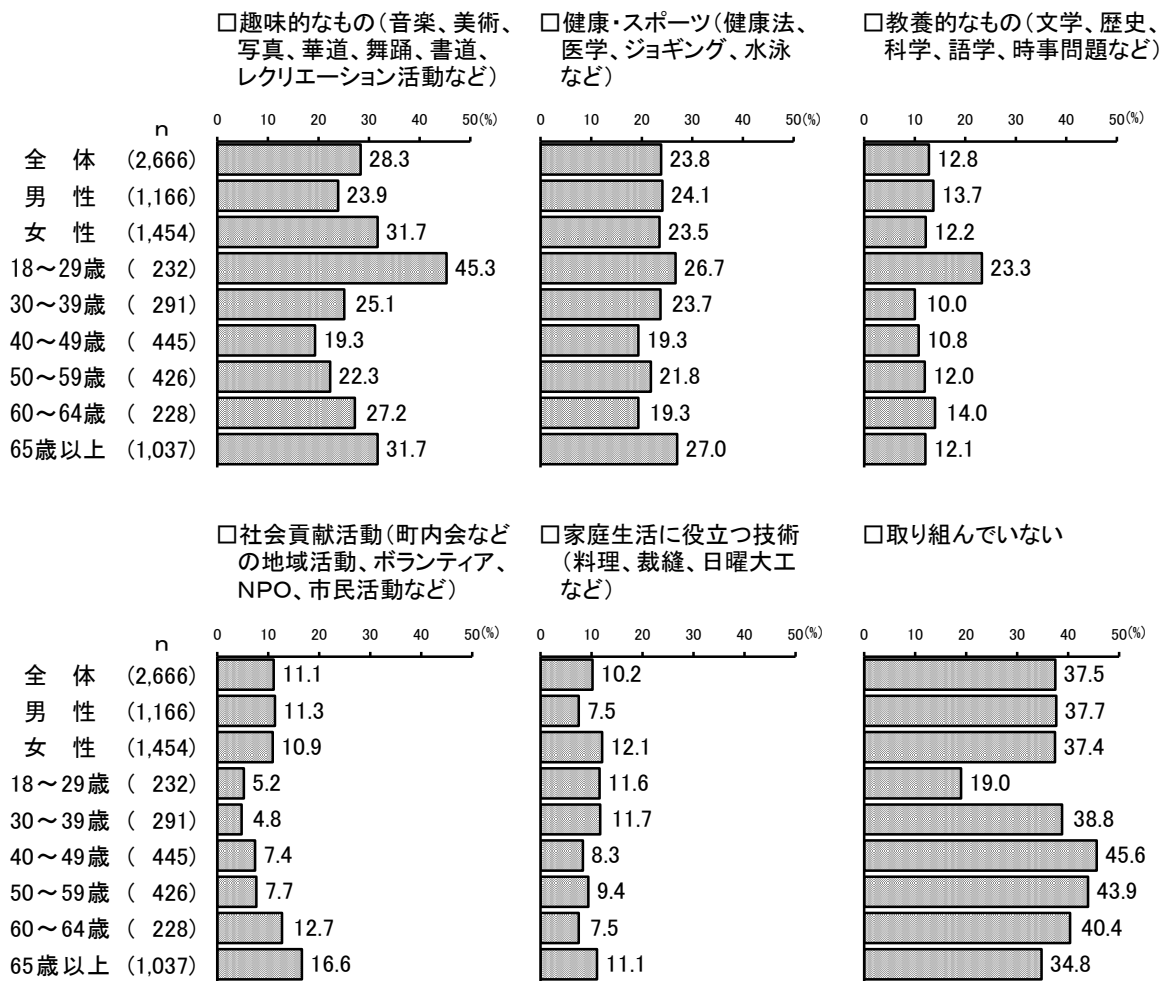
図3-5-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—全体、経年比較



この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(28.3%)が最も多く3割近くとなっている。次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」(23.8%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、時事問題など)」(12.8%)、「社会貢献活動(町内会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動など)」(11.1%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」は、平成28年(27.4%)より3.6ポイント減少している。(図3-5-1)

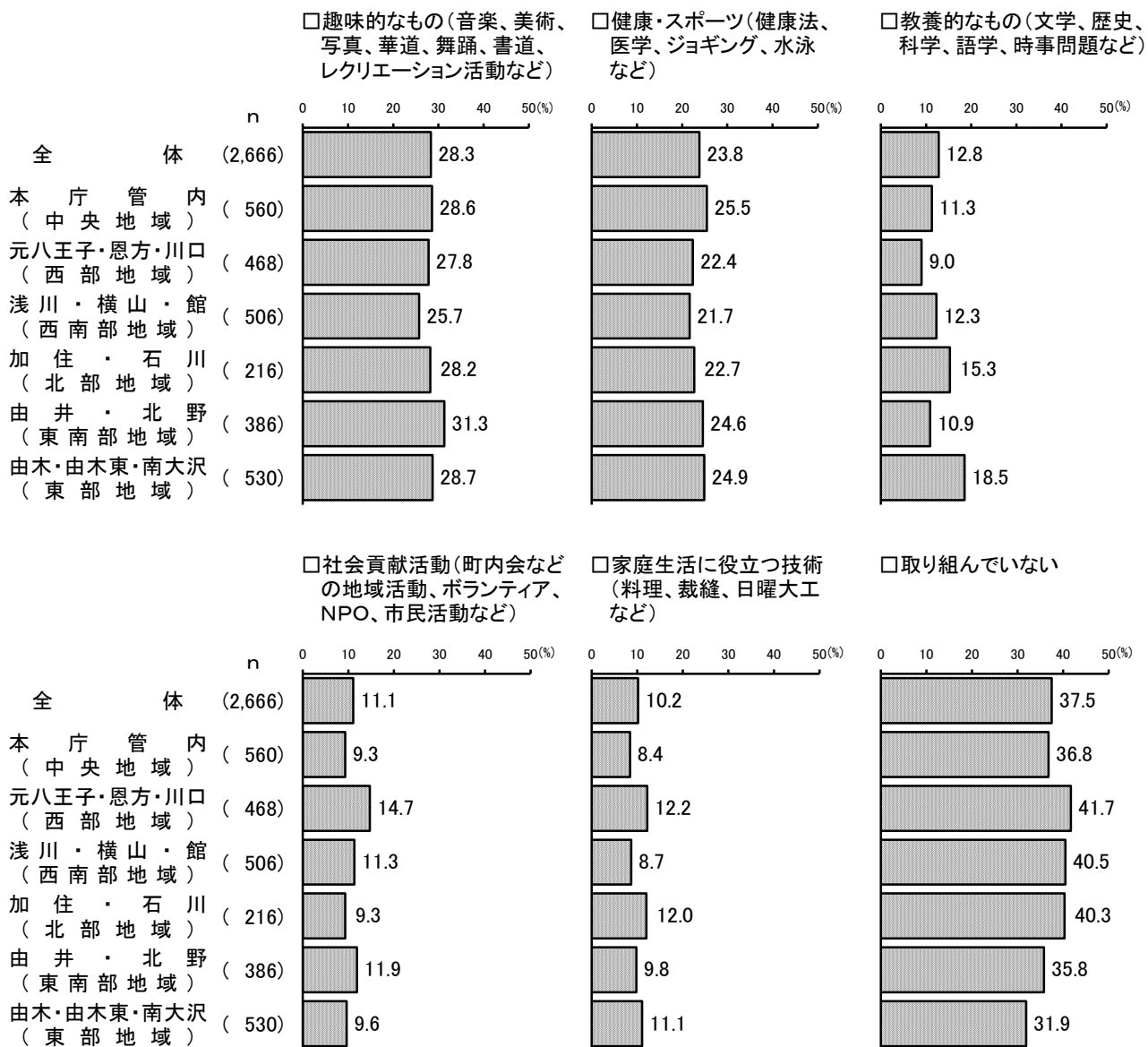
図3-5-2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—性別、年齢別（上位5位+「取り組んでいない」）



性別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性（31.7%）が男性（23.9%）より7.8ポイント高くなっている。「家庭生活に役立つ技術（料理、裁縫、日曜大工など）」は女性（12.1%）が男性（7.5%）より4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は18～29歳（45.3%）で4割台半ばと多くなっている。「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」は18～29歳（26.7%）と65歳以上（27.0%）で3割近くと多くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—居住地域別（上位5位+「取り組んでいない」）



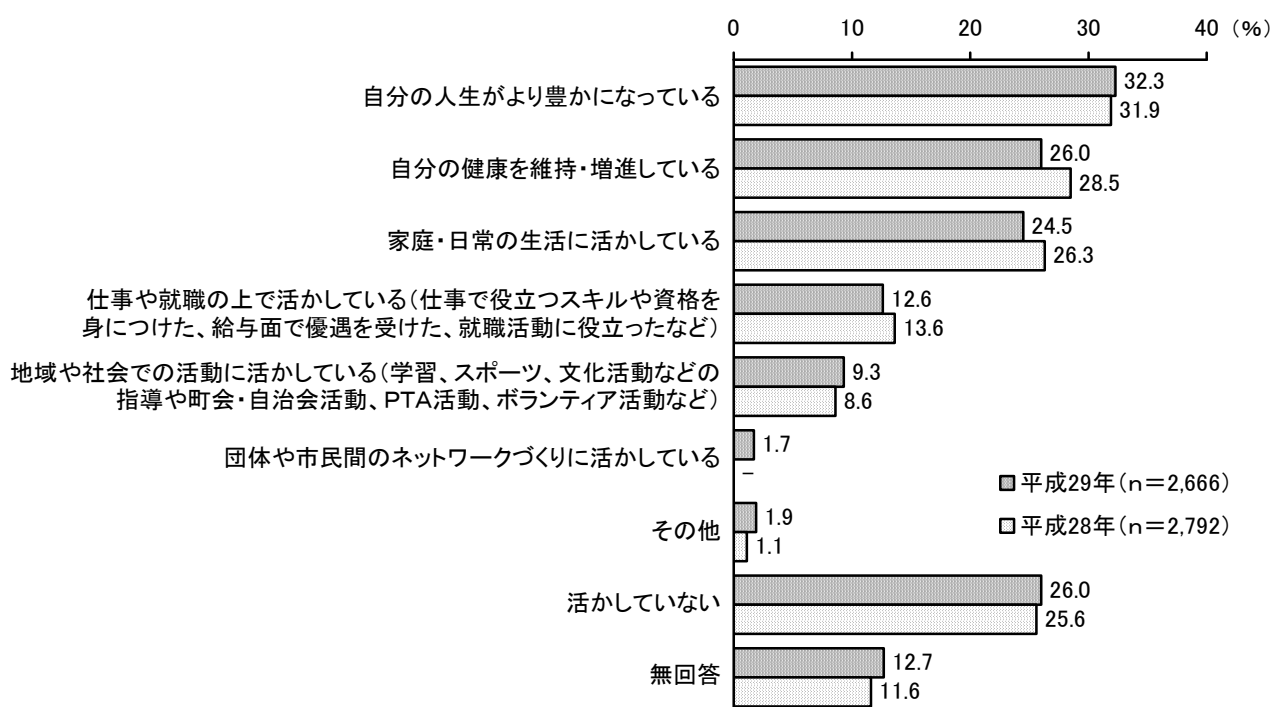
居住地域別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は由井・北野（東南部地域）（31.3%）で3割強と多くなっている。「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（18.5%）で2割近くと多くなっている。（図3-5-3）

(6) 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

◇「自分の人生がより豊かになっている」が3割強

問17 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

図3-6-1 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法—全体、経年比較



(注1) 「団体や市民間のネットワークづくりに活かしている」は、平成29年から追加した選択肢。

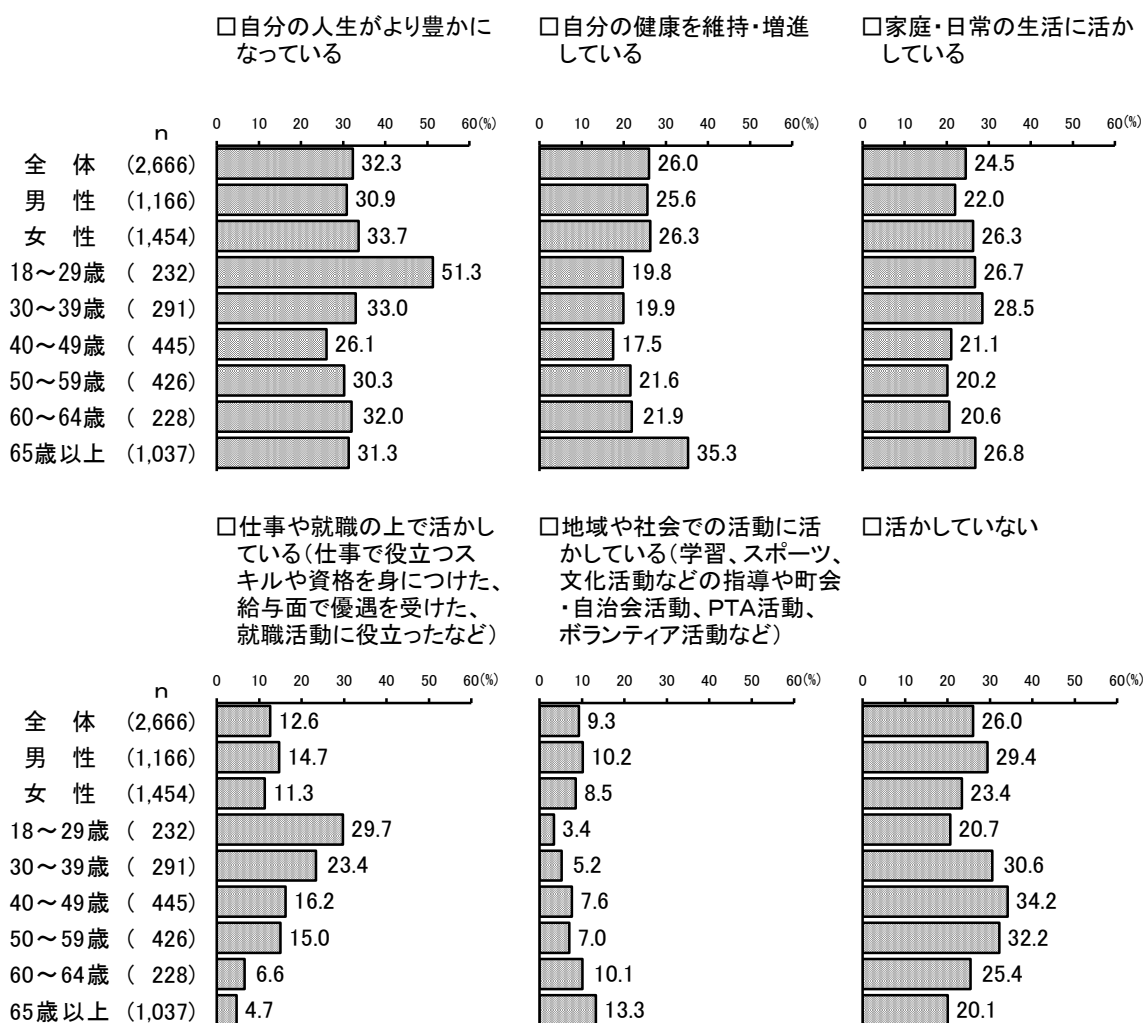
(注2) 「地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導や町会・自治会活動、PTA活動、ボランティア活動など)」は、平成28年では「地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)」としていた。

生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(32.3%)が最も多く3割強となっている。次いで「自分の健康を維持・増進している」(26.0%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(24.5%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(12.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-6-1)

図3-6-2 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

—性別、年齢別（上位5位+「活かしていない」）

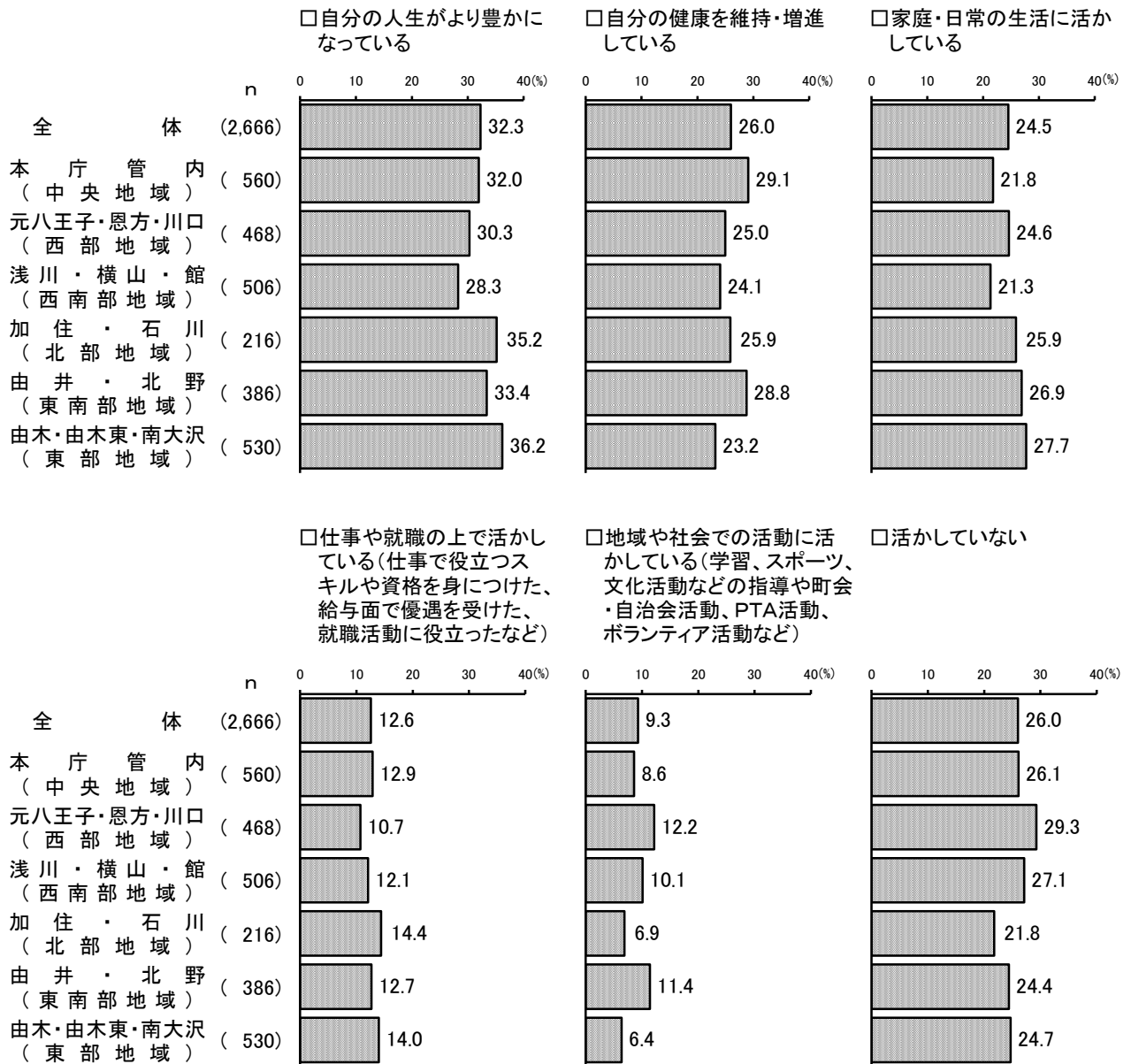


性別にみると、「家庭・日常生活に活かしている」は女性（26.3%）が男性（22.0%）より4.3ポイント高くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は男性（14.7%）が女性（11.3%）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18～29歳（51.3%）で5割強と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（35.3%）で3割台半ばと多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は低い年代ほど割合が多くなっており、18～29歳（29.7%）で3割弱となっている。（図3-6-2）

図3-6-3 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

—居住地域別（上位5位+「活かしていない」）



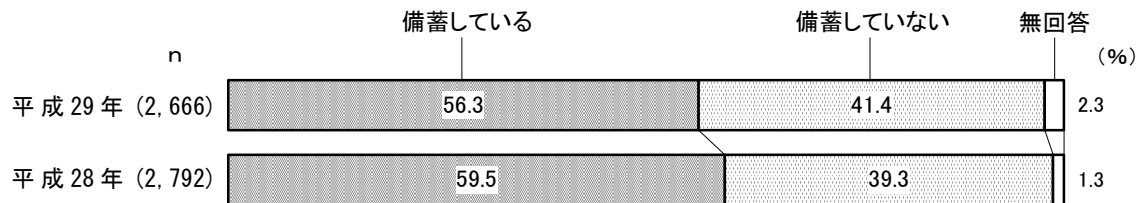
居住地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（36.2%）で4割近くと多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は本庁管内（中央地域）（29.1%）で3割弱と多くなっている。（図3-6-3）

(7) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割近く

問18 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-7-1 食料の備蓄の有無－全体、経年比較

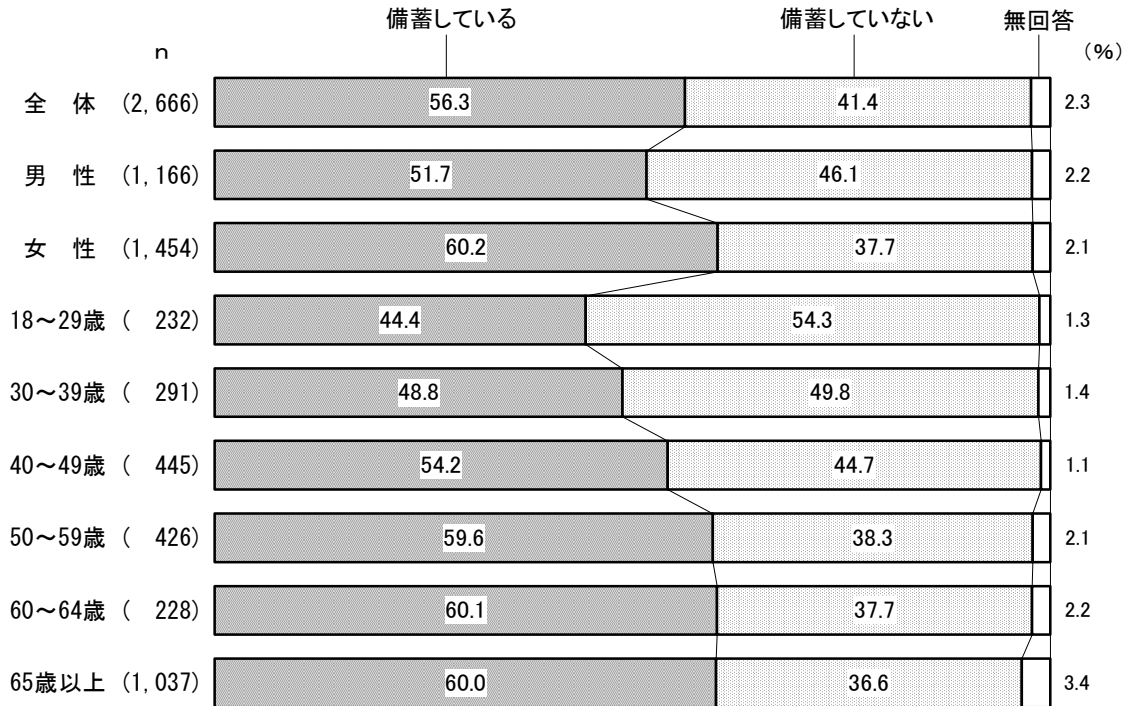


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(56.3%)が6割近くとなっている。一方、「備蓄していない」(41.4%)は4割強となっている。

前回調査と比較すると、「備蓄している」は、平成28年(59.5%)より3.2ポイント減少している。

(図3-7-1)

図 3-7-2 食料の備蓄の有無—性別、年齢別

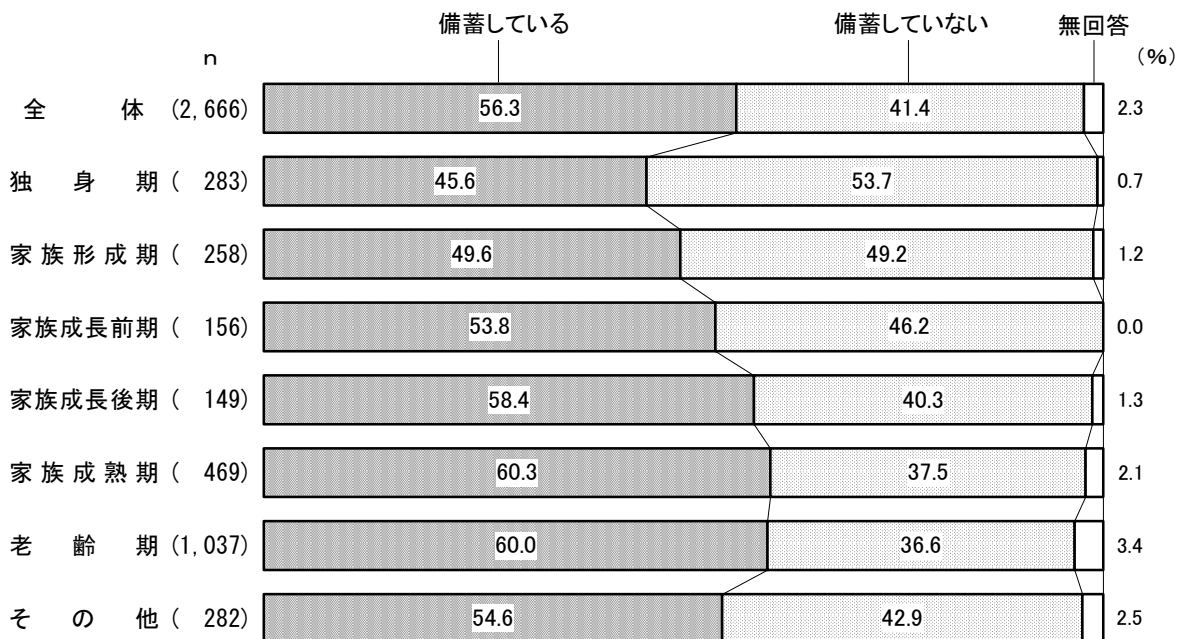


性別にみると、「備蓄している」は女性（60.2%）が男性（51.7%）より8.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60~64歳（60.1%）で約6割、65歳以上（60.0%）で6割と多くなっている。「備蓄していない」は18~29歳（54.3%）で5割台半ばと多くなっている。

(図 3-7-2)

図 3-7-3 食料の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成熟期（60.3%）で約6割、老齢期（60.0%）で6割と多くなっている。「備蓄していない」は独身期（53.7%）で5割強と多くなっている。

(図 3-7-3)

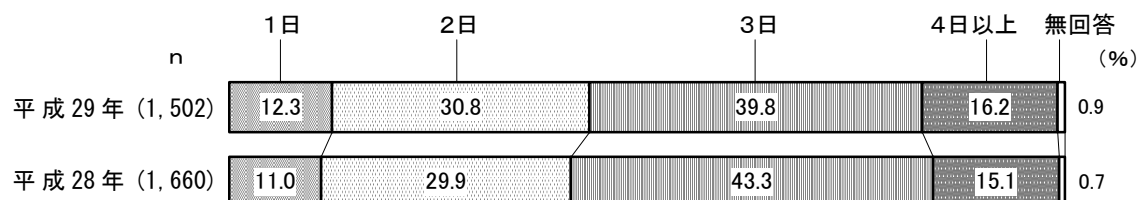
(8) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割弱

(食料を「備蓄している」とお答えの方に)

問18-1-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

図3-8-1 食料の備蓄量-全体、経年比較

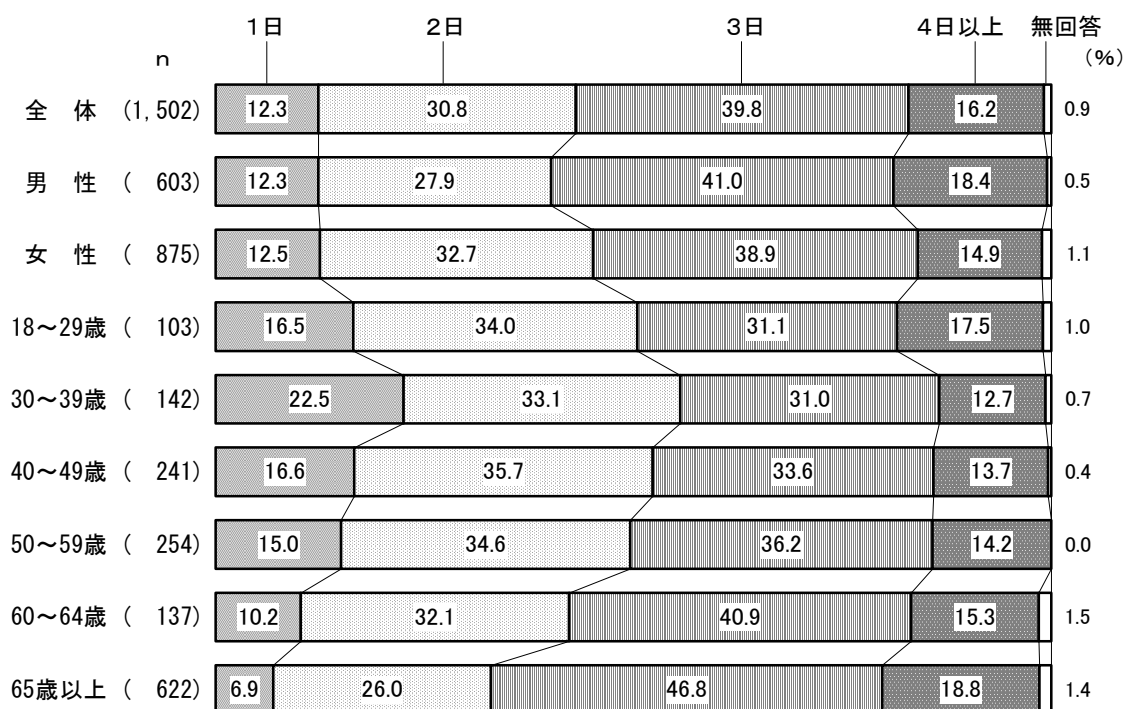


食料を「備蓄している」と回答した1,502人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「3日」(39.8%)が最も多く4割弱となっている。「4日以上」(16.2%)は2割近くで、「1日」(12.3%)が1割強、「2日」(30.8%)が約3割となっている。

前回調査と比較すると、「3日」は、平成28年(43.3%)より3.5ポイント減少している。

(図3-8-1)

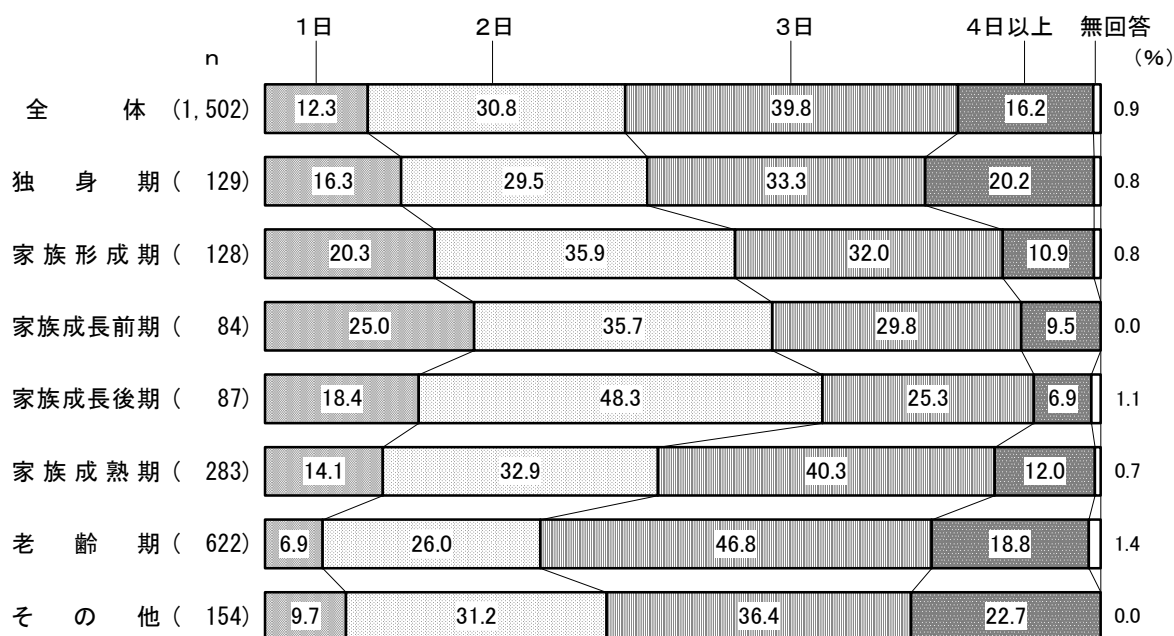
図3-8-2 食料の備蓄量-性別、年齢別



性別にみると、「2日」は女性（32.7%）が男性（27.9%）より4.8ポイント高くなっている。「4日以上」は男性（18.4%）が女性（14.9%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「1日」は30~39歳（22.5%）で2割強と多くなっている。（図3-8-2）

図3-8-3 食料の備蓄量-ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「1日」は家族成長前期（25.0%）で2割台半ば、「2日」は家族成長後期（48.3%）で5割近く、「3日」は老齢期（46.8%）で5割近くと多くなっている。

（図3-8-3）

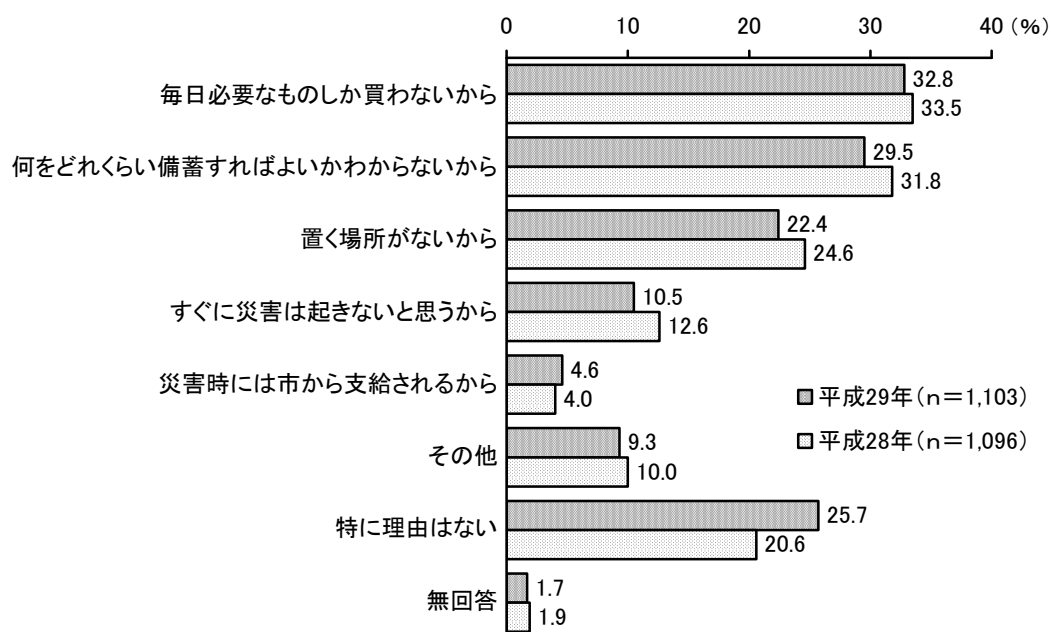
(9) 食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(食料を「備蓄していない」とお答えの方に)

問18-1-2 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

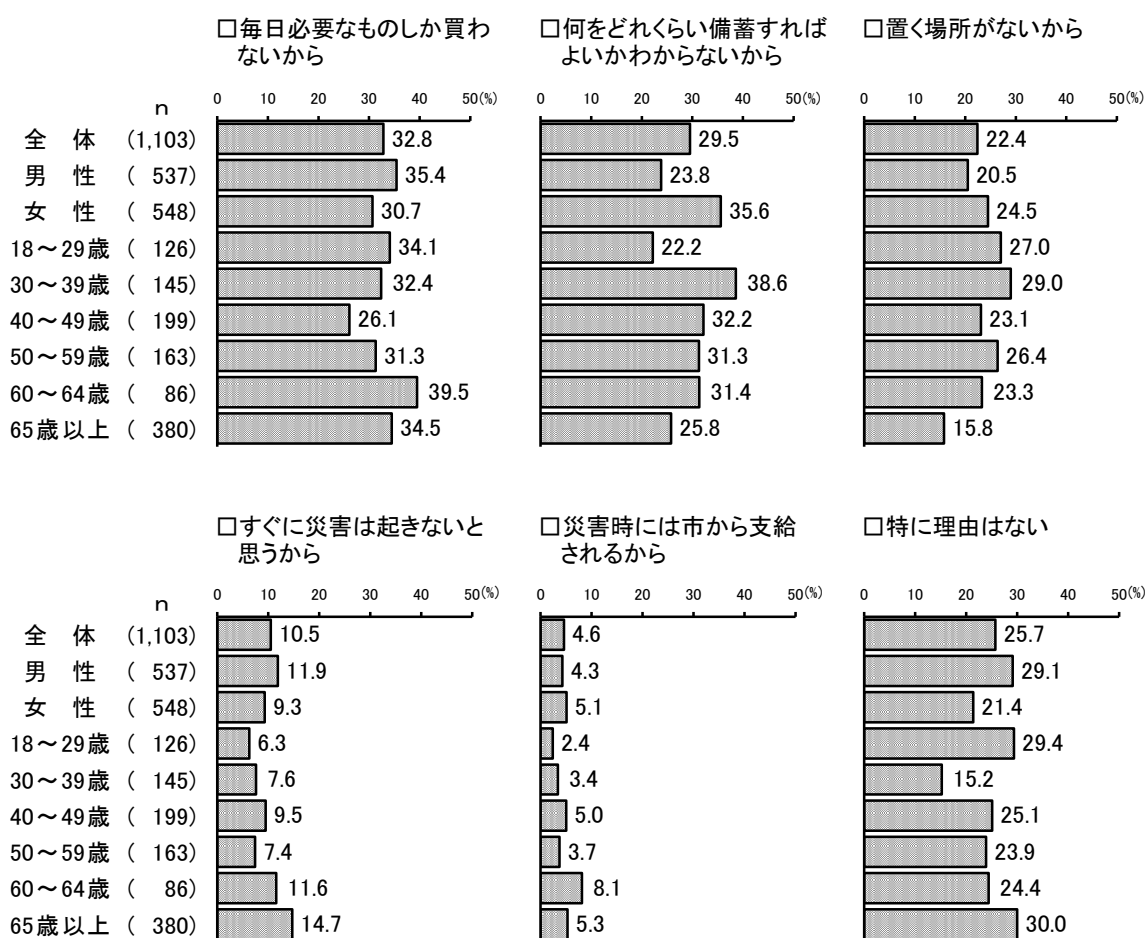
図3-9-1 食料を備蓄していない理由—全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した1,103人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(32.8%)が最も多く3割強となっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(29.5%)、「置く場所がないから」(22.4%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(10.5%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「特に理由はない」は、平成28年(20.6%)より5.1ポイント増加している。(図3-9-1)

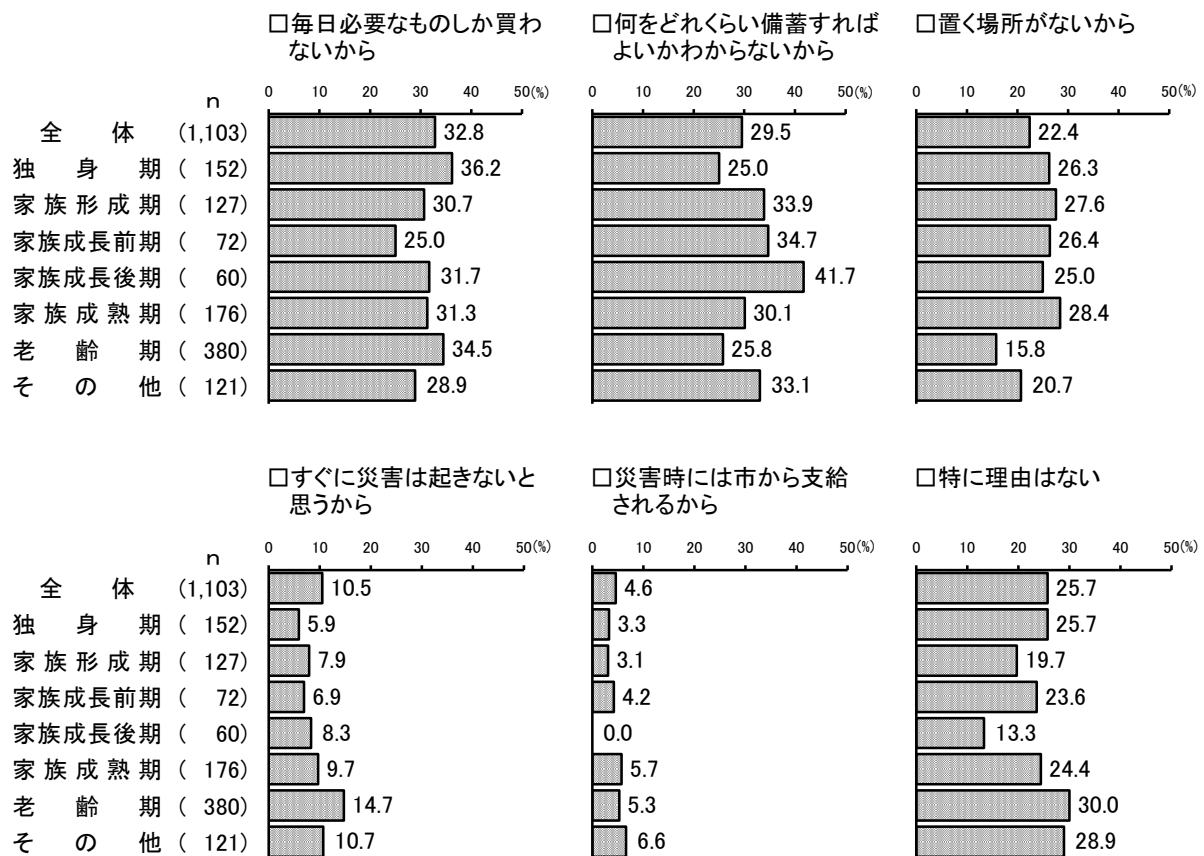
図3-9-2 食料を備蓄していない理由（「その他」を除く）－性別、年齢別



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（35.6%）が男性（23.8%）より11.8ポイント高くなっている。「毎日必要なものしか買わないから」は男性（35.4%）が女性（30.7%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は60～64歳（39.5%）で4割弱と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（38.6%）で4割近くと多くなっている。（図3-9-2）

図3-9-3 食料を備蓄していない理由（「その他」を除く）－ライフステージ別



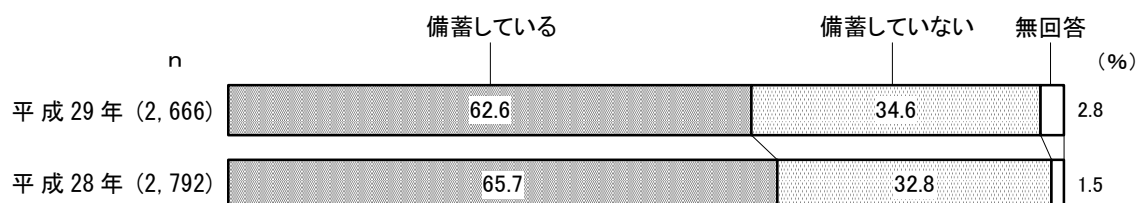
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（36.2%）で4割近くと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族成長後期（41.7%）で4割強と多くなっている。（図3-9-3）

(10) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割強

問18 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-10-1 飲料水の備蓄の有無—全体、経年比較

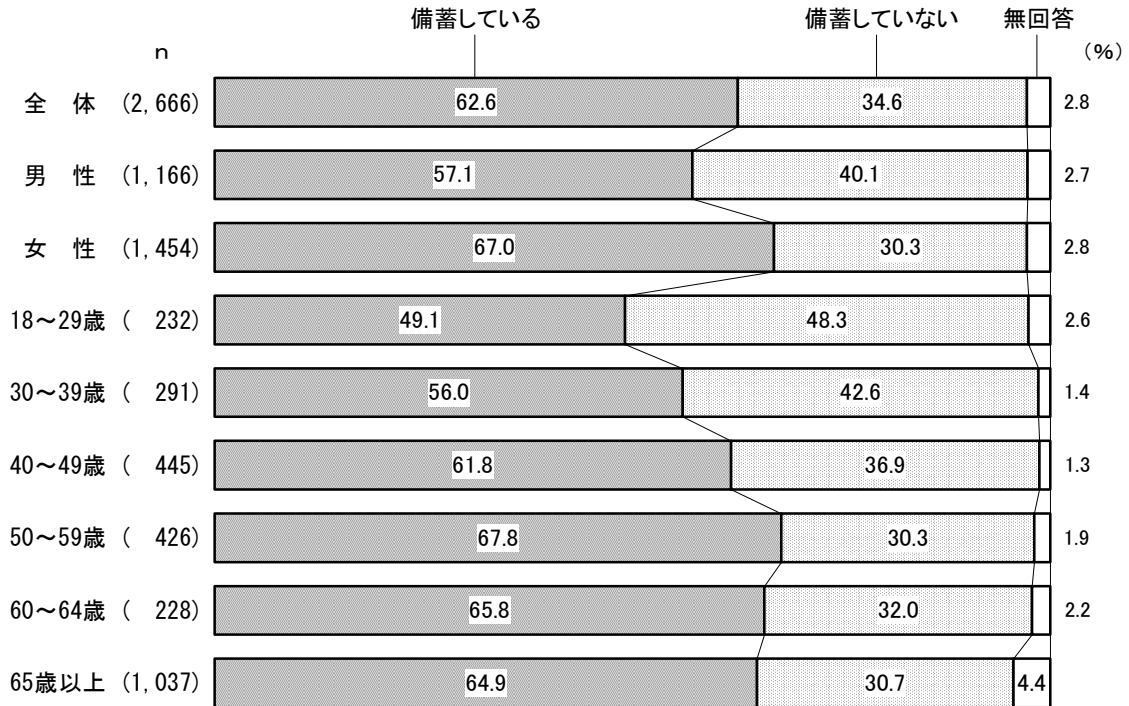


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(62.6%)が6割強となっている。一方、「備蓄していない」(34.6%)は3割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、「備蓄している」は、平成28年(65.7%)より3.1ポイント減少している。

(図3-10-1)

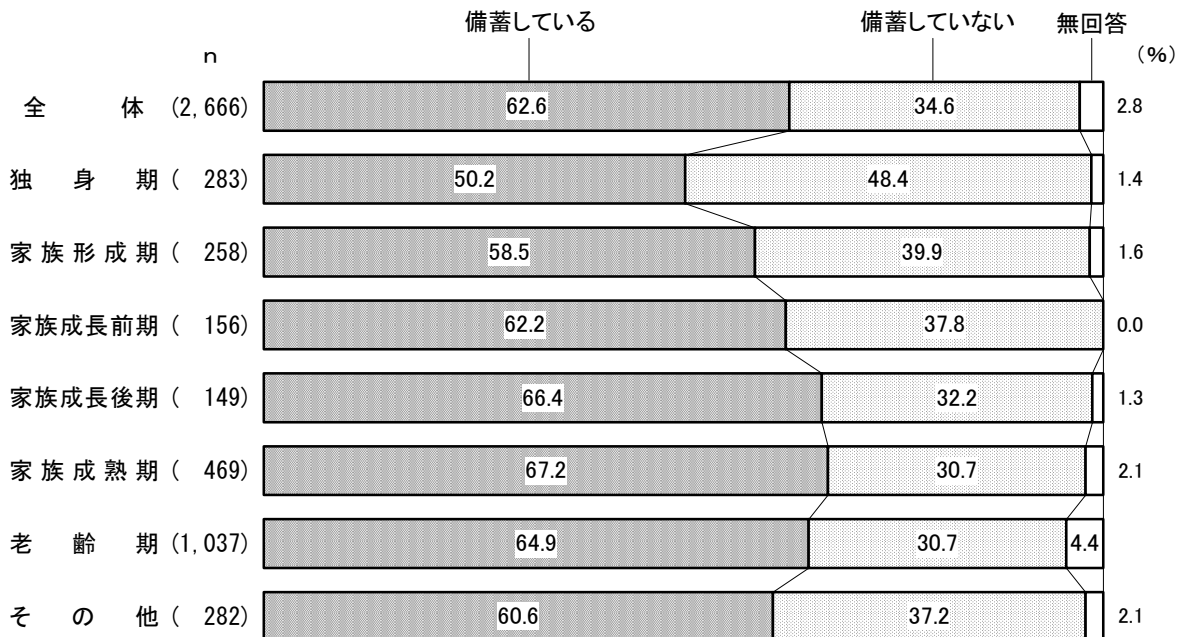
図3-10-2 飲料水の備蓄の有無—性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（67.0%）が男性（57.1%）より9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は50~59歳（67.8%）で7割近くと多くなっている。「備蓄していない」は18~29歳（48.3%）で5割近くと多くなっている。（図3-10-2）

図3-10-3 飲料水の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成熟期（67.2%）と家族成長後期（66.4%）で7割近くと多くなっている。「備蓄していない」は独身期（48.4%）で5割近くと多くなっている。（図3-10-3）

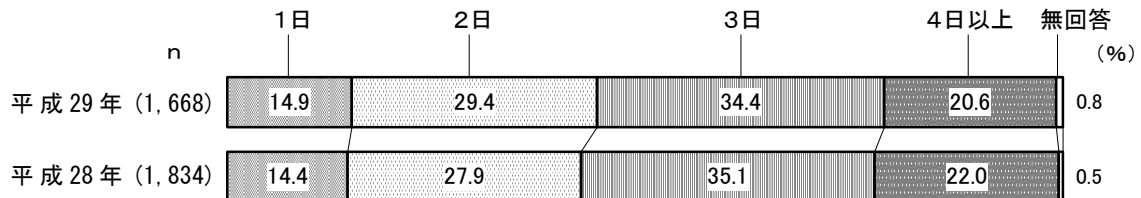
(11) 飲料水の備蓄量

◇「3日」が3割台半ば

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方に)

問18-2-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

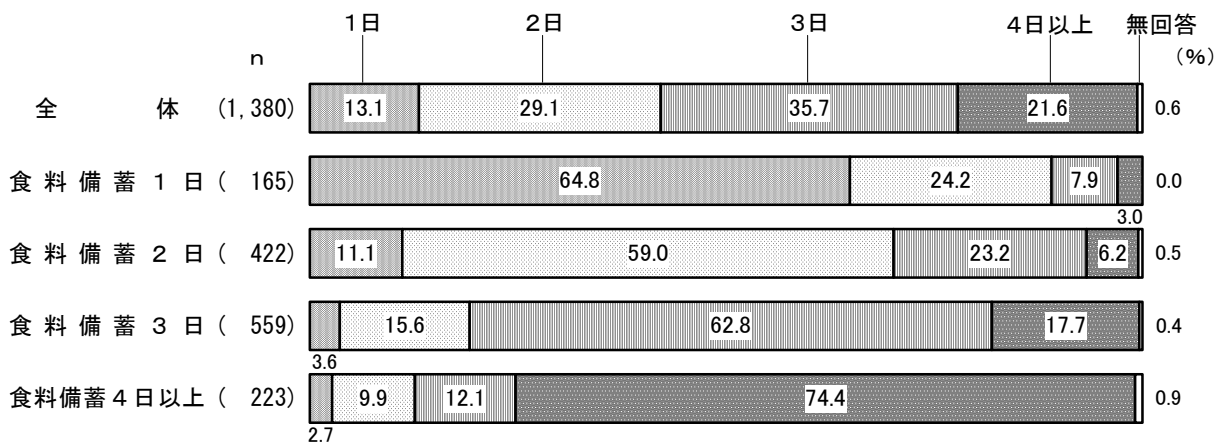
図3-11-1 飲料水の備蓄量－全体、経年比較



飲料水を「備蓄している」と回答した1,668人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「3日」(34.4%)が最も多く3割台半ばとなっている。「4日以上」(20.6%)は約2割で、「1日」(14.9%)が1割台半ば、「2日」(29.4%)が3割弱となっている。

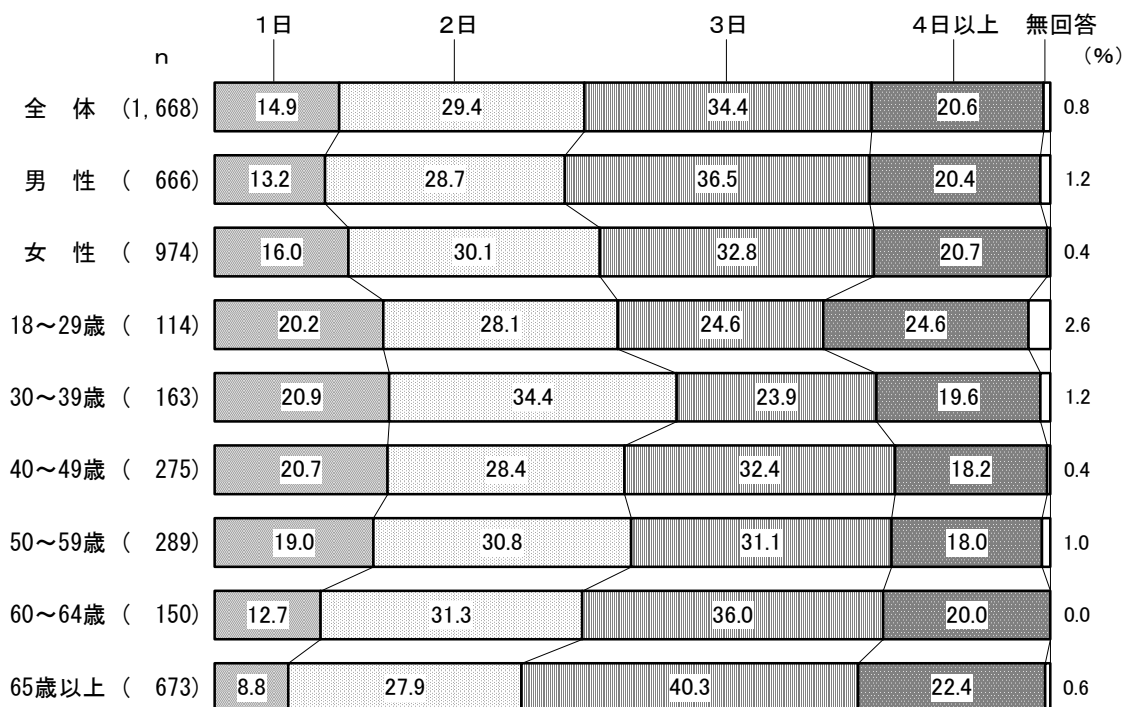
前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-11-1)

図3-11-2 飲料水の備蓄量－食料備蓄日数別



食料と飲料水をともに「備蓄している」と回答した1,380人について、食料備蓄日数別にみると、食料備蓄1日では、「1日」(64.8%)が6割台半ばで多くなっている。食料備蓄2日では、「2日」(59.0%)が6割弱、食料備蓄3日では、「3日」(62.8%)が6割強、食料備蓄4日以上では、「4日以上」(74.4%)が7割台半ばで多くなっており、食料と飲料水は同じ日数分備蓄する人が多い傾向がうかがえる。(図3-11-2)

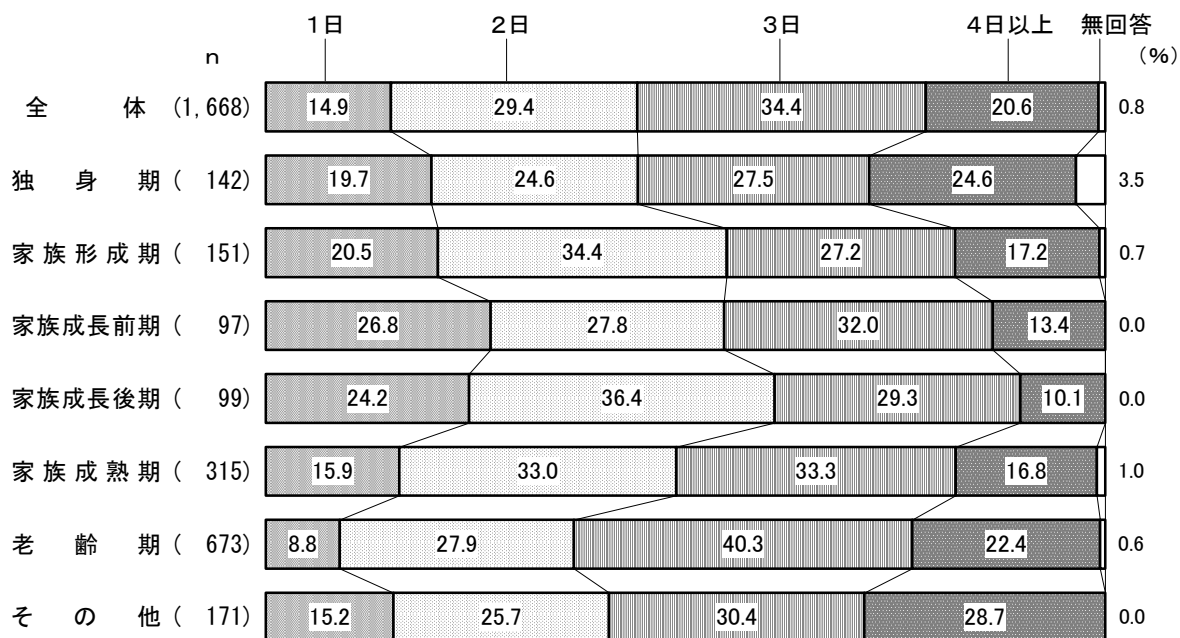
図3-11-3 飲料水の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「3日」は男性（36.5%）が女性（32.8%）より3.7ポイント高くなっている。
年齢別にみると、「4日以上」は18~29歳（24.6%）で2割台半ばと多くなっている。

(図3-11-3)

図3-11-4 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「1日」は家族成長前期（26.8%）で3割近くと多くなっている。

(図3-11-4)

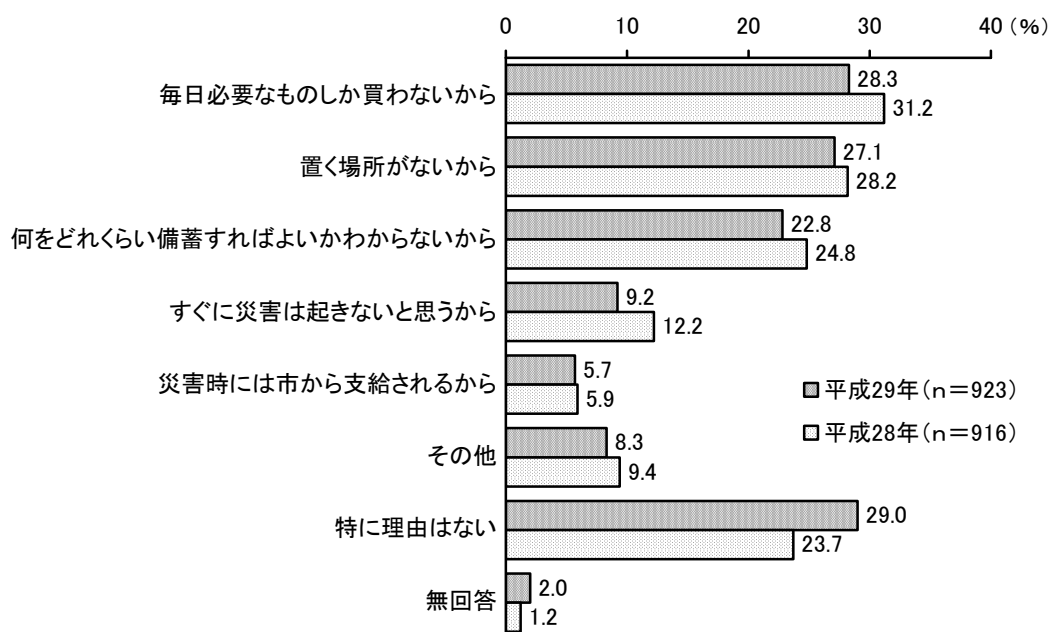
(12) 飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割近く

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に)

問18-2-2 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

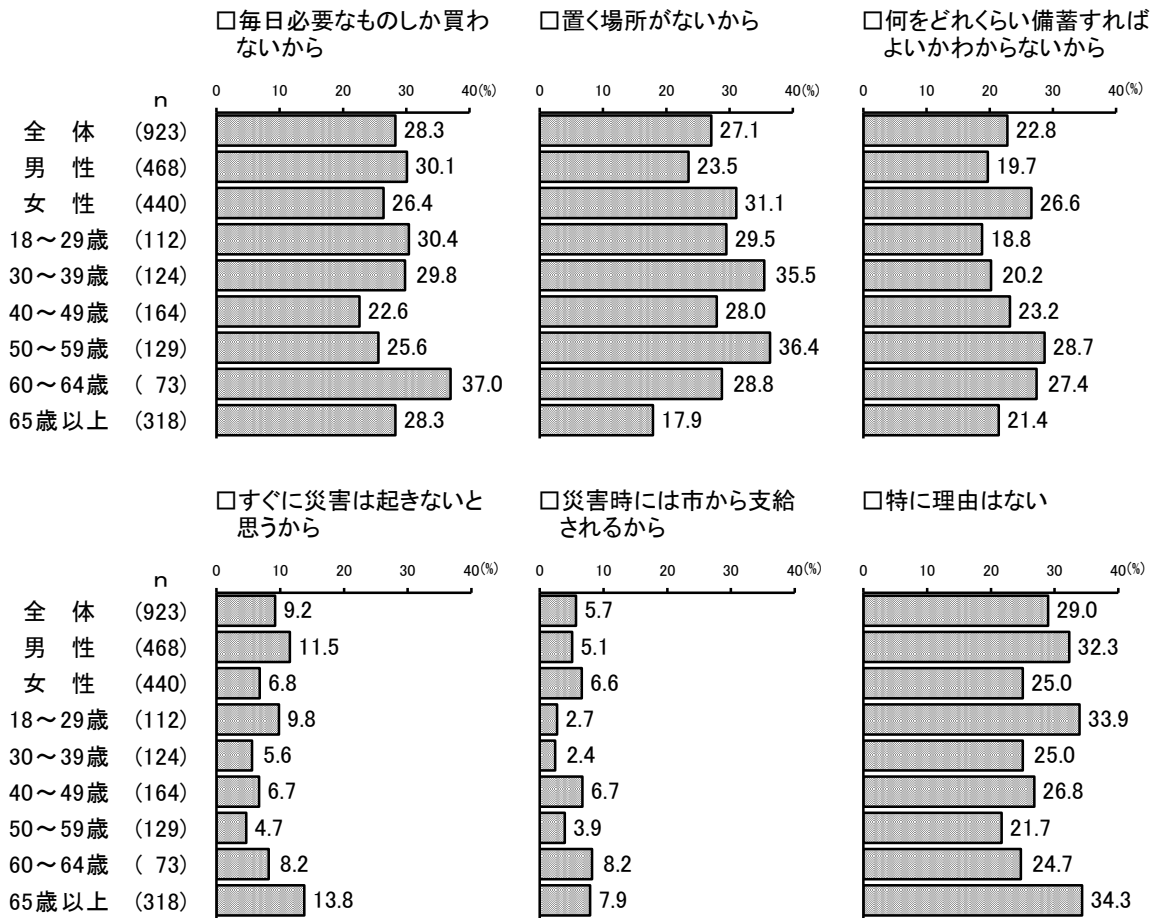
図3-12-1 飲料水を備蓄していない理由—全体、経年比較



飲料水を「備蓄していない」と回答した923人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(28.3%)が最も多く3割近くとなっている。次いで「置く場所がないから」(27.1%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(22.8%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(9.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「特に理由はない」は、平成28年(23.7%)より5.3ポイント増加している。一方、「すぐに災害は起きないと思うから」は、平成28年(12.2%)より3.0ポイント減少している。(図3-12-1)

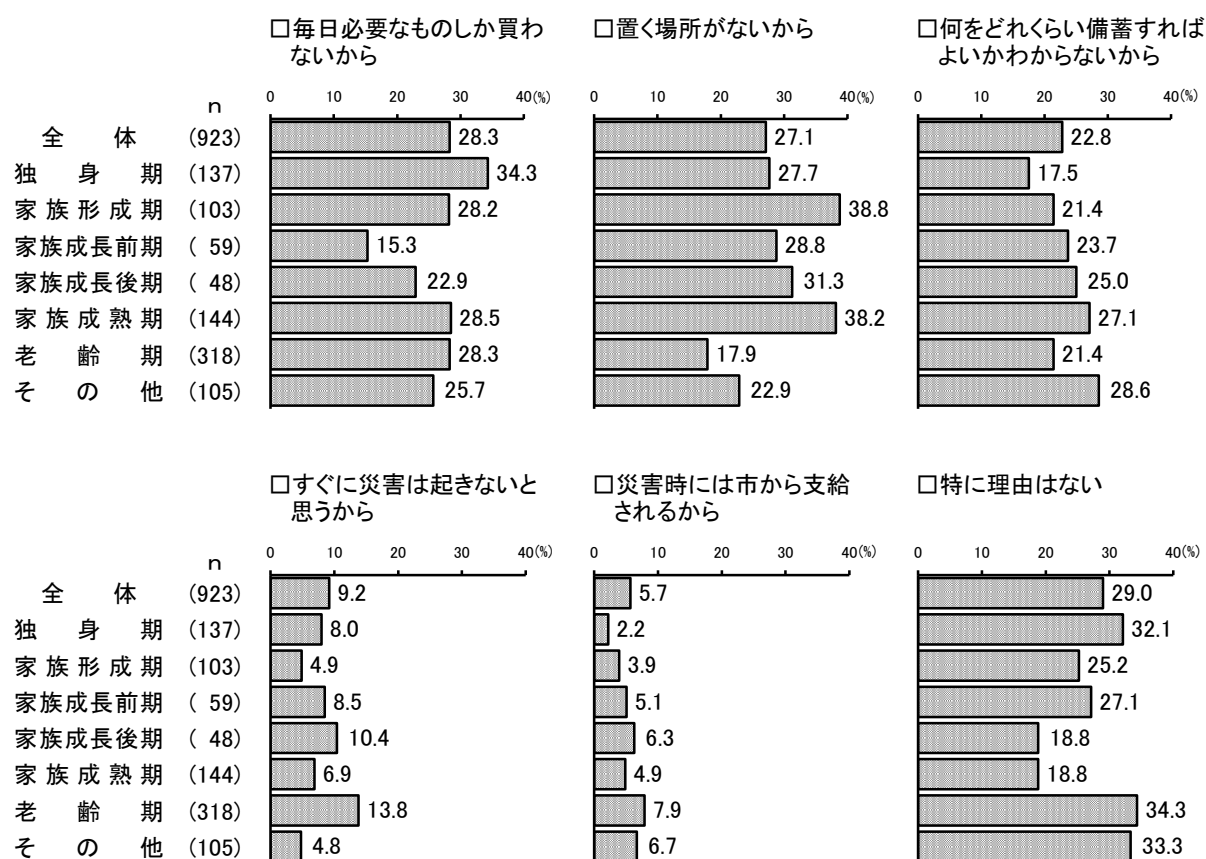
図3-12-2 飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）－性別、年齢別



性別にみると、「置く場所がないから」は女性（31.1%）が男性（23.5%）より7.6ポイント高くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（26.6%）が男性（19.7%）より6.9ポイント高くなっている。「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（11.5%）が女性（6.8%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は60～64歳（37.0%）で4割近くと多くなっている。「置く場所がないから」は50～59歳（36.4%）で4割近くと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は50～59歳（28.7%）と60～64歳（27.4%）で3割近くと多くなっている。（図3-12-2）

図3-12-3 飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）－ライフステージ別



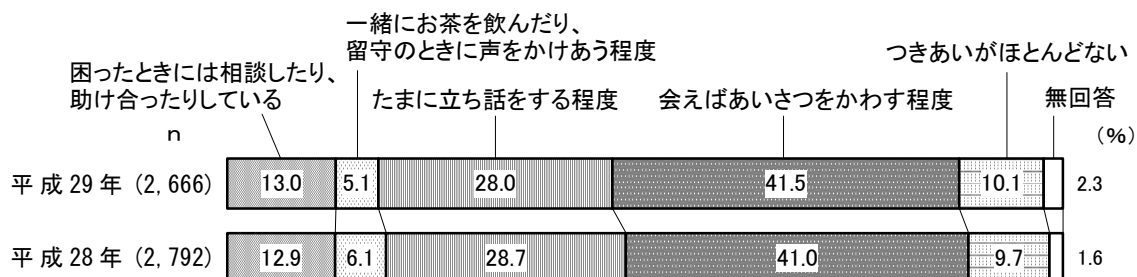
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（34.3%）で3割台半ばと多くなっている。「置く場所がないから」は家族形成期（38.8%）と家族成熟期（38.2%）で4割近くと多くなっている。（図3-12-3）

(13) 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割強

問19 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

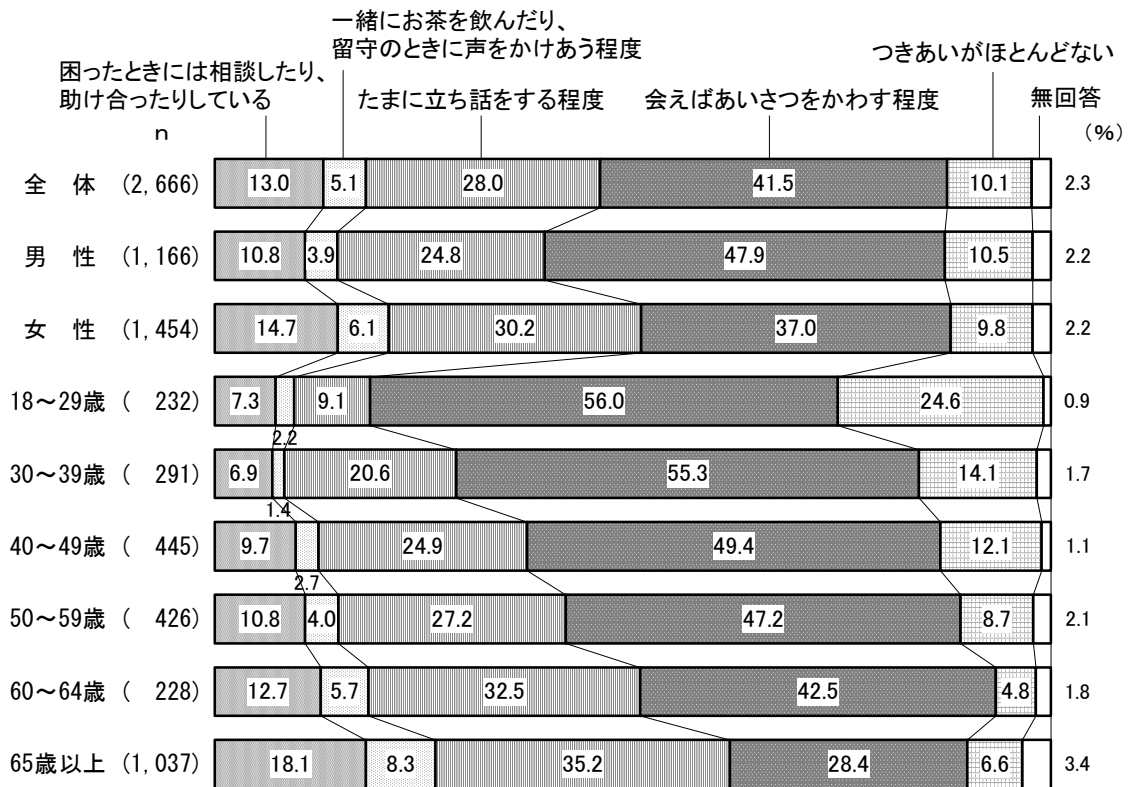
図3-13-1 隣近所とのつきあい方—全体、経年比較



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(41.5%)が最も多く4割強となっている。「たまに立ち話をする程度」(28.0%)は3割近くで、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(13.0%)が1割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-13-1)

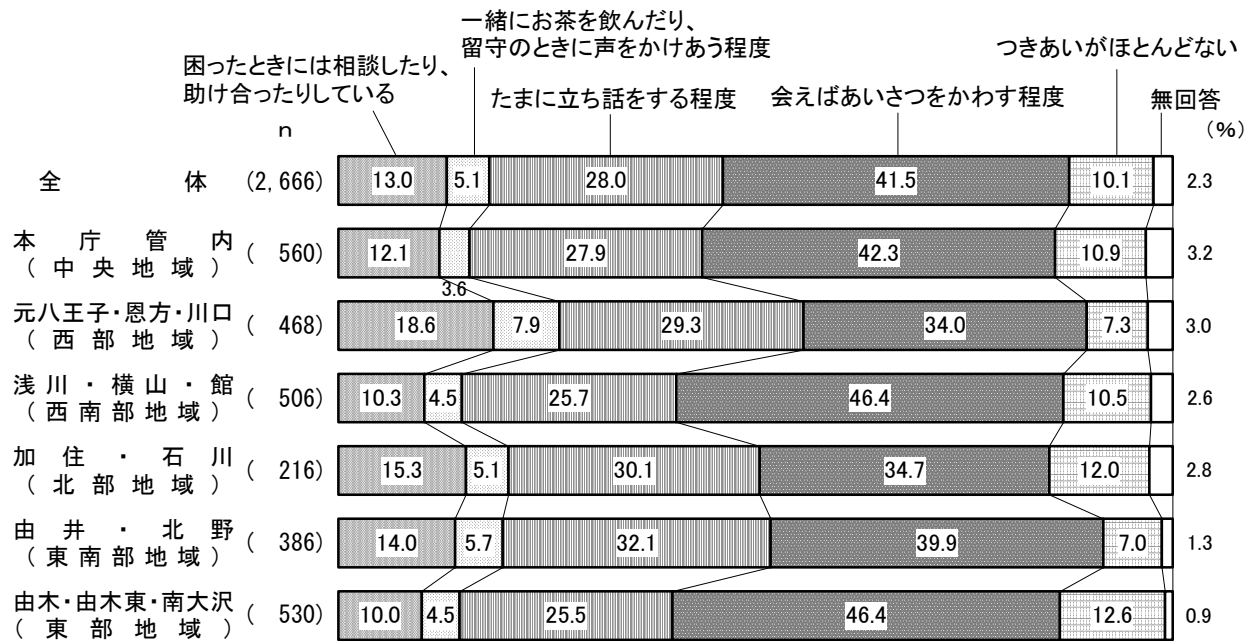
図 3-13-2 隣近所とのつきあい方—性別、年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（47.9%）が女性（37.0%）より10.9ポイント高くなっている。「たまに立ち話をする程度」は女性（30.2%）が男性（24.8%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は低い年代ほど割合が多くなっており、18~29歳（56.0%）で6割近くとなっている。「たまに立ち話をする程度」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（35.2%）で3割台半ばとなっている。「つきあいがほとんどない」は18~29歳（24.6%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-13-2）

図 3-13-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



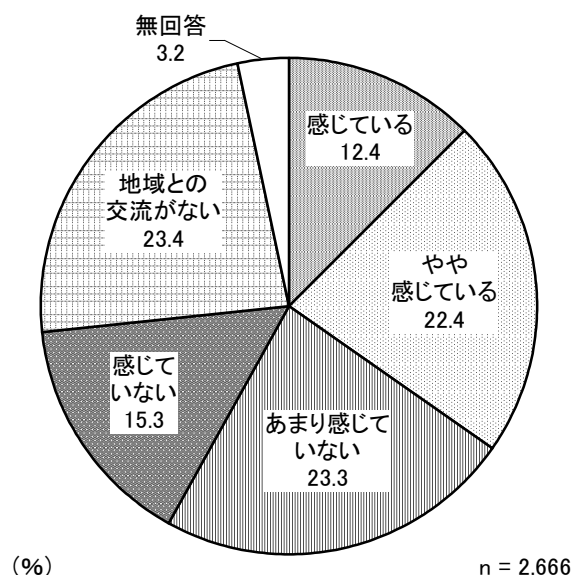
居住地域別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は浅川・横山・館（西南部地域）（46.4%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（46.4%）で5割近くと多くなっている。「たまに立ち話をする程度」は由井・北野（東南部地域）（32.1%）で3割強と多くなっている。「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（18.6%）で2割近くとなっている。（図 3-13-3）

(14) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

◇《感じる》が3割台半ば

問20 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じていますか。(○は1つだけ)

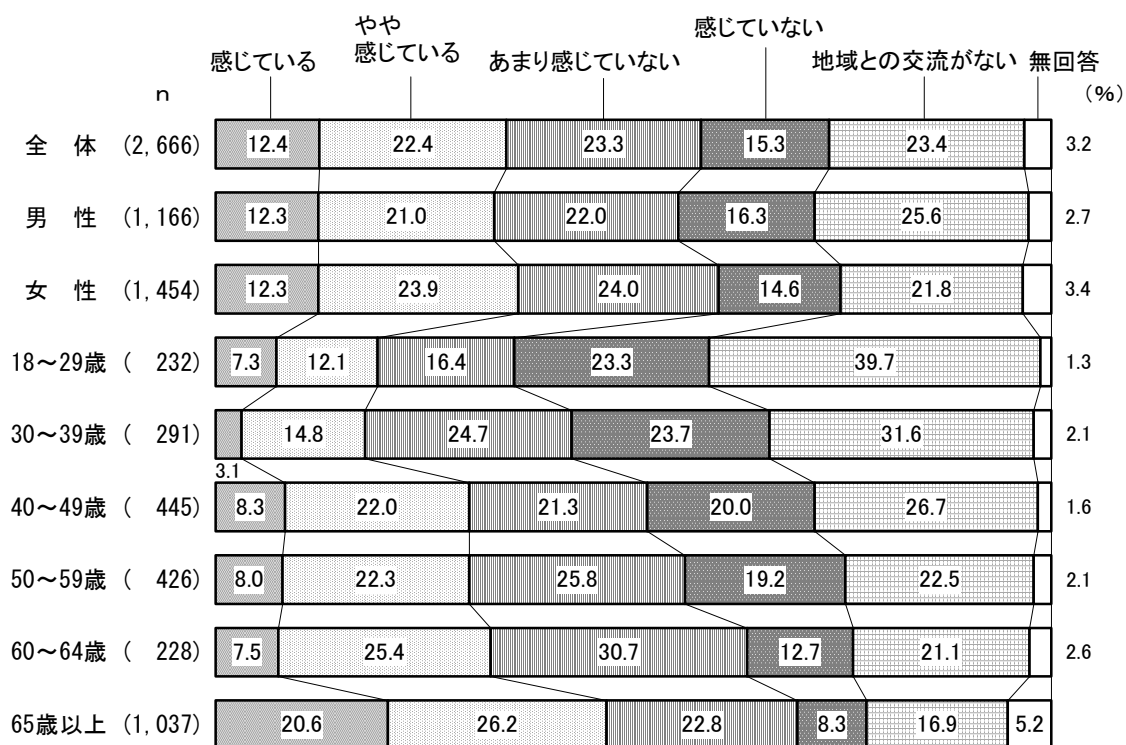
図3-14-1 地域での交流や活動による充実感や生きがい—全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じる」(12.4%)と「やや感じる」(22.4%)を合わせた《感じる》(34.8%)が3割台半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(23.3%)と「感じていない」(15.3%)を合わせた《感じていない》(38.6%)が4割近くとなっている。(図3-14-1)

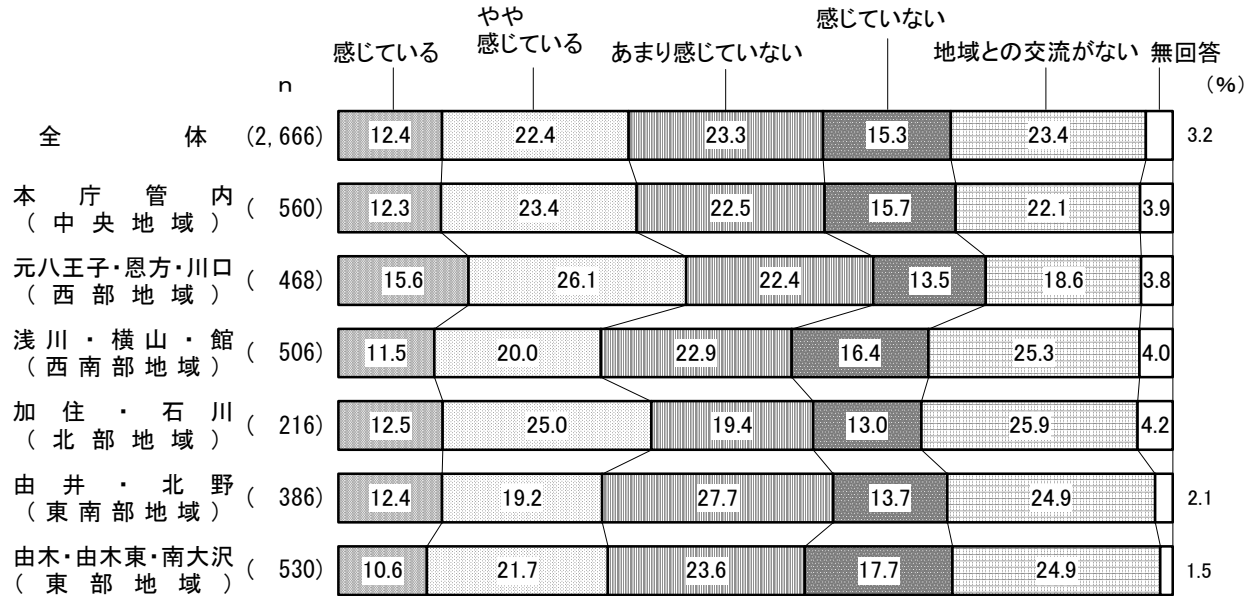
図3-14-2 地域での交流や活動による充実感や生きがい—性別、年齢別



性別にみると、「地域との交流がない」は男性（25.6%）が女性（21.8%）より3.8ポイント高くなっている。

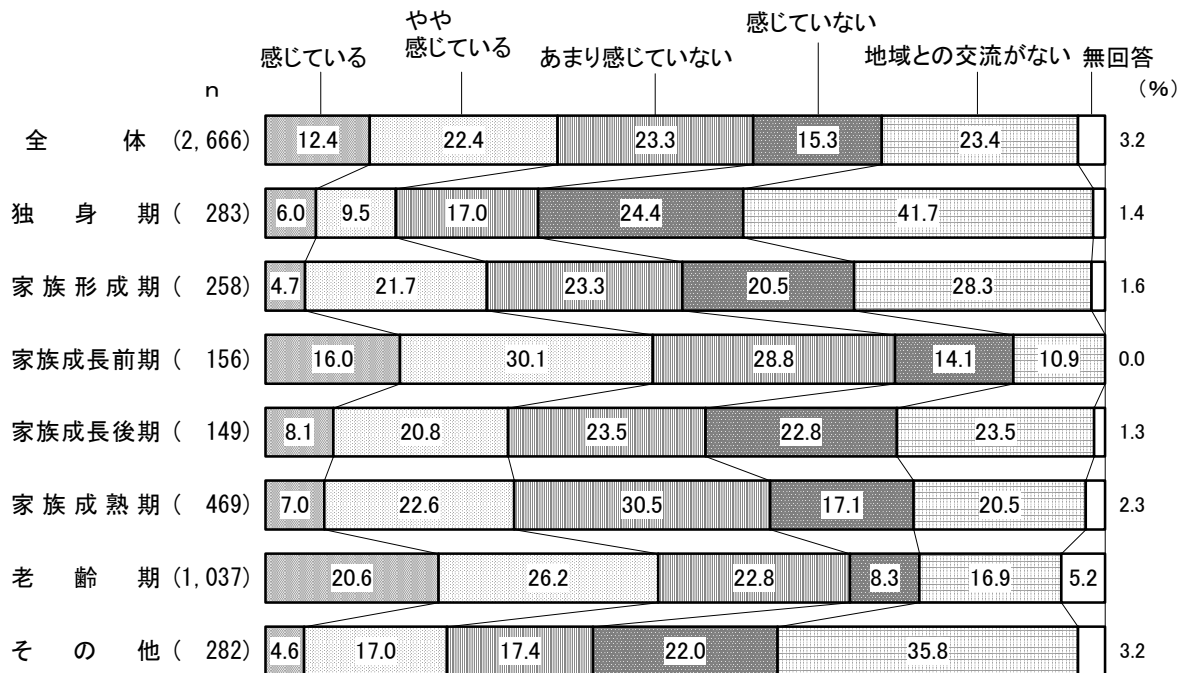
年齢別にみると、「感じている」は65歳以上（46.8%）で5割近くと多くなっている。一方、「感じていない」は30~39歳（48.4%）で5割近くと多くなっている。（図3-14-2）

図3-14-3 地域での交流や活動による充実感や生きがい—居住地域別



居住地域別にみると、「感じている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（41.7%）で4割強と多くなっている。一方、「感じていない」は由井・北野（東南部地域）（41.4%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.3%）で4割強と多くなっている。（図3-14-3）

図3-14-4 地域での交流や活動による充実感や生きがい—ライフステージ別



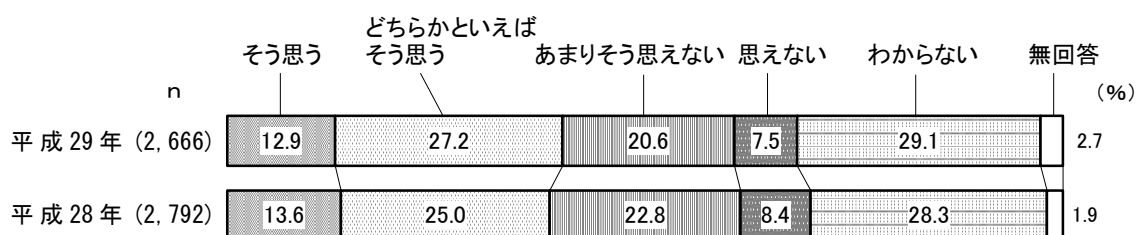
ライフステージ別にみると、「感じている」は老齢期（46.8%）と家族成長前期（46.1%）で5割近くと多くなっている。一方、「感じていない」は家族成熟期（47.6%）と家族成長後期（46.3%）で5割近くと多くなっている。（図3-14-4）

(15) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《そう思う》が約4割

問21 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

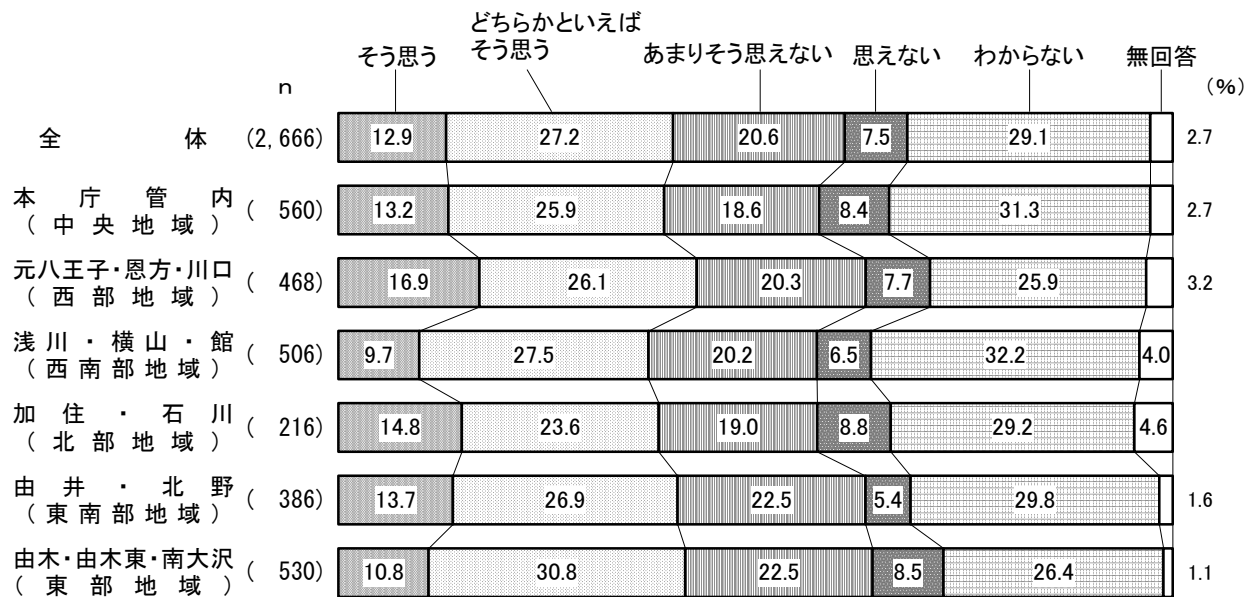
図3-15-1 地域と子どもたちとのかかわりあいー全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.9%)と「どちらかといえばそう思う」(27.2%)を合わせた《そう思う》(40.1%)が約4割となっている。一方、「あまりそう思えない」(20.6%)と「思えない」(7.5%)を合わせた《そう思えない》(28.1%)が3割近くとなっている。

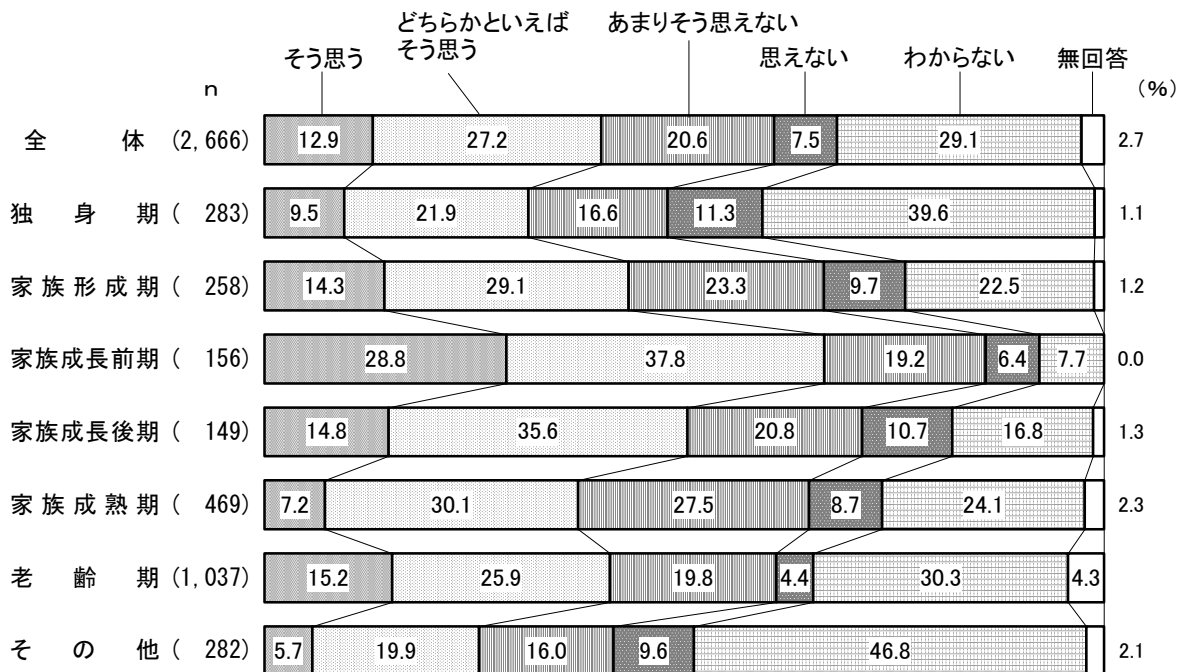
前回調査と比較すると、《そう思えない》は、平成28年(31.2%)より3.1ポイント減少している。(図3-15-1)

図3-15-2 地域と子どもたちとのかかわりあい—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（43.0%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.6%）で4割強と多くなっている。一方、「そう思えない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（31.0%）で3割強と多くなっている。（図3-15-2）

図3-15-3 地域と子どもたちとのかかわりあい—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（66.6%）で7割近くと多くなっている。一方、「そう思えない」は家族成熟期（36.2%）で4割近くと多くなっている。

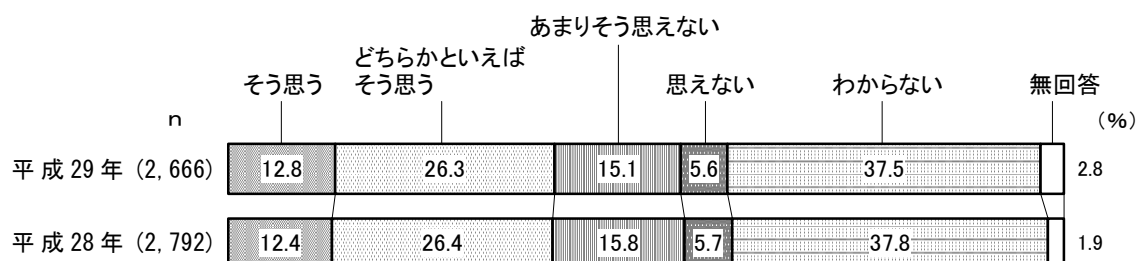
（図3-15-3）

(16) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

◇《そう思う》が4割弱

問22 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(○は1つだけ)

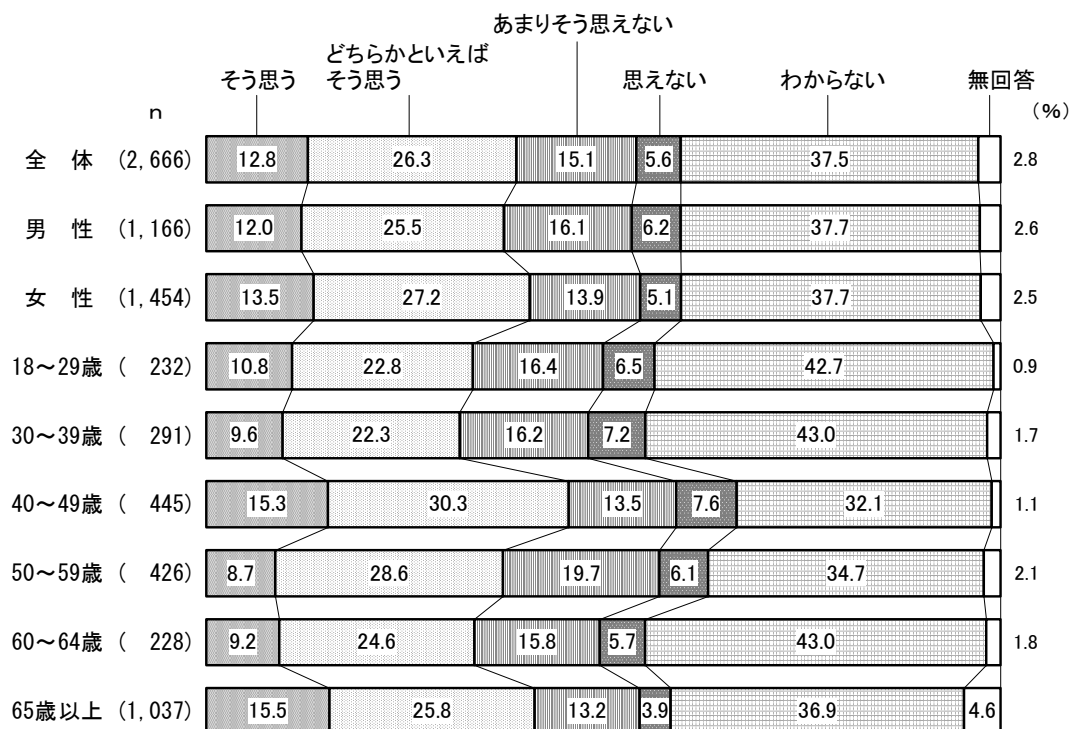
図3-16-1 地域と学校の協力による子どもたちの育み—全体、経年比較



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.8%)と「どちらかといえばそう思う」(26.3%)を合わせた《そう思う》(39.1%)が4割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」(15.1%)と「思えない」(5.6%)を合わせた《そう思えない》(20.7%)が約2割となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-16-1)

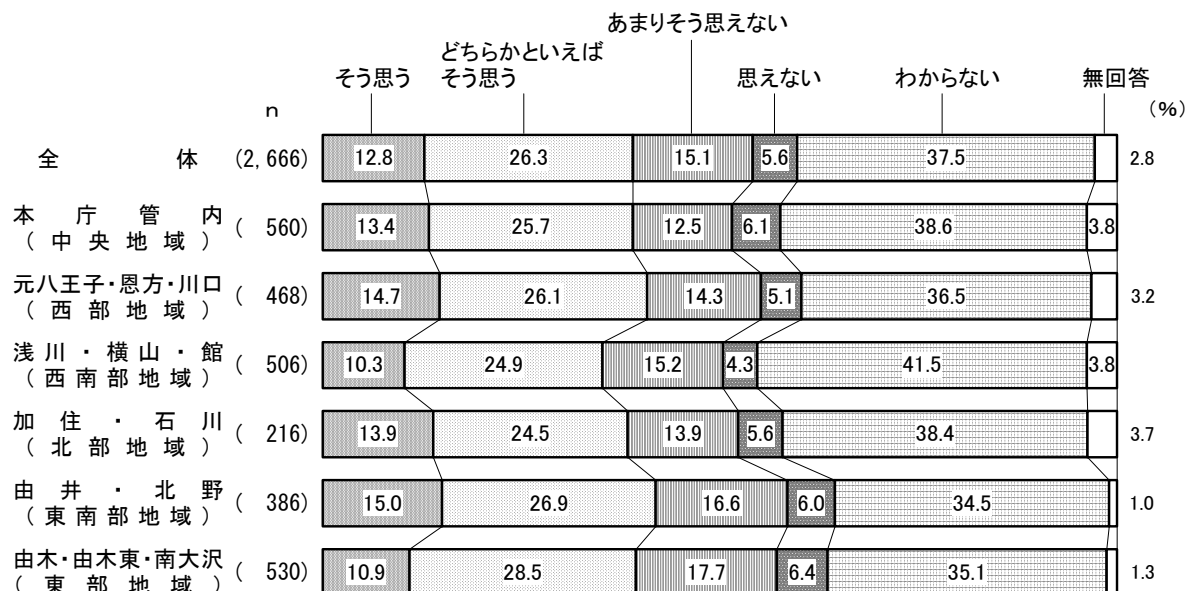
図3-16-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み—性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は女性（40.7%）が男性（37.5%）より3.2ポイント高くなっている。一方、「そう思えない」は男性（22.3%）が女性（19.0%）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は40~49歳（45.6%）で4割台半ばと多くなっている。一方、「そう思えない」は50~59歳（25.8%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-16-2）

図3-16-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み—居住地域別



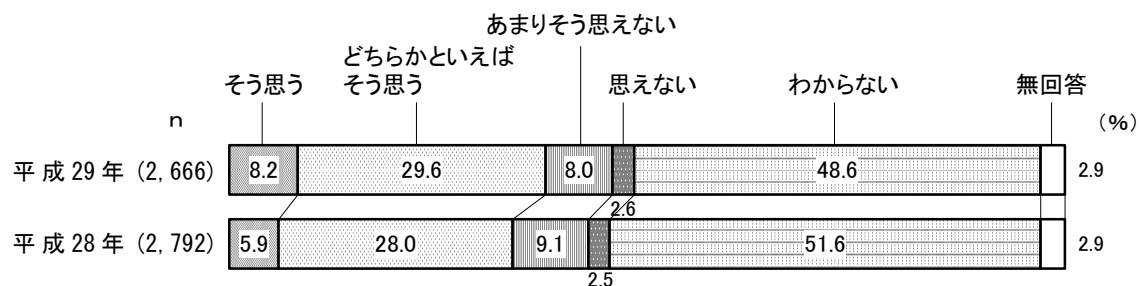
居住地域別にみると、「そう思う」は由井・北野（東南部地域）（41.9%）で4割強と多くなっている。一方、「そう思えない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（24.1%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-16-3）

(17) 市などの支援による子育ての状況

◇《そう思う》が4割近く

問23 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。(○は1つだけ)

図3-17-1 市などの支援による子育ての状況—全体、経年比較

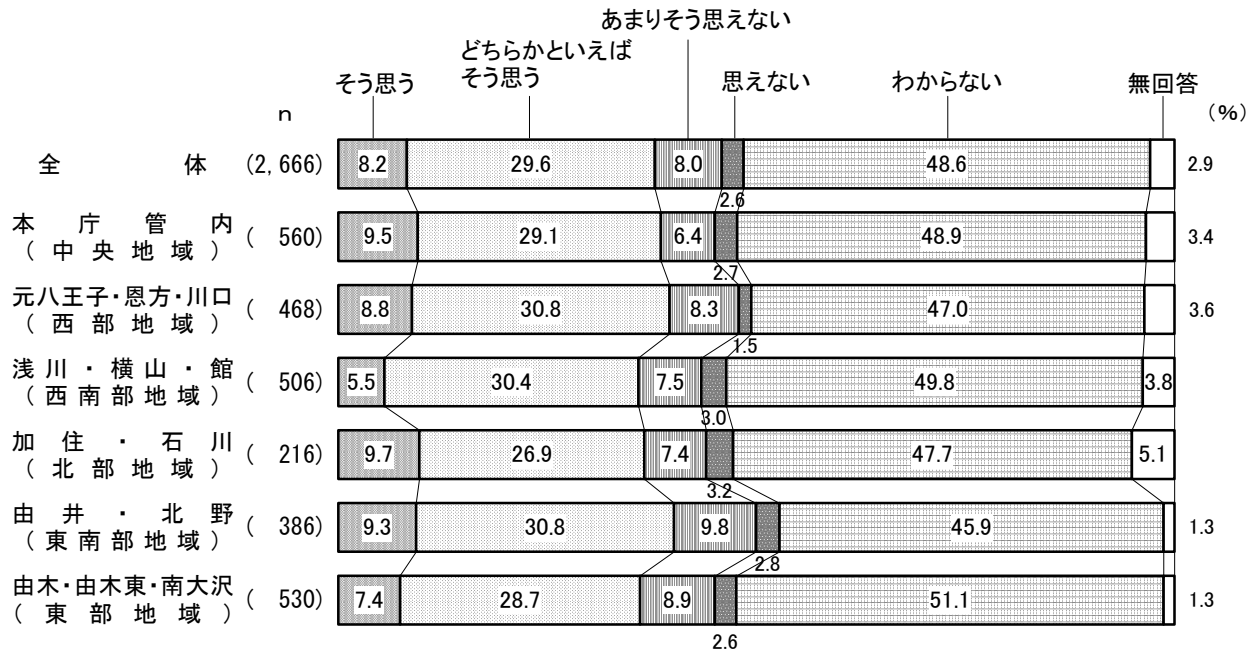


子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか聞いたところ、「そう思う」(8.2%)と「どちらかといえばそう思う」(29.6%)を合わせた《そう思う》(37.8%)が4割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(8.0%)と「思えない」(2.6%)を合わせた《そう思えない》(10.6%)が約1割となっている。

前回調査と比較すると、《そう思う》は、平成28年(33.9%)より3.9ポイント増加している。

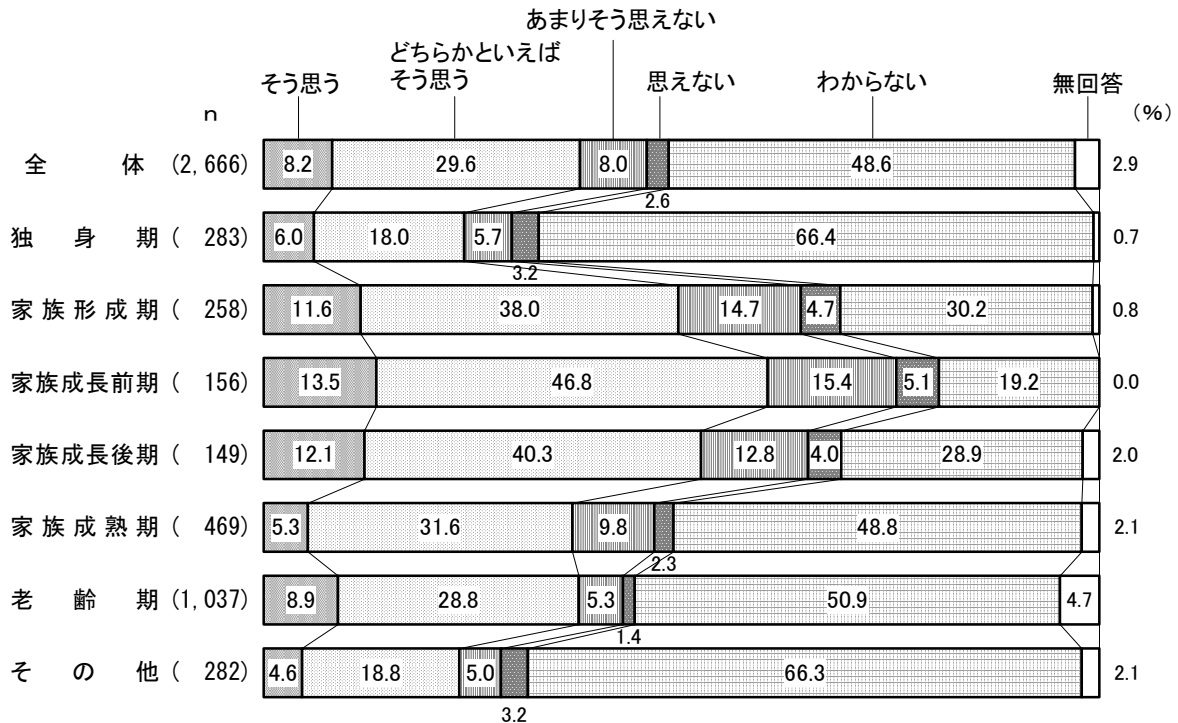
(図3-17-1)

図3-17-2 市などの支援による子育ての状況—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は由井・北野（東南部地域）（40.1%）で約4割と多くなっている。（図3-17-2）

図3-17-3 市などの支援による子育ての状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（60.3%）で約6割と多くなっている。一方、「そう思えない」は家族成長前期（20.5%）で約2割と多くなっている。（図3-17-3）

(18) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問23で「あまりそう思えない」または「思えない」とお答えの方に）

問23-1 そのように感じる理由があれば、お書きください。（自由記述）

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていないかについて「あまりそう思えない」または「思えない」と答えた283人に、そう思う理由を自由記述形式で聞いたところ、156人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

- 八王子駅南口は綺麗になったが、北口ではベビーカー利用者などに配慮されていると思えない。ユーロード付近は歩道が狭く、汚い。買い物しやすい場所なのに残念。（男性18～29歳）
- 以前子育てサークルのことで子ども家庭支援センターの方と相談する機会があったが、あまり協力的ではなかった。児童館も少なく、もっと未就園児の親子がのびのび楽しく遊べる場所が増えてほしいと思う。（女性30～39歳）
- 金銭的な支援しか感じず、その金額も少ないと思う。実際にはいろいろと支援して下さっているのかもしれないが、実感できていない。（男性30～39歳）
- 近所には学校の数以上に学習塾が乱立している状況。これは学校教育のレベル低下の裏付けで、学校教育以外に教育費を負担せざるを得ない状況になっていることを感じる。先日学校公開に参加した際、教育内容の希薄さを感じた。地域によって校舎、体育館などの教育設備が不平等であることも感じている。（男性30～39歳）
- 防犯ブザーの配布、防犯カメラの設置などが充実していないと思う。（女性40～49歳）
- 集合住宅が多く、地域で子どもを見守れていない。（女性40～49歳）
- 自宅から離れた保育園にしか入園許可されず不便な生活を強いられている方を知ったため。（女性40～49歳）
- 父子家庭に対してもっと多くの支援を考えてほしい。（男性40～49歳）
- 経済的支援を含め、八王子市の福祉は遅れている。また小児科産科系を初めとし、病院が少なく、公立医院がまったくないのも問題視してほしい。（男性40～49歳）
- 通学路で危険を伴う場所の取り締まりを警察がなかなか行ってくれない。保護者が協力して「馬出し※」などを行っている。市からの支援があるとありがたい。（男性40～49歳）
（※ 移動式の通行止め看板等を配置すること）
- 犯罪が市内のいたるところであり、交通事故の防止対策や駅前でのたばこの受動喫煙対策として、全面禁煙にするなどの対策の強化が不十分であるため。（男性40～49歳）
- 子どもたちのクラブ活動に対して補助が少ない。ボールが使えない公園ばかり。（男性40～49歳）
- 支援は子供が小さいうちだけで、2人、3人と産んでも収入制限は子供の人数に関係なく同じ。高校生以上、または大学生以上と一番お金のかかる子供たちは控除の対象から外されて何の支援も受けることができず、特に八王子独自の支援もなく、不安を感じているから。（男性40～49歳）
- 地域の高齢化が進んでおり、小学生の下校サポートにも限界があると感じるため。（女性50～59歳）
- 共働きがあたりまえになっているのに待機児童がたくさんいるなど、問題が多いと思う。（女性60～64歳）
- 共働き家庭だと、幼児が病気になった場合、困る人が多い。そのような状況で援助があるとよい。（女性65歳以上）
- 市立小・中学校の教師の仕事ぶりに不満足な経験をし、市の教育委員会の指導にも落胆したため。（男性65歳以上）

(19) 市民協働の進捗状況

◇《《そう思う》》が6割近く

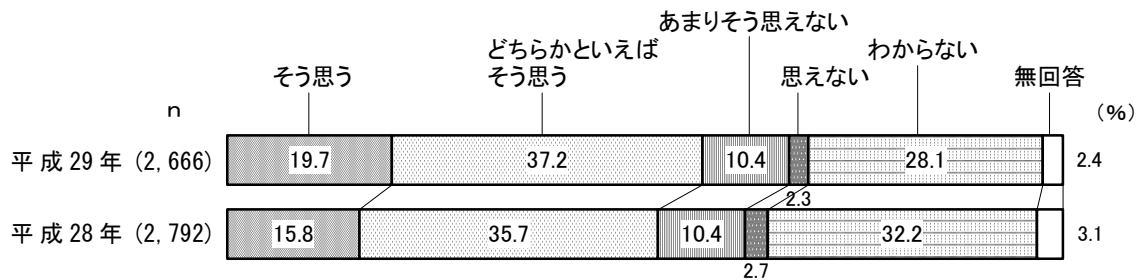
問24 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(○は1つだけ)

※市民協働によるまちづくりとは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催
- 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方が担う
アドプト制度
- 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見募集）の実施

など

図3-19-1 市民協働の進捗状況－全体、経年比較

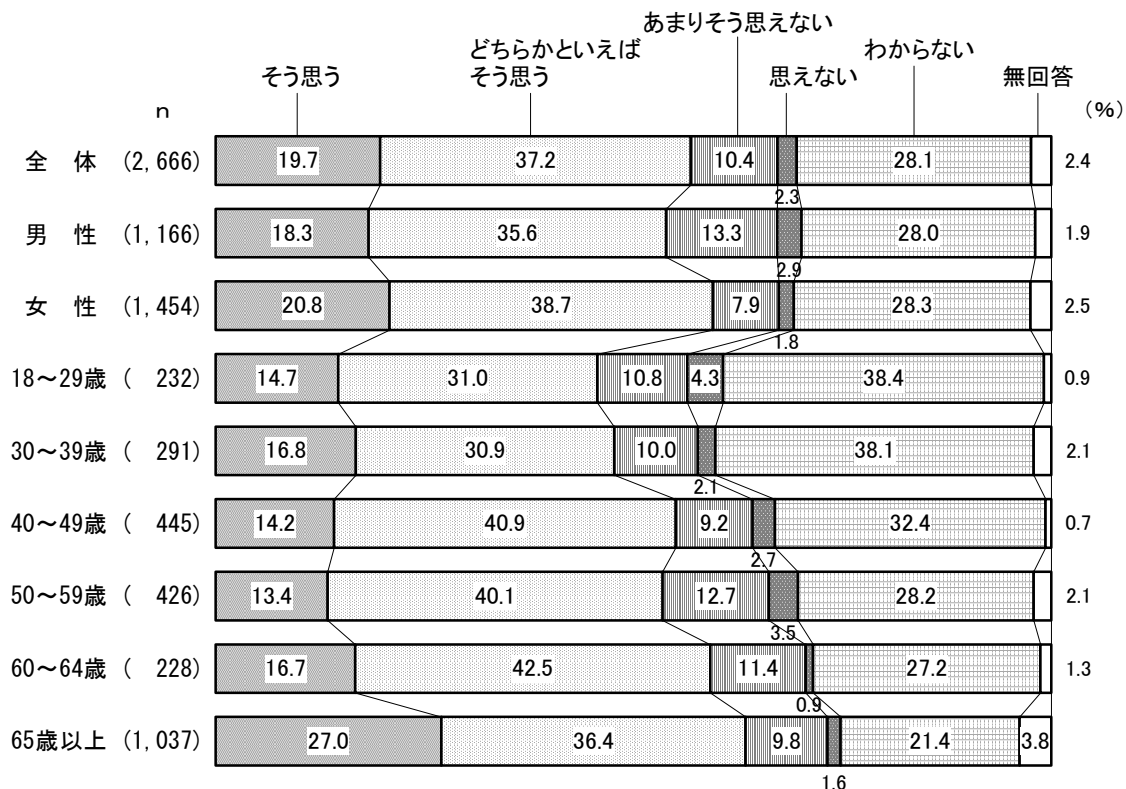


市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」(19.7%)と「どちらかといえばそう思う」(37.2%)を合わせた《《そう思う》》(56.9%)が6割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(10.4%)と「思えない」(2.3%)を合わせた《《そう思えない》》(12.7%)が1割強となっている。

前回調査と比較すると、《《そう思う》》は、平成28年(51.5%)より5.4ポイント増加している。

(図3-19-1)

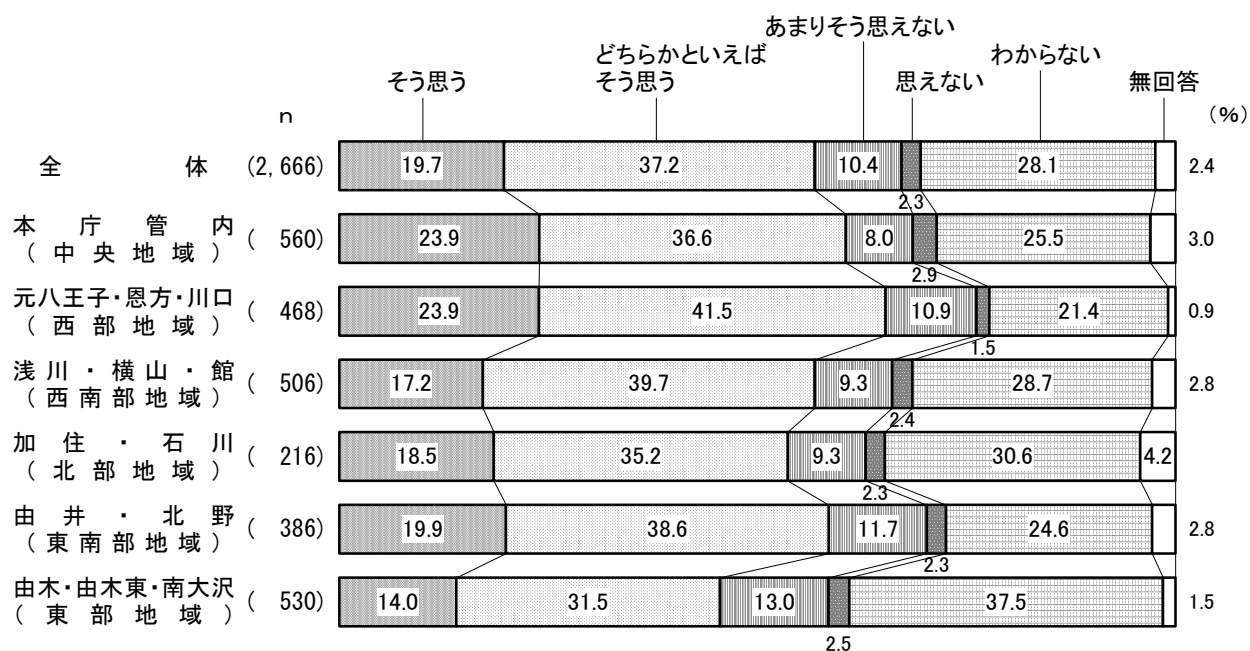
図 3-19-2 市民協働の進捗状況—性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は女性（59.5%）が男性（53.9%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「そう思えない」は男性（16.2%）が女性（9.7%）より6.5ポイント高くなっている。年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（63.4%）で6割強と多くなっている。

(図 3-19-2)

図 3-19-3 市民協働の進捗状況—居住地域別



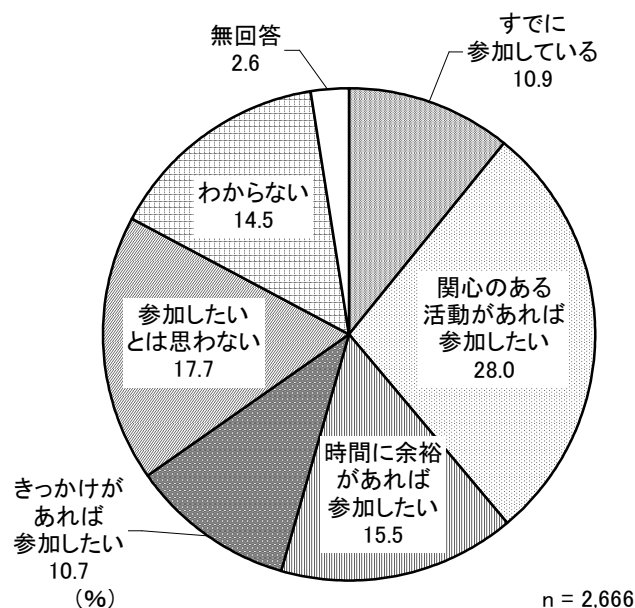
居住地域別にみると、「そう思う」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（65.4%）で6割台半ばと多くなっている。(図 3-19-3)

(20) 市民協働によるまちづくりへの参加意向

◇「関心のある活動があれば参加したい」が3割近く

問25 あなたは、問24で例示したような市民協働によるまちづくりに参加したいと思いますか。
(○は1つだけ)

図3-20-1 市民協働によるまちづくりへの参加意向—全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

市民協働によるまちづくりに参加したいと思うか聞いたところ、「すでに参加している」(10.9%)は約1割となっている。「関心のある活動があれば参加したい」(28.0%)が3割近く、「時間に余裕があれば参加したい」(15.5%)が1割台半ば、「きっかけがあれば参加したい」(10.7%)が約1割となっている。一方、「参加したいとは思わない」(17.7%)が2割近くとなっている。

(図3-20-1)

図3-20-2 市民協働によるまちづくりへの参加意向—性別、年齢別

n	すでに参加している		関心のある活動があれば参加したい		きっかけがあれば参加したい		参加したいとは思わない		わからない		無回答 (%)
	10.9	28.0	15.5	10.7	17.7	14.5	2.6				
全体 (2,666)	10.9	28.0	15.5	10.7	17.7	14.5	2.6				
男性 (1,166)	11.8	27.4	16.0	9.8	18.7	14.2	2.1				
女性 (1,454)	9.9	28.7	15.4	11.4	17.1	14.8	2.7				
18~29歳 (232)	3.4	32.3	21.6	9.5	17.7	13.8	1.7				
30~39歳 (291)	6.9	29.6	18.9	9.6	19.9	12.7	2.4				
40~49歳 (445)	7.4	24.9	21.6	10.6	19.1	16.0	0.4				
50~59歳 (426)	9.4	28.6	19.5	8.0	20.7	12.0	1.9				
60~64歳 (228)	11.0	26.3	16.7	11.4	19.3	13.6	1.8				
65歳以上 (1,037)	15.4	28.3	8.8	12.2	15.1	15.9	4.2				

性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「関心のある活動があれば参加したい」は18~29歳（32.3%）で3割強と多くなっている。（図3-20-2）

図3-20-3 市民協働によるまちづくりへの参加意向—居住地域別

n	すでに参加している		関心のある活動があれば参加したい		きっかけがあれば参加したい		参加したいとは思わない		わからない		無回答 (%)
	10.9	28.0	15.5	10.7	17.7	14.5	2.6				
全体 (2,666)	10.9	28.0	15.5	10.7	17.7	14.5	2.6				
本庁管内 (中央地域) (560)	10.7	24.8	16.1	10.7	20.2	14.3	3.2				
元八王子・恩方・川口 (西部地域) (468)	13.7	24.6	12.4	13.2	17.3	16.9	1.9				
浅川・横山・館 (西南部地域) (506)	9.7	29.1	15.6	9.3	18.0	14.8	3.6				
加住・石川 (北部地域) (216)	12.5	27.3	14.4	11.6	16.7	14.8	2.8				
由井・北野 (東南部地域) (386)	12.4	27.5	19.7	11.9	13.7	12.7	2.1				
由木・由木東・南大沢 (東部地域) (530)	7.9	34.2	14.9	8.7	18.7	13.6	2.1				

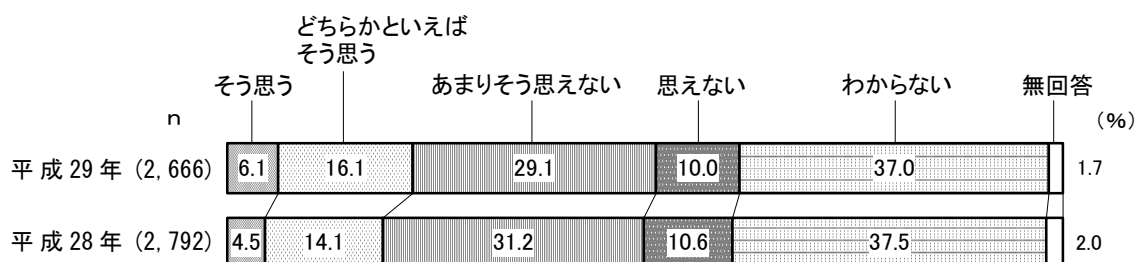
居住地域別にみると、「関心のある活動があれば参加したい」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-20-3）

(21) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》》が2割強

問26 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-21-1 大学等のまちづくりへの活用—全体、経年比較

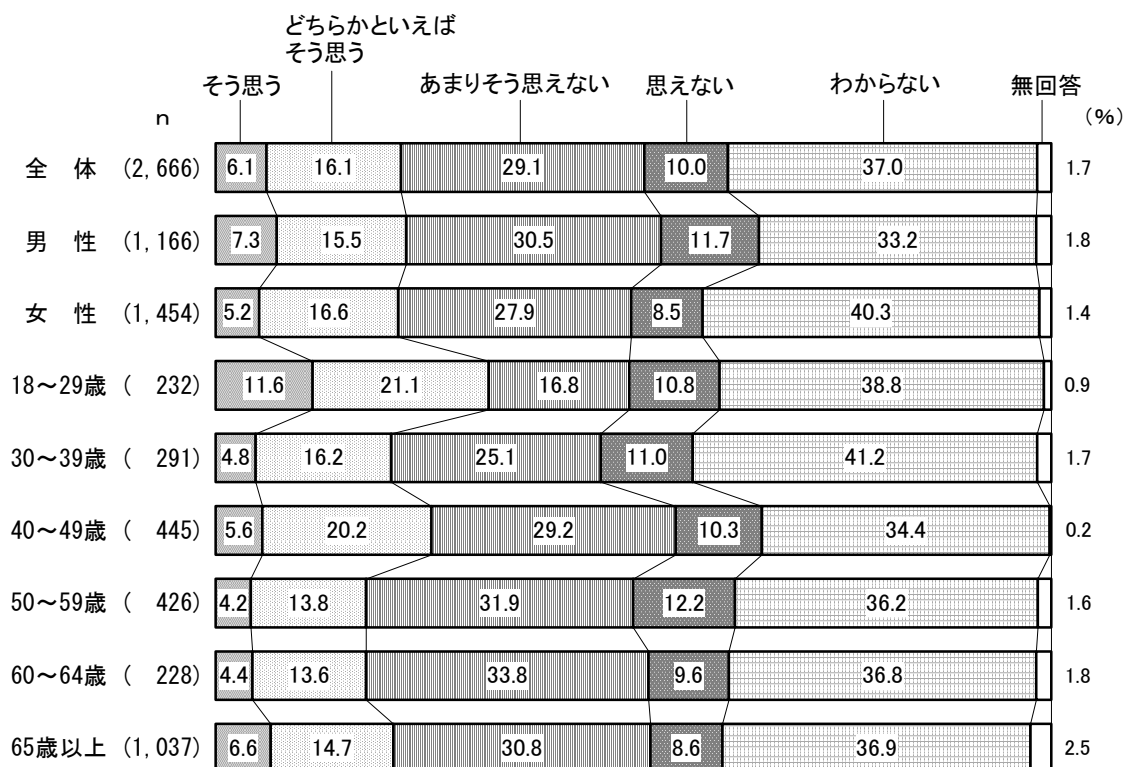


大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.1%)と「どちらかといえばそう思う」(16.1%)を合わせた《《そう思う》》(22.2%)が2割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(29.1%)と「思えない」(10.0%)を合わせた《《そう思えない》》(39.1%)が4割弱となっている。

前回調査と比較すると、《《そう思う》》は、平成28年(18.6%)より3.6ポイント増加している。

(図3-21-1)

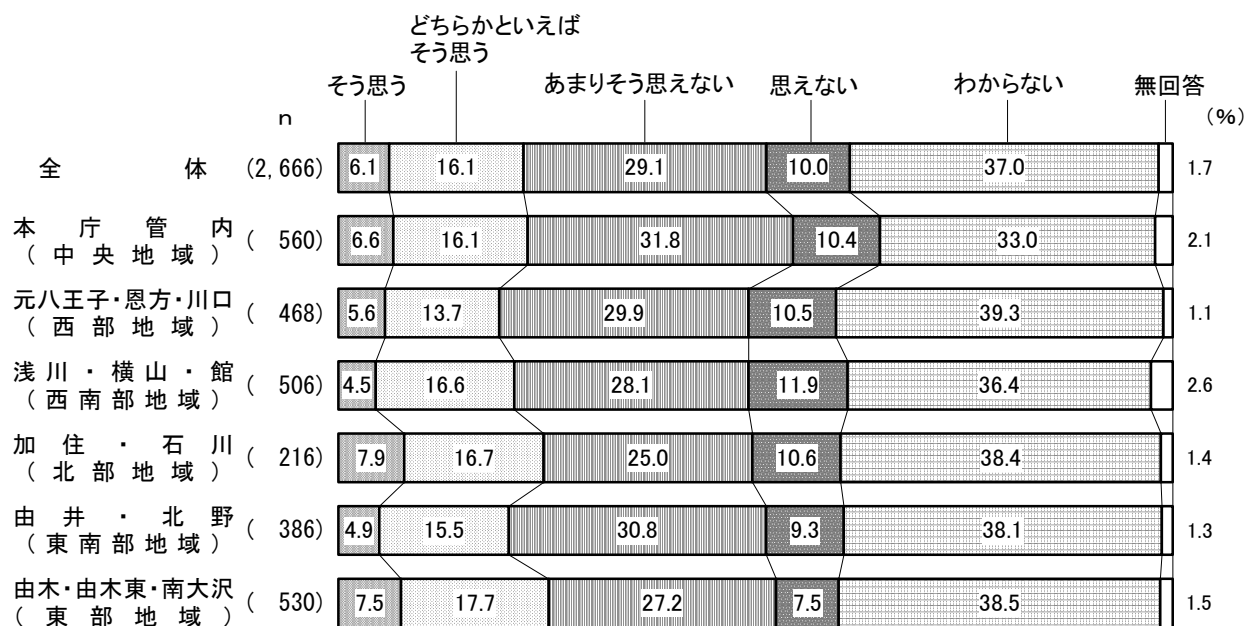
図3-21-2 大学等のまちづくりへの活用—性別、年齢別



性別にみると、「**そう思えない**」は男性 (42.2%) が女性 (36.4%) より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「**そう思う**」は18~29歳 (32.7%) で3割強と多くなっている。一方、「**そう思えない**」は50~59歳 (44.1%) で4割台半ばと多くなっている。(図3-21-2)

図3-21-3 大学等のまちづくりへの活用—居住地域別



居住地域別にみると、「**そう思う**」は由木・由木東・南大沢 (東部地域) (25.2%) と加住・石川 (北部地域) (24.6%) で2割台半ばと多くなっている。一方、「**そう思えない**」は本庁管内 (中央地域) (42.2%) で4割強と多くなっている。(図3-21-3)

(22) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

◇「半年に1～2回程度」が2割近く

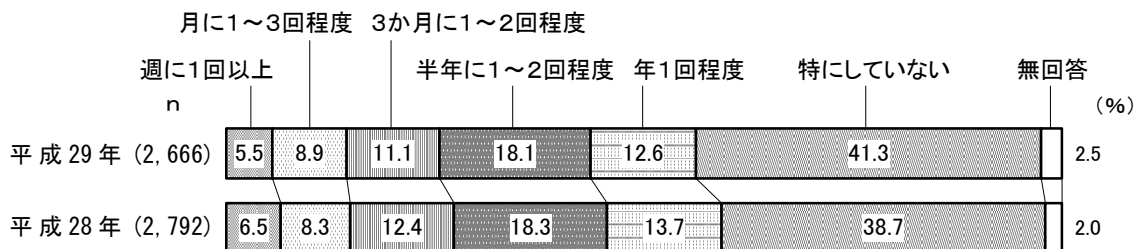
問27 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

など

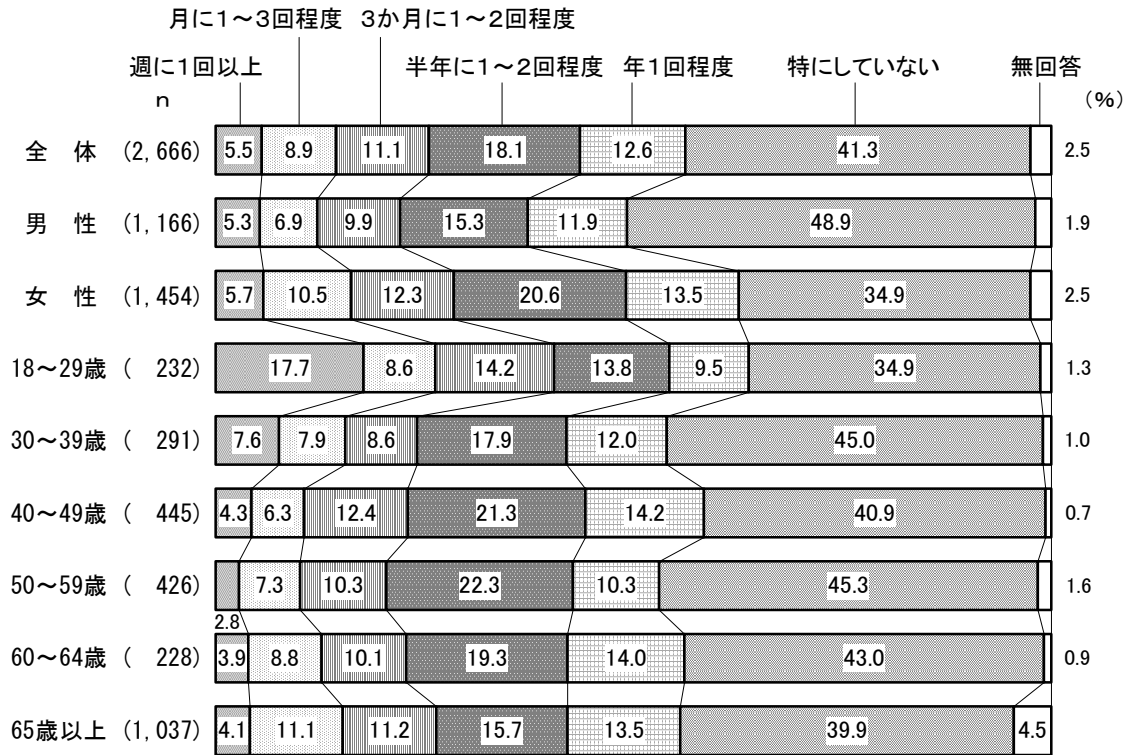
図3-22-1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」(18.1%)が2割近く、「年1回程度」(12.6%)が1割強となっている。一方、「特にしていない」(41.3%)は4割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-22-1)

図3-22-2 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—性別、年齢別



性別にみると、「半年に1~2回程度」は女性（20.6%）が男性（15.3%）より5.3ポイント高くなっている。「特にしていない」は男性（48.9%）が女性（34.9%）より14.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」は18~29歳（17.7%）で2割近くと多くなっている。

(図3-22-2)

図3-22-3 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—居住地域別



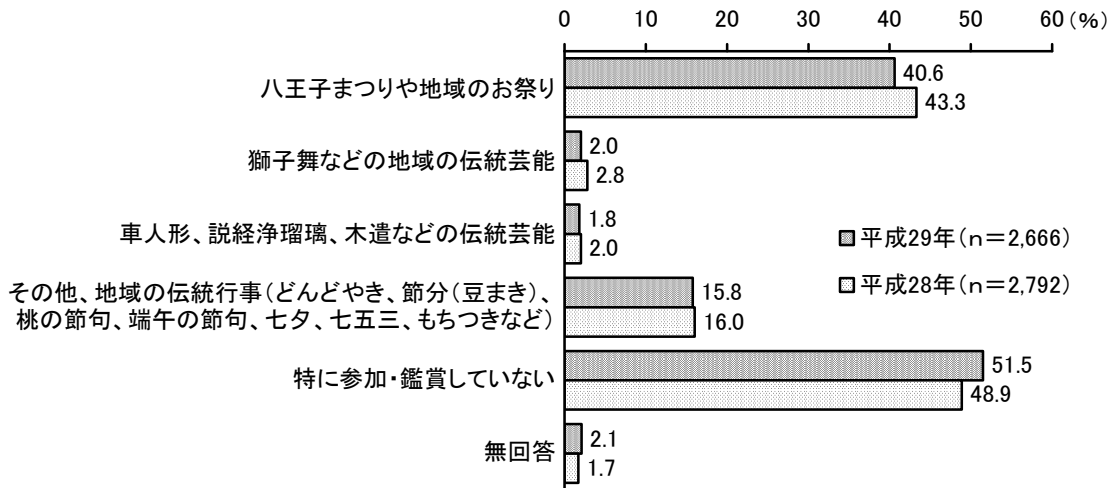
居住地域別にみると、「半年に1~2回程度」は由井・北野（東南部地域）（20.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（20.4%）で約2割と多くなっている。(図3-22-3)

(23) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が約4割

問28 あなたは、この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（○はいくつでも）

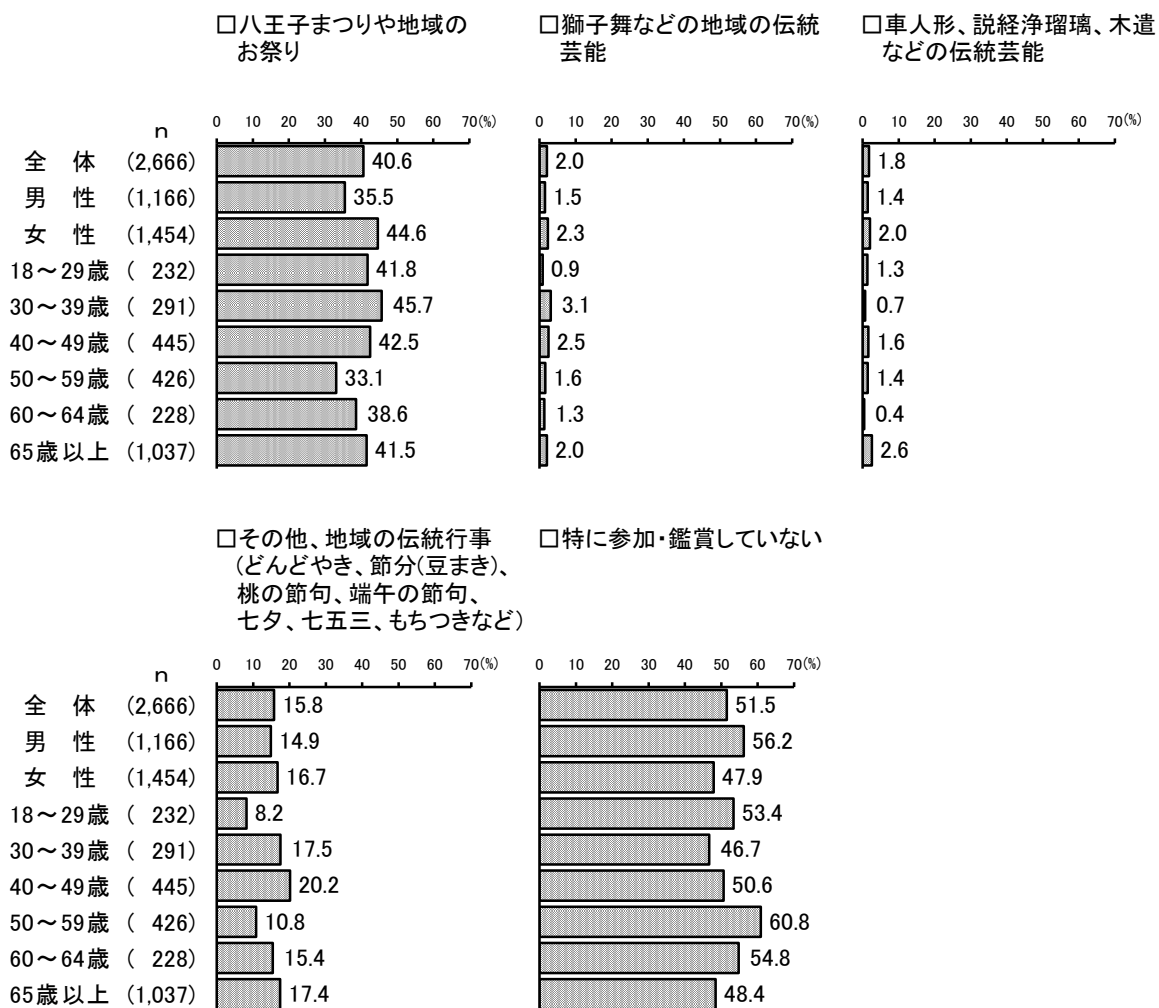
図3-23-1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」（40.6%）が最も多く約4割となっている。次いで「その他、地域の伝統行事（どんとやき、節分（豆まき）、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど）」（15.8%）が1割台半ばとなっている。「特に参加・鑑賞していない」（51.5%）は5割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-23-1）

図3-23-2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況—性別、年齢別

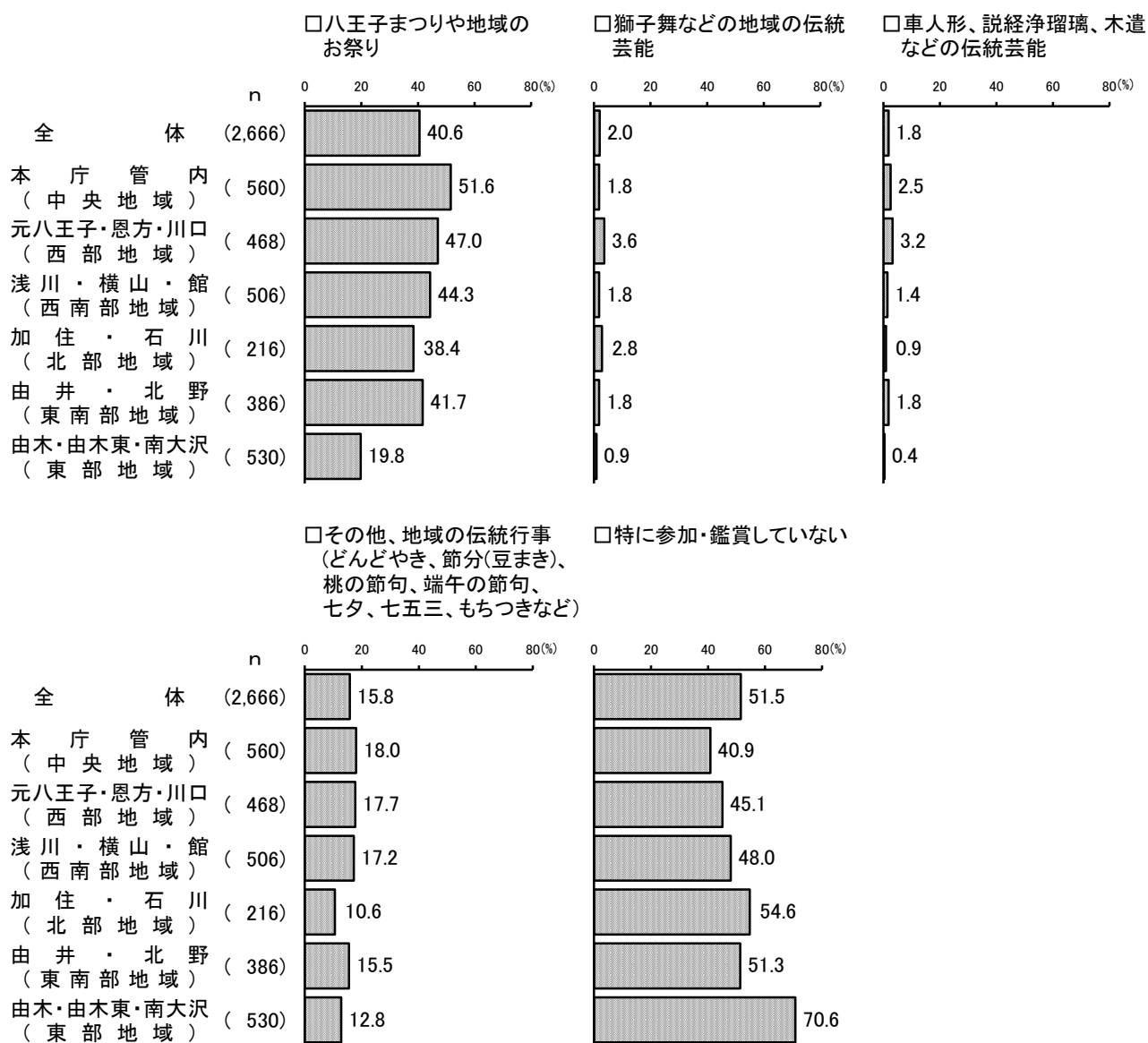


性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性（44.6%）が男性（35.5%）より9.1ポイント高くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は男性（56.2%）が女性（47.9%）より8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（45.7%）で4割台半ばと多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は50～59歳（60.8%）で約6割と多くなっている。

(図3-23-2)

図3-23-3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況—居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（51.6%）で5割強と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.6%）で約7割と多くなっている。（図3-23-3）

(24) 海外友好交流都市の周知度

◇「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」が3割弱

問29 (1) あなたは、市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っていますか。

(○は1つだけ)

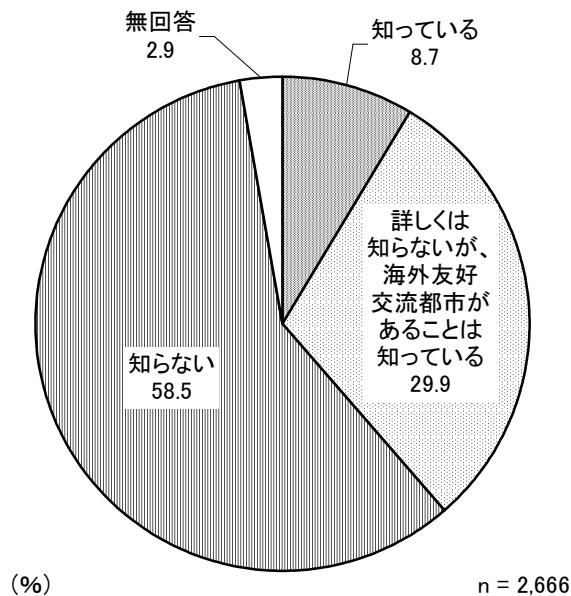
※「海外友好交流都市との交流」とは・・・

○平成18年の市制施行90周年を機に、幅広い市民交流が実現できるよう、市は中国・泰安(たいあん)市、台湾・高雄(たかお)市、韓国・始興(しふん)市の3都市との間で友好交流協定を締結し、文化・教育・スポーツなど様々な面で交流を実施しています。

交流実績：海外友好交流都市写真展、八王子まつりへの出演、サッカー交流 など

○また、平成29年に市制100周年の節目を迎えるにあたり、本市中町出身の医師・肥沼 信次(こえぬま のぶつぐ)博士ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市を新たな海外友好交流都市候補に選定し、友好交流協定の締結に向けて準備を進めています。

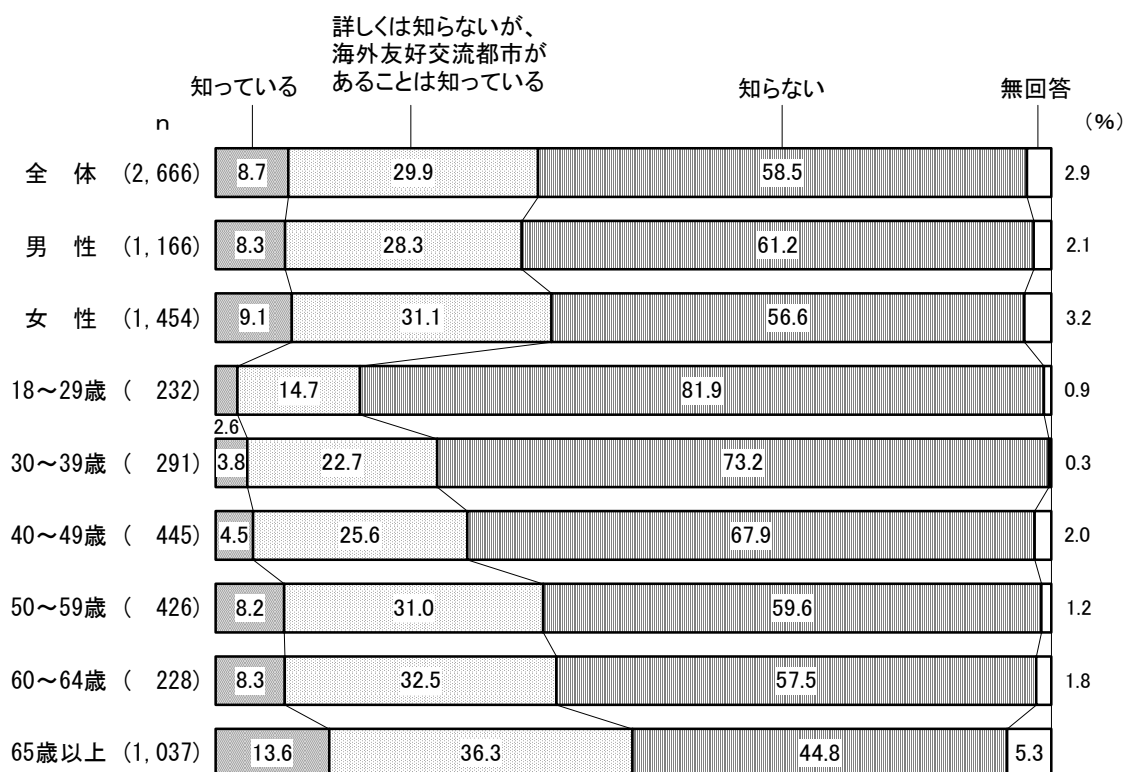
図3-24-1 海外友好交流都市の周知度－全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

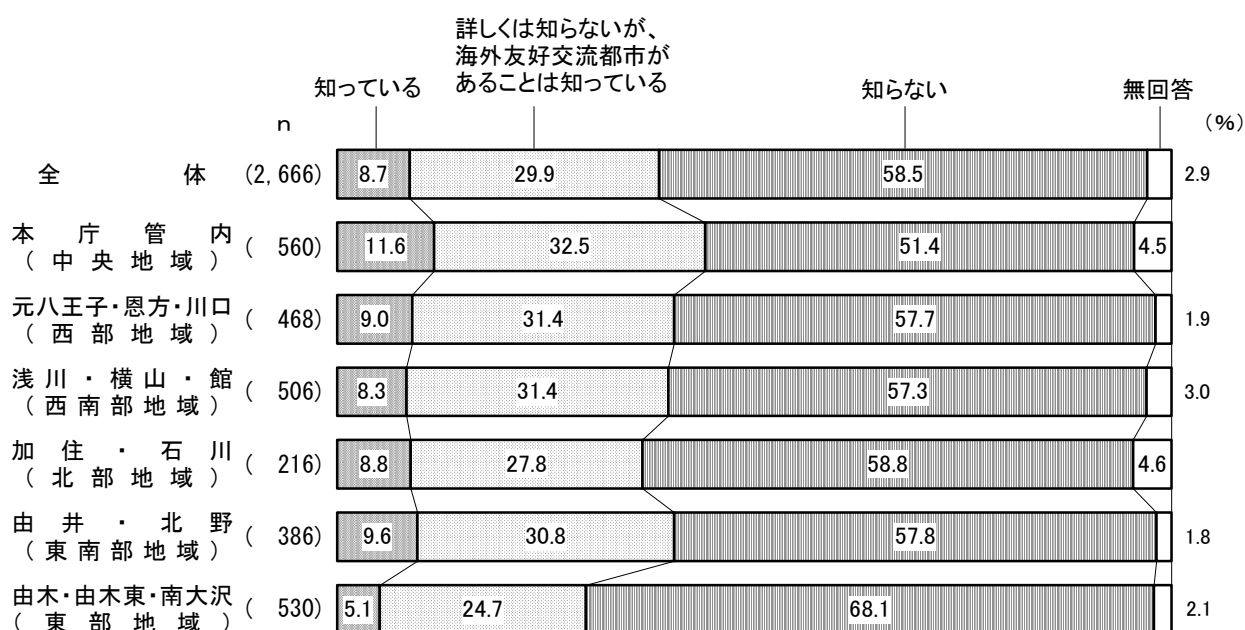
市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(8.7%)は1割近くとなっている。「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」(29.9%)が3割弱で、「知らない」(58.5%)は6割近くとなっている。(図3-24-1)

図3-24-2 海外友好交流都市の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「知らない」は男性(61.2%)が女性(56.6%)より4.6ポイント高くなっている。年齢別にみると、「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上(36.3%)で4割近くとなっている。「知らない」は低い年代ほど割合が多くなっており、18～29歳(81.9%)で8割強となっている。(図3-24-2)

図3-24-3 海外友好交流都市の周知度－居住地域別



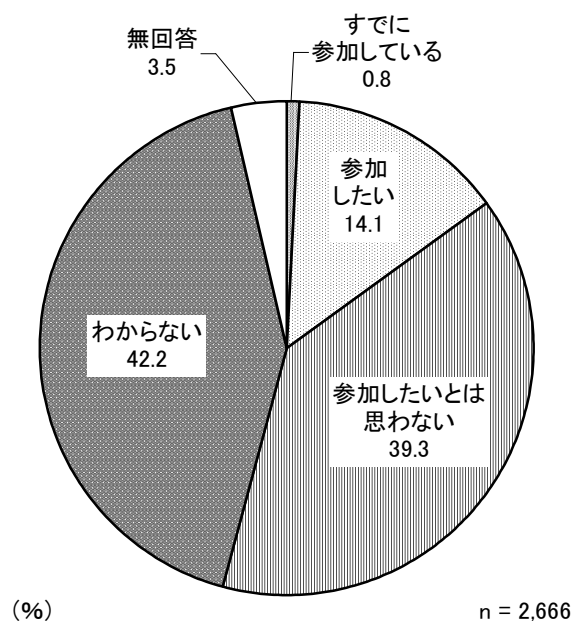
居住地域別にみると、「知らない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(68.1%)で7割近くと多くなっている。(図3-24-3)

(25) 海外友好交流都市との交流イベントや活動への参加意向

◇「参加したいとは思わない」が4割弱

問29（2）あなたは、海外友好交流都市との交流イベントや活動に参加したいと思いますか。
（○は1つだけ）

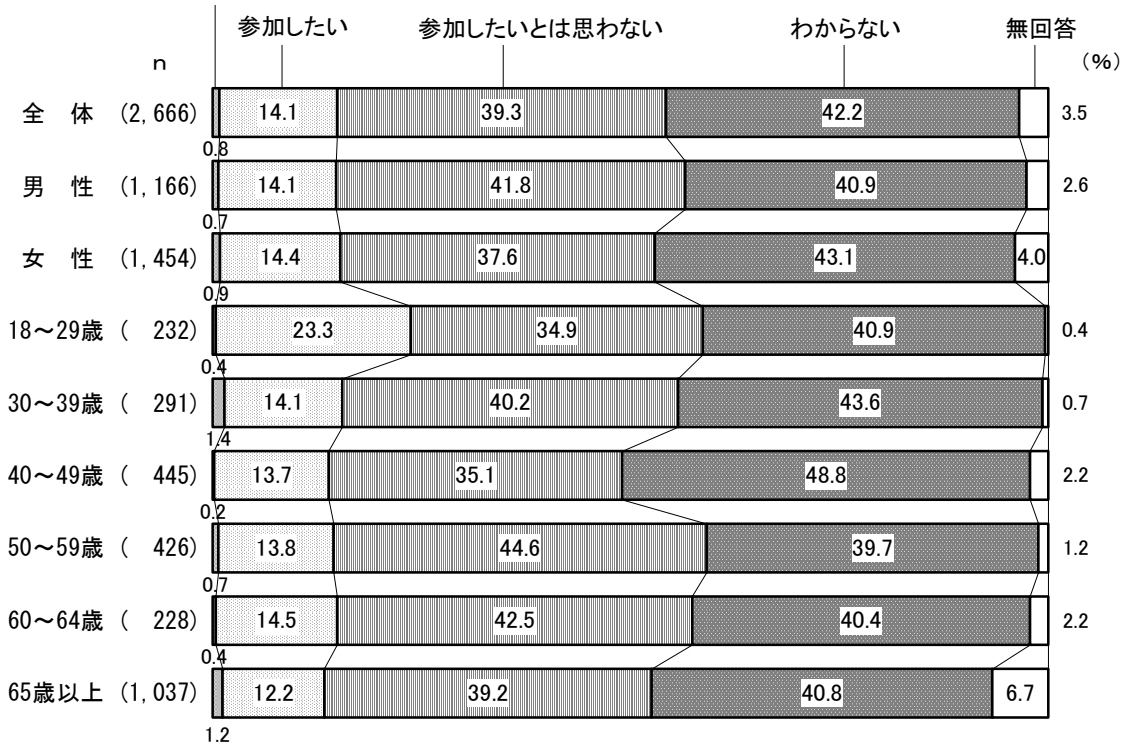
図3-25-1 海外友好交流都市との交流イベントや活動への参加意向－全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

海外友好交流都市との交流イベントや活動に参加したいと思うか聞いたところ、「参加したい」(14.1%)が1割台半ばとなっている。一方、「参加したいとは思わない」(39.3%)は4割弱となっている。(図3-25-1)

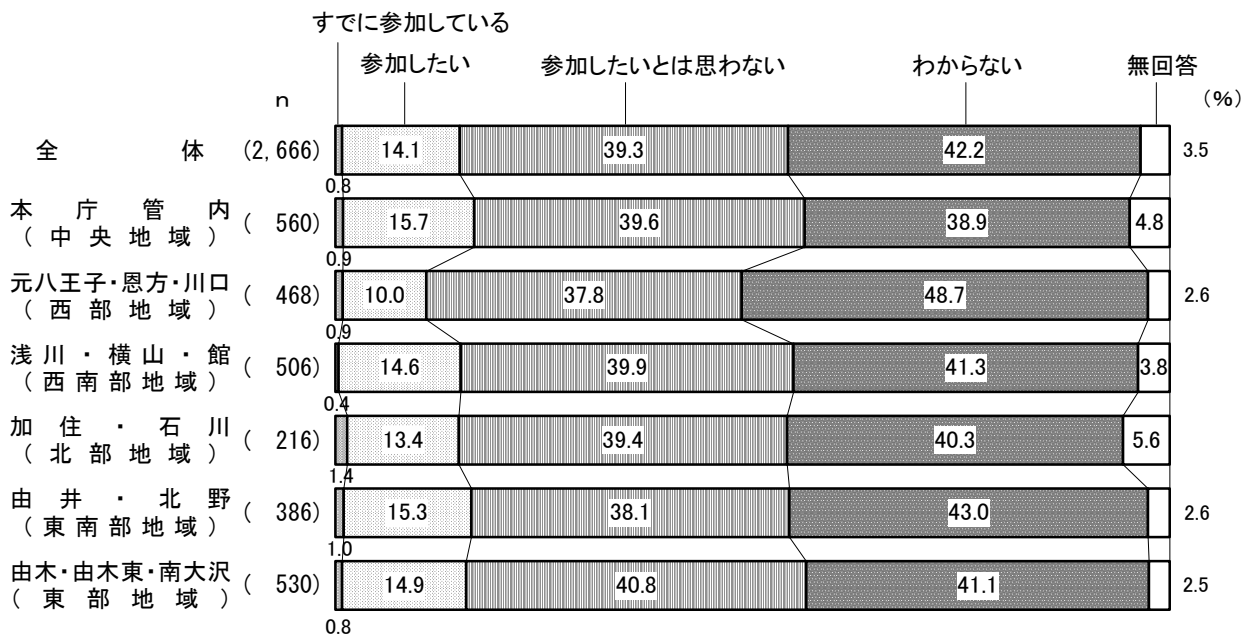
図3-25-2 海外友好交流都市との交流イベントや活動への参加意向—性別、年齢別
すでに参加している



性別にみると、「参加したいとは思わない」は男性（41.8%）が女性（37.6%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「参加したい」は18~29歳（23.3%）で2割強と多くなっている。「参加したいとは思わない」は50~59歳（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-25-2）

図3-25-3 海外友好交流都市との交流イベントや活動への参加意向—居住地域別
すでに参加している



居住地域別にみると、「参加したいとは思わない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.8%）で約4割と多くなっている。（図3-25-3）

(26) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》が7割強

問30 あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

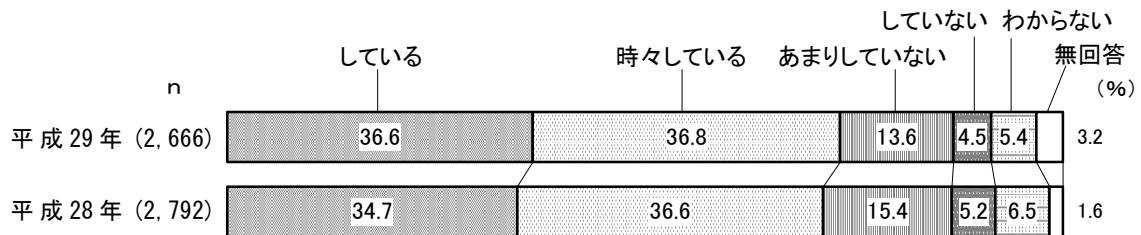
(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

- 困っている様子の方を見かけたら、声をかける。
- ゆっくりわかりやすく話したり、筆談など障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。
- 優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。)

など

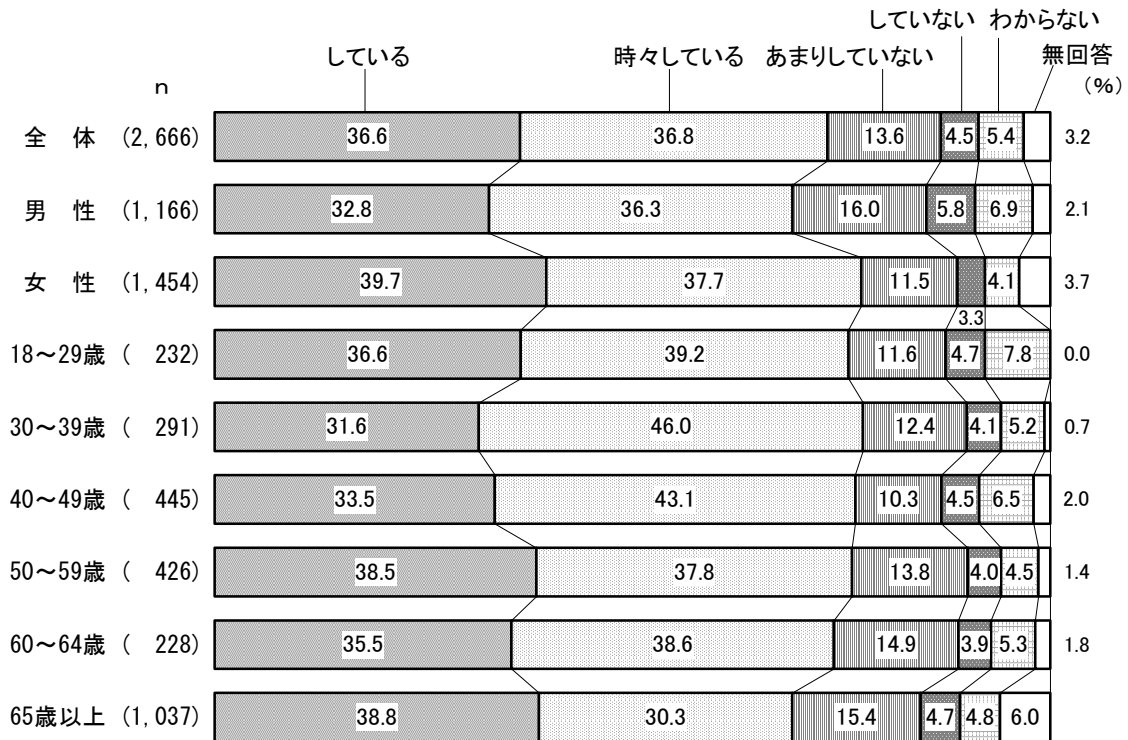
図3-26-1 障害のある方への理解や配慮—全体、経年比較



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(36.6%)と「時々している」(36.8%)を合わせた《している》(73.4%)が7割強となっている。一方、「あまりしていない」(13.6%)と「していない」(4.5%)を合わせた《していない》(18.1%)が2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-26-1)

図3-26-2 障害のある方への理解や配慮—性別、年齢別

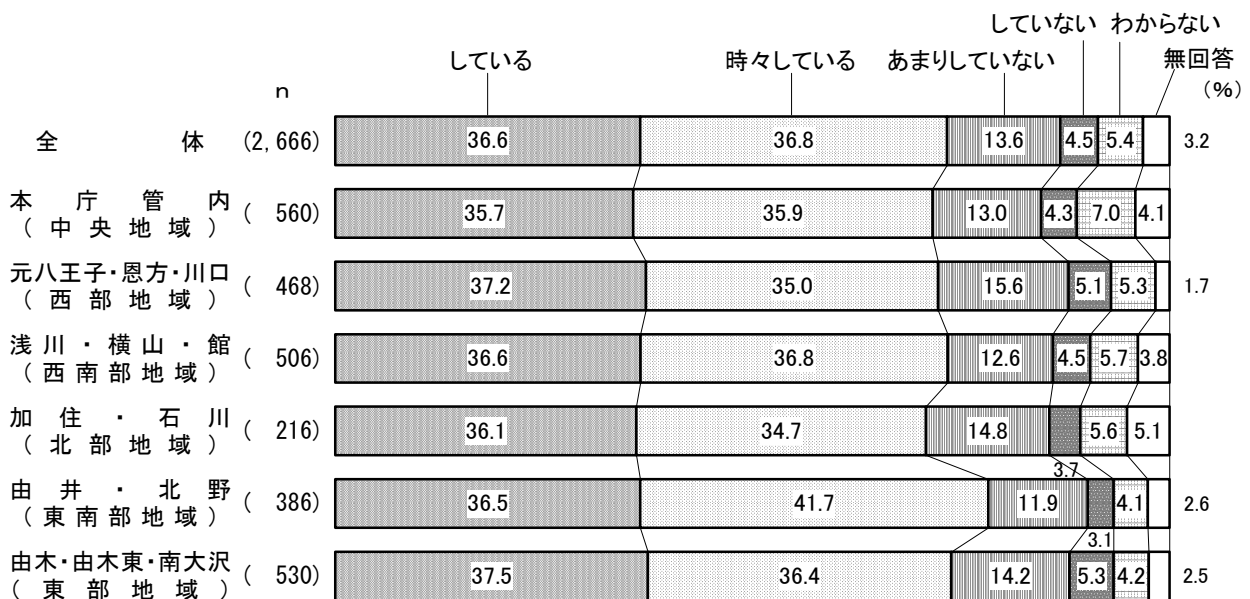


性別にみると、「している」は女性（77.4%）が男性（69.1%）より8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「していない」は65歳以上（20.1%）で約2割と多くなっている。

(図3-26-2)

図3-26-3 障害のある方への理解や配慮—居住地域別



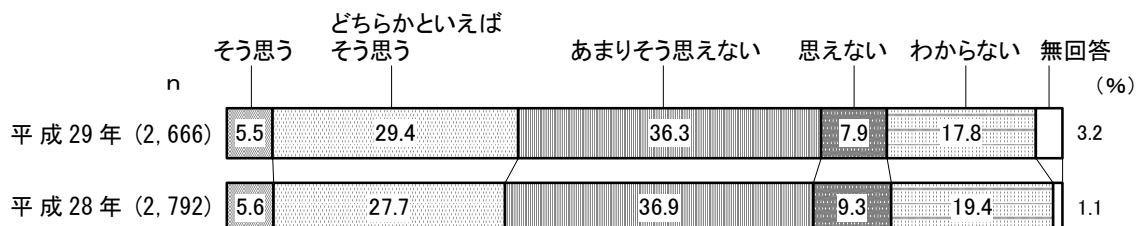
居住地域別にみると、「している」は由井・北野（東南部地域）（78.2%）で8割近くと多くなっている。(図3-26-3)

(27) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇《そう思う》が3割台半ば

問31 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(〇は1つだけ)

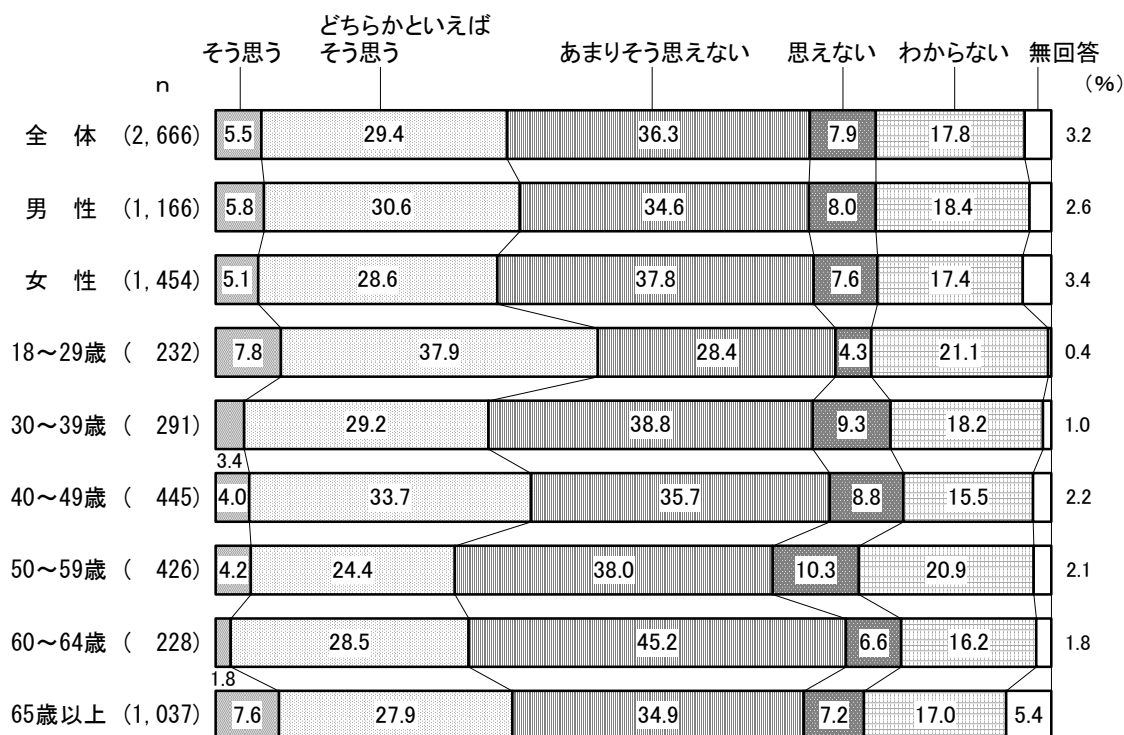
図3-27-1 誰もが安全で快適に暮らせるまち—全体、経年比較



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.5%)と「どちらかといえばそう思う」(29.4%)を合わせた《そう思う》(34.9%)が3割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思えない」(36.3%)と「思えない」(7.9%)を合わせた《そう思えない》(44.2%)が4割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-27-1)

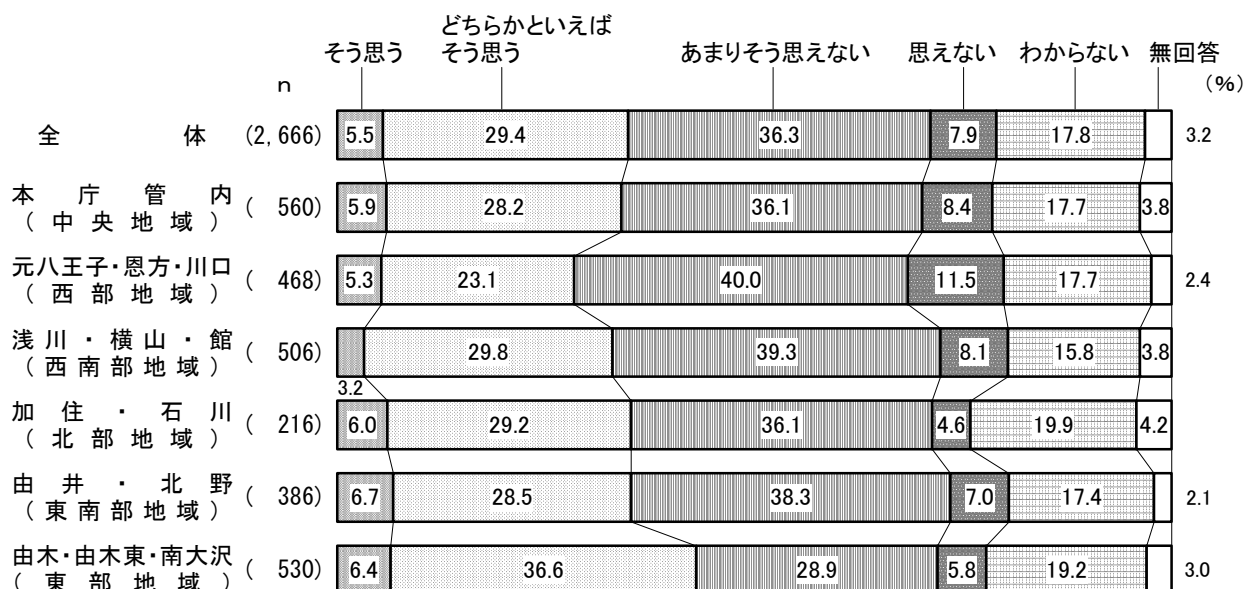
図3-27-2 誰もが安全で快適に暮らせるまち－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「そう思う」は18～29歳（45.7%）で4割台半ばと多くなっている。一方、「そう思えない」は60～64歳（51.8%）で5割強と多くなっている。（図3-27-2）

図3-27-3 誰もが安全で快適に暮らせるまち－居住地域別



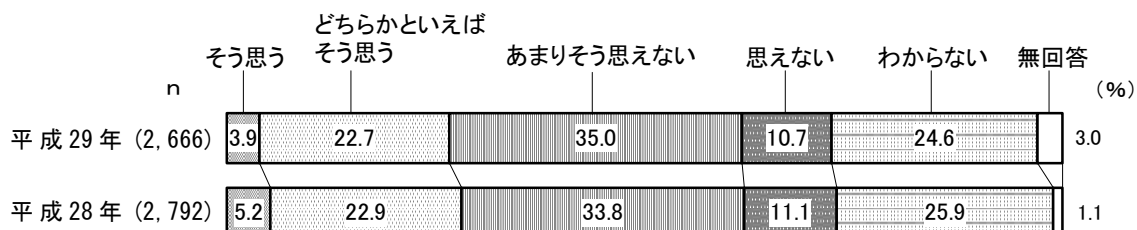
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（43.0%）で4割強と多くなっている。一方、「そう思えない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（51.5%）で5割強と多くなっている。（図3-27-3）

(28) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》》が3割近く

問32 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

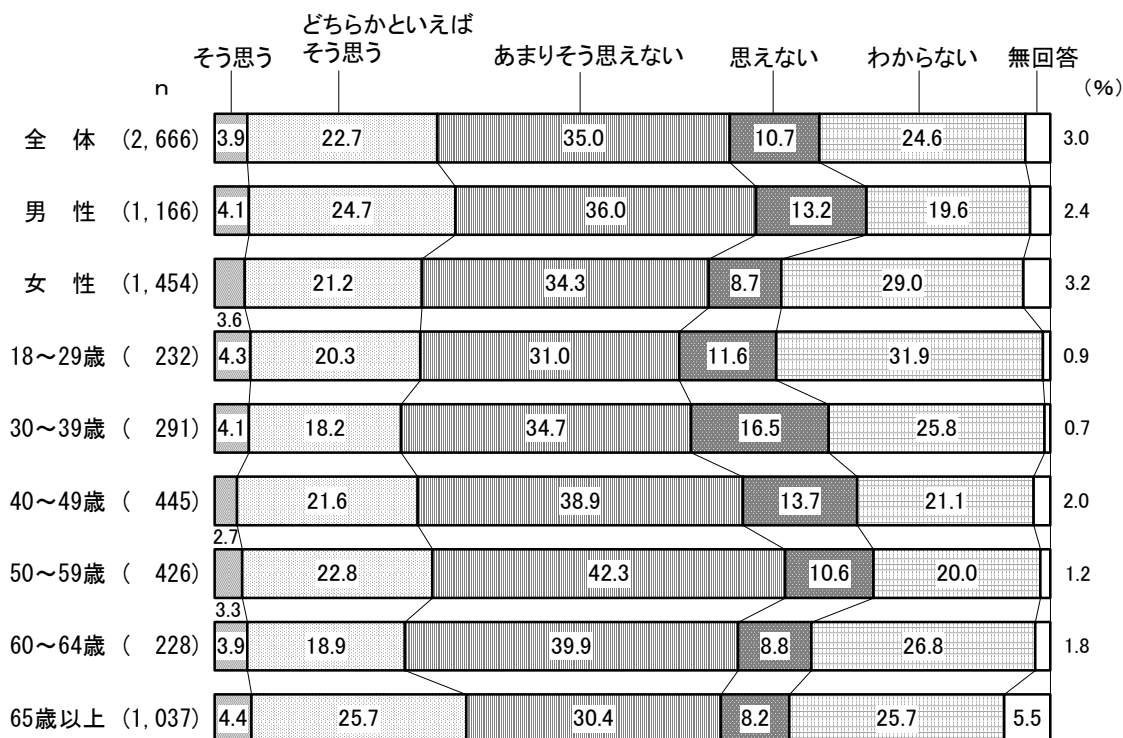
図3-28-1 市内の交通渋滞緩和—全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.9%)と「どちらかといえばそう思う」(22.7%)を合わせた《《そう思う》》(26.6%)が3割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(35.0%)と「思えない」(10.7%)を合わせた《《そう思えない》》(45.7%)が4割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-28-1)

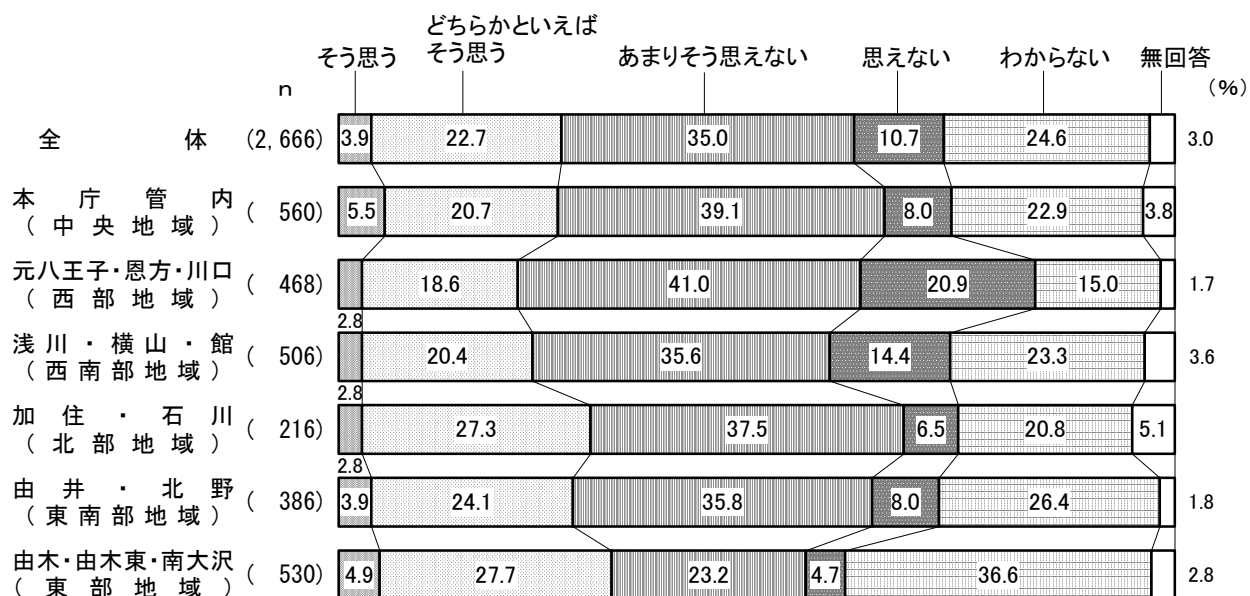
図3-28-2 市内の交通渋滞緩和—性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は男性（28.8%）が女性（24.8%）より4.0ポイント高くなっている。一方、「そう思えない」は男性（49.2%）が女性（43.0%）より6.2ポイント高くなっている。年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（30.1%）で約3割と多くなっている。

(図3-28-2)

図3-28-3 市内の交通渋滞緩和—居住地域別



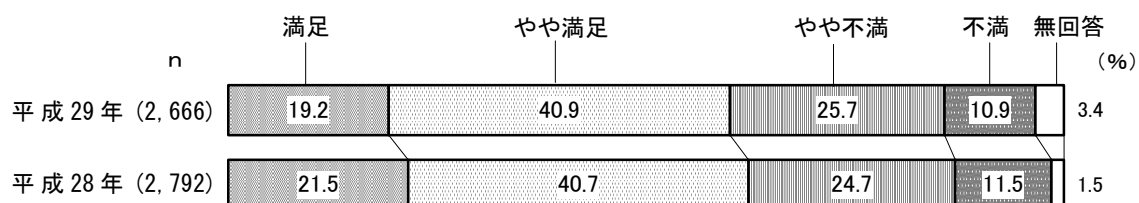
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（32.6%）で3割強と多くなっている。一方、「そう思えない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.9%）で6割強と多くなっている。(図3-28-3)

(29) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が約6割

問33 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

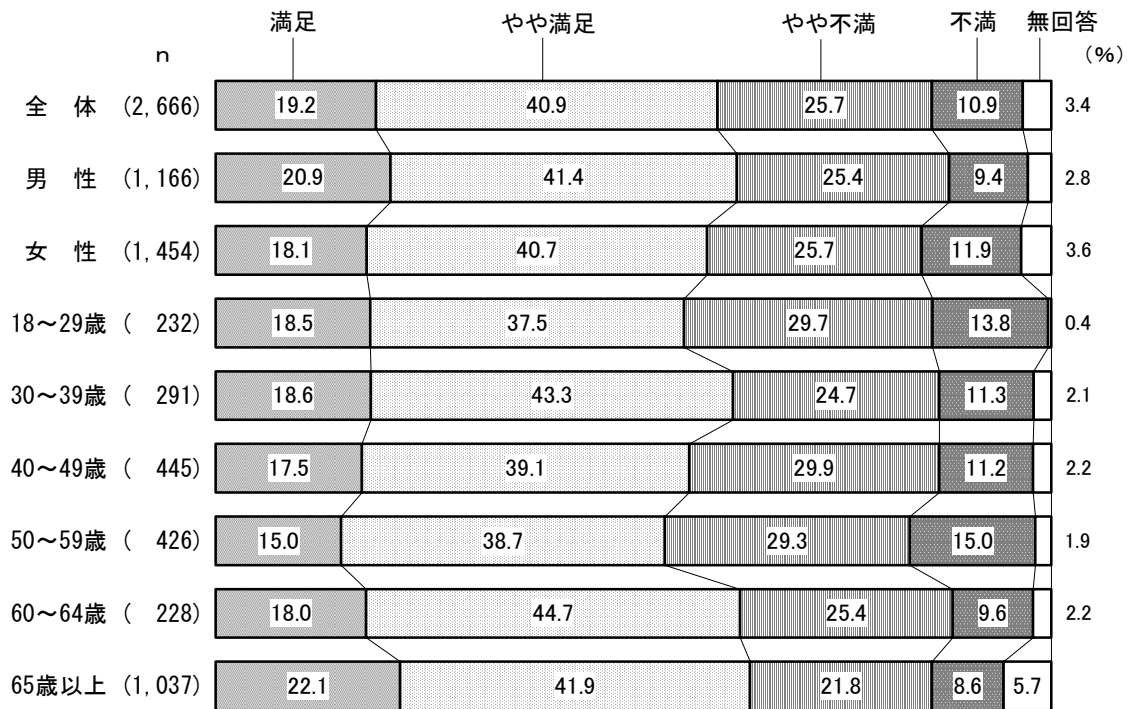
図3-29-1 公共交通の利便性の満足度—全体、経年比較



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（19.2%）と「やや満足」（40.9%）を合わせた《満足》（60.1%）が約6割となっている。一方、「やや不満」（25.7%）と「不満」（10.9%）を合わせた《不満》（36.6%）が4割近くとなっている。

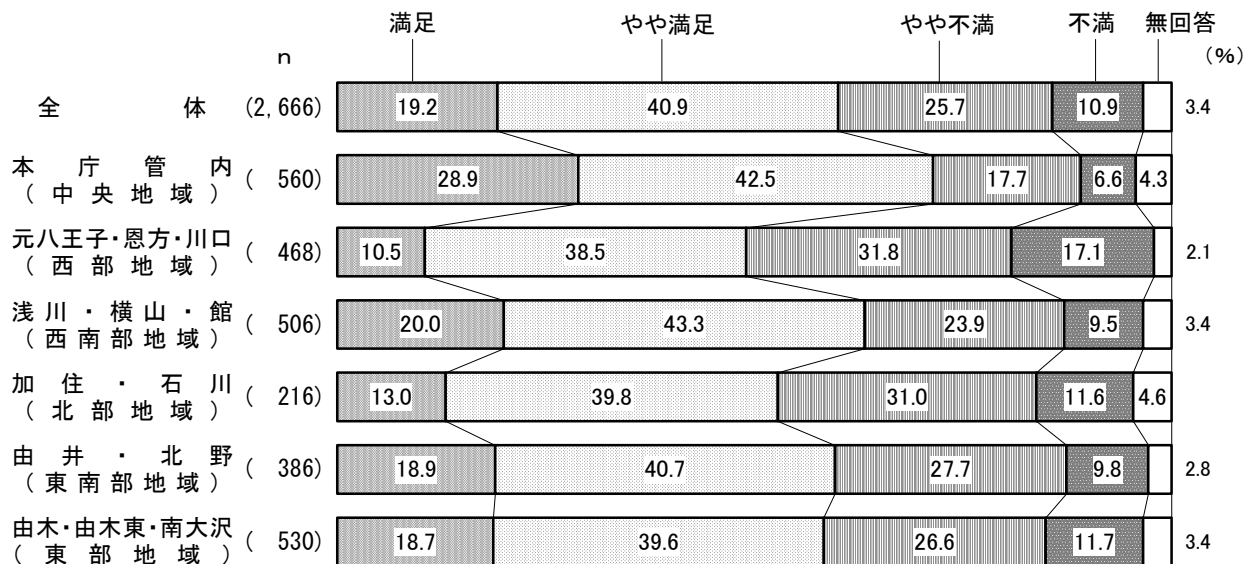
前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-29-1）

図3-29-2 公共交通の利便性の満足度—性別、年齢別



性別にみると、《満足》は男性（62.3%）が女性（58.8%）より3.5ポイント高くなっている。年齢別にみると、《満足》は65歳以上（64.0%）で6割台半ばと多くなっている。一方、《不満》は50～59歳（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-29-2）

図3-29-3 公共交通の利便性の満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（71.4%）で7割強と多くなっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（48.9%）で5割近くと多くなっている。

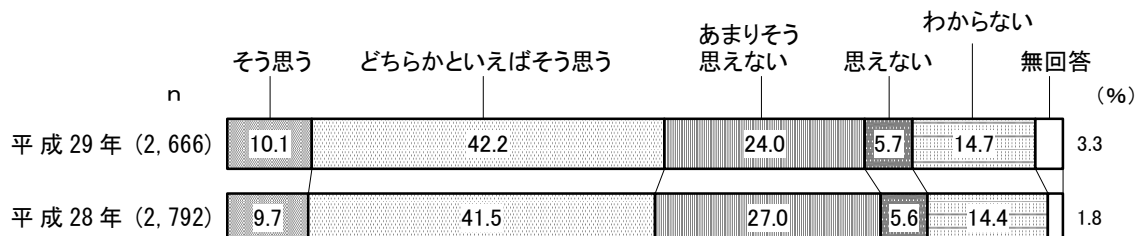
（図3-29-3）

(30) 都市の美観が保持されたまち

◇《そう思う》が5割強

問34 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

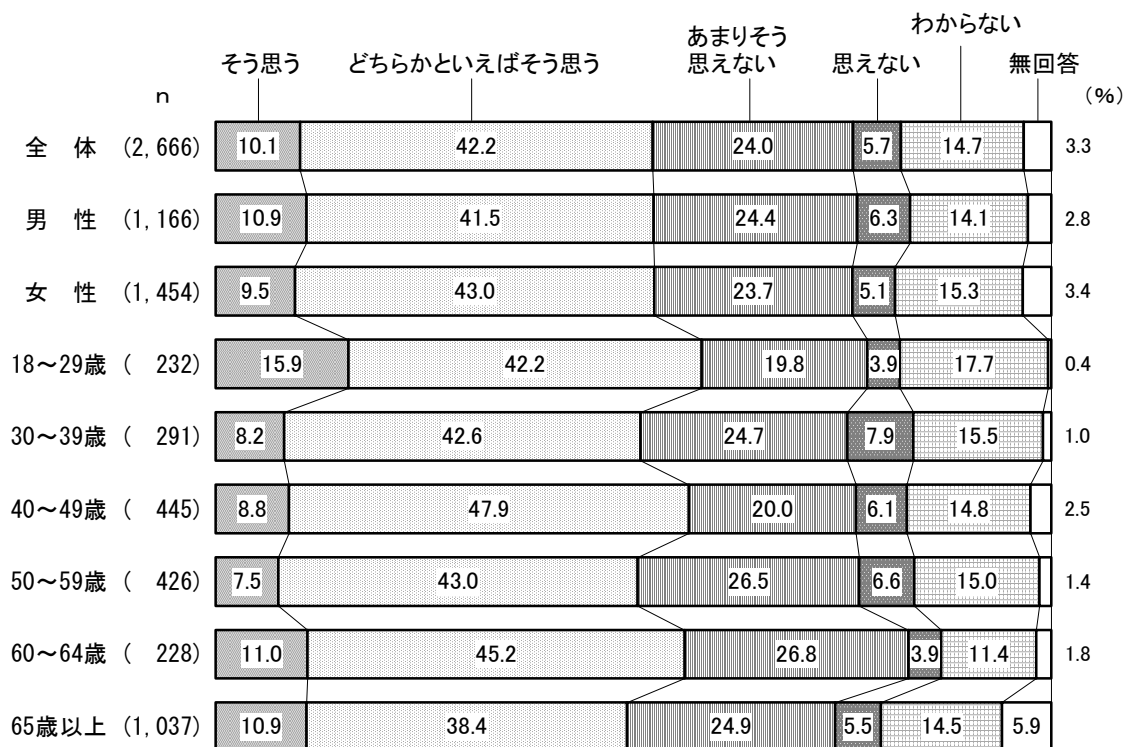
図3-30-1 都市の美観が保持されたまち—全体、経年比較



都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.1%)と「どちらかといえばそう思う」(42.2%)を合わせた《そう思う》(52.3%)が5割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(24.0%)と「思えない」(5.7%)を合わせた《そう思えない》(29.7%)が3割弱となっている。

前回調査と比較すると、「あまりそう思えない」は、平成28年(27.0%)より3.0ポイント減少している。(図3-30-1)

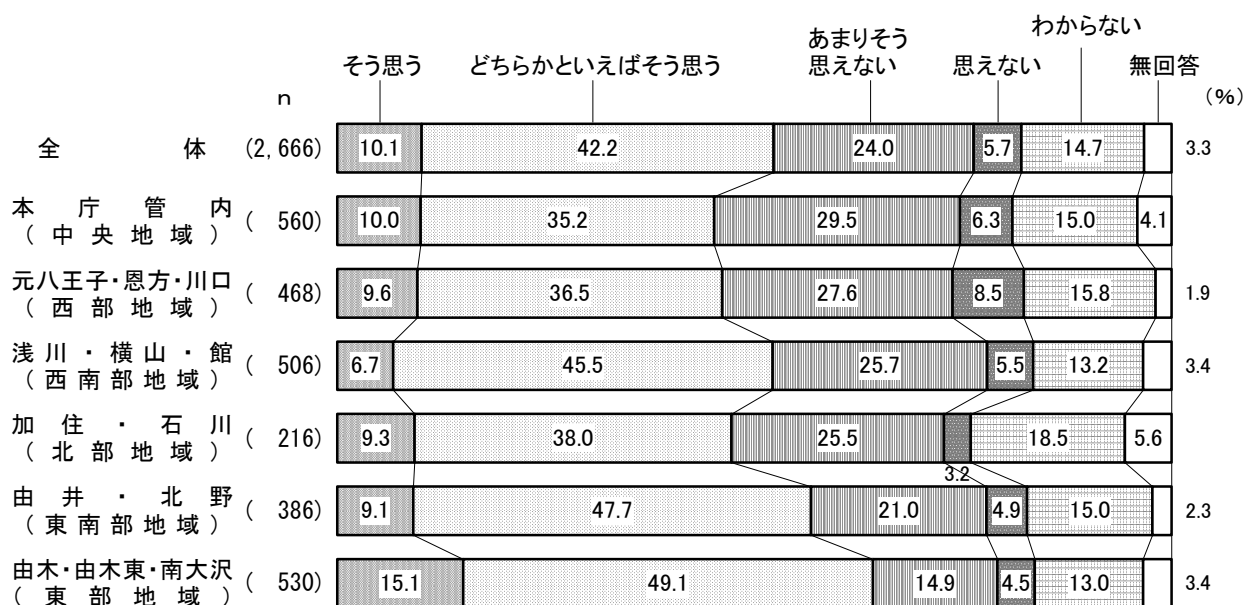
図3-30-2 都市の美観が保持されたまち－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「そう思う」は18～29歳（58.1%）、40～49歳（56.7%）、60～64歳（56.2%）で6割近くと多くなっている。（図3-30-2）

図3-30-3 都市の美観が保持されたまち－居住地域別



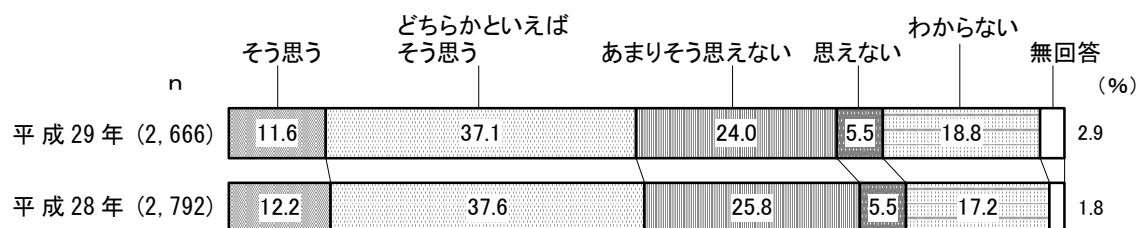
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.2%）で6割台半ばと多くなっている。一方、「そう思えない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.1%）で4割近くと多くなっている。（図3-30-3）

(31) 自然、歴史、文化が活かされた景観

◇《そう思う》が5割近く

問35 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。(○は1つだけ)

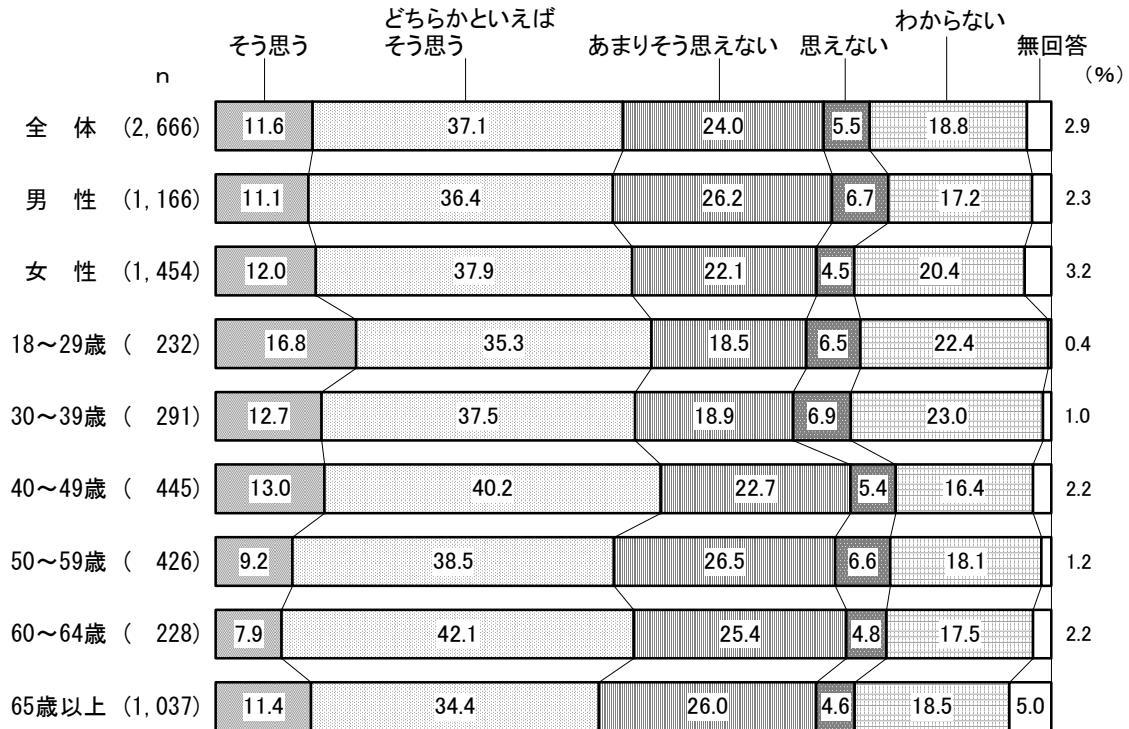
図3-31-1 自然、歴史、文化が活かされた景観－全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(11.6%)と「どちらかといえばそう思う」(37.1%)を合わせた《そう思う》(48.7%)が5割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(24.0%)と「思えない」(5.5%)を合わせた《そう思えない》(29.5%)が3割弱となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-31-1)

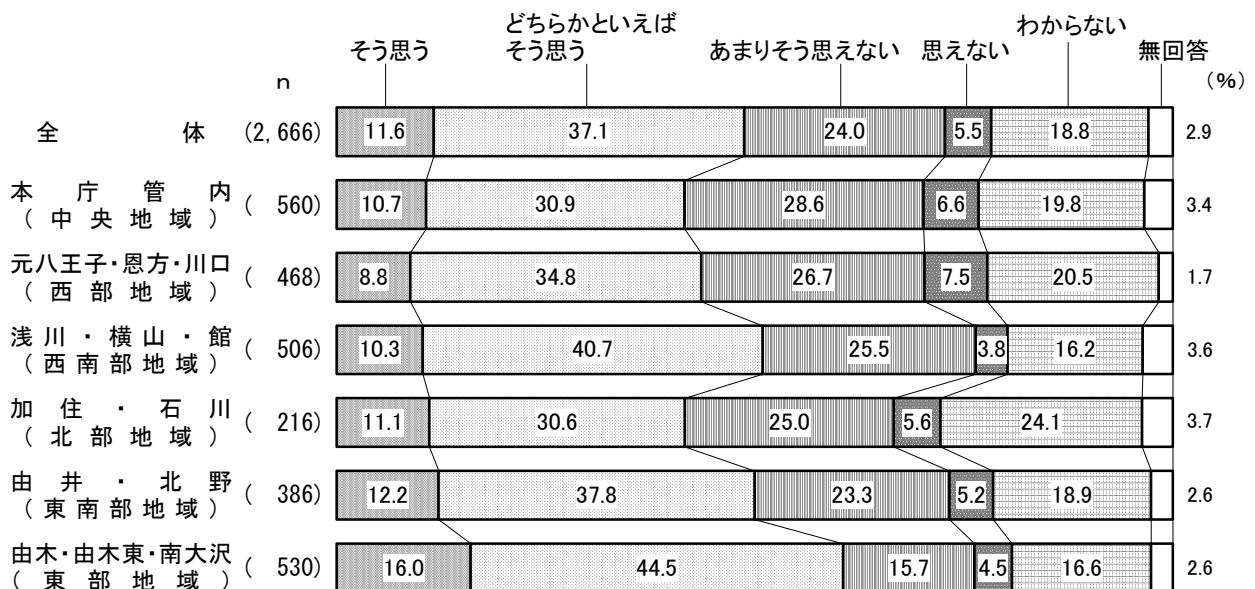
図3-31-2 自然、歴史、文化が活かされた景観—性別、年齢別



性別にみると、「そう思えない」は男性（32.9%）が女性（26.6%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は18~29歳（52.1%）と40~49歳（53.2%）で5割強と多くなっている。（図3-31-2）

図3-31-3 自然、歴史、文化が活かされた景観—居住地域別



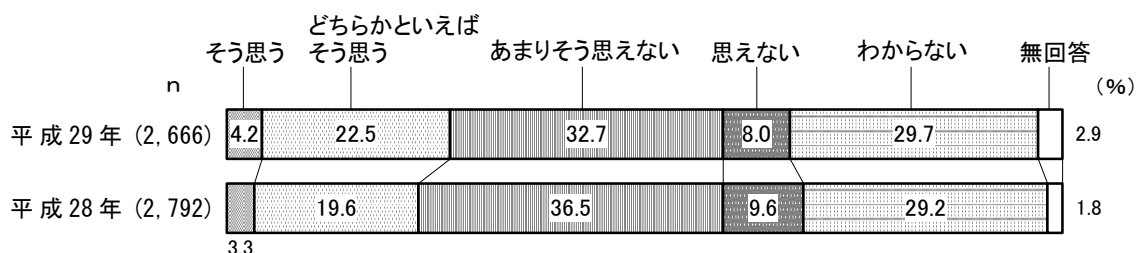
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.5%）で約6割と多くなっている。一方、「そう思えない」は本庁管内（中央地域）（35.2%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-31-3）

(32) 市内の産業活動

◇《そう思う》が3割近く

問36 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(○は1つだけ)

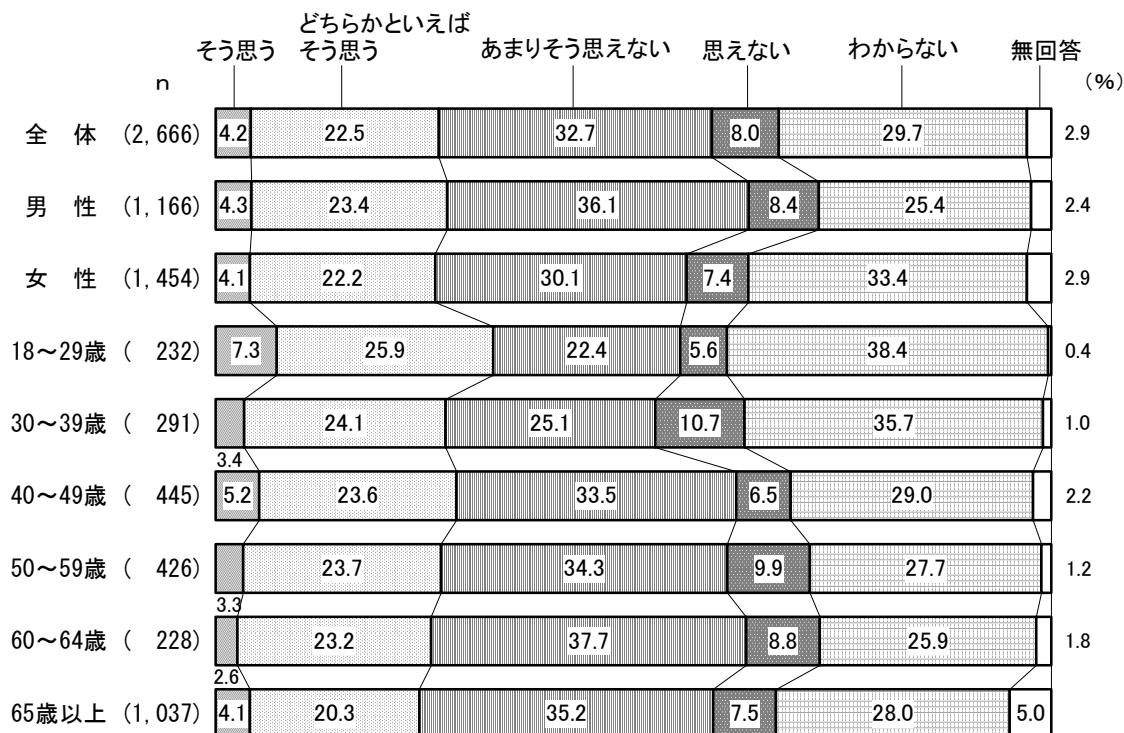
図3-32-1 市内の産業活動－全体、経年比較



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.2%)と「どちらかといえばそう思う」(22.5%)を合わせた《そう思う》(26.7%)が3割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(32.7%)と「思えない」(8.0%)を合わせた《そう思えない》(40.7%)が約4割となっている。

前回調査と比較すると、《そう思う》は、平成28年(22.9%)より3.8ポイント増加している。一方、《そう思えない》は、平成28年(46.1%)より5.4ポイント減少している。(図3-32-1)

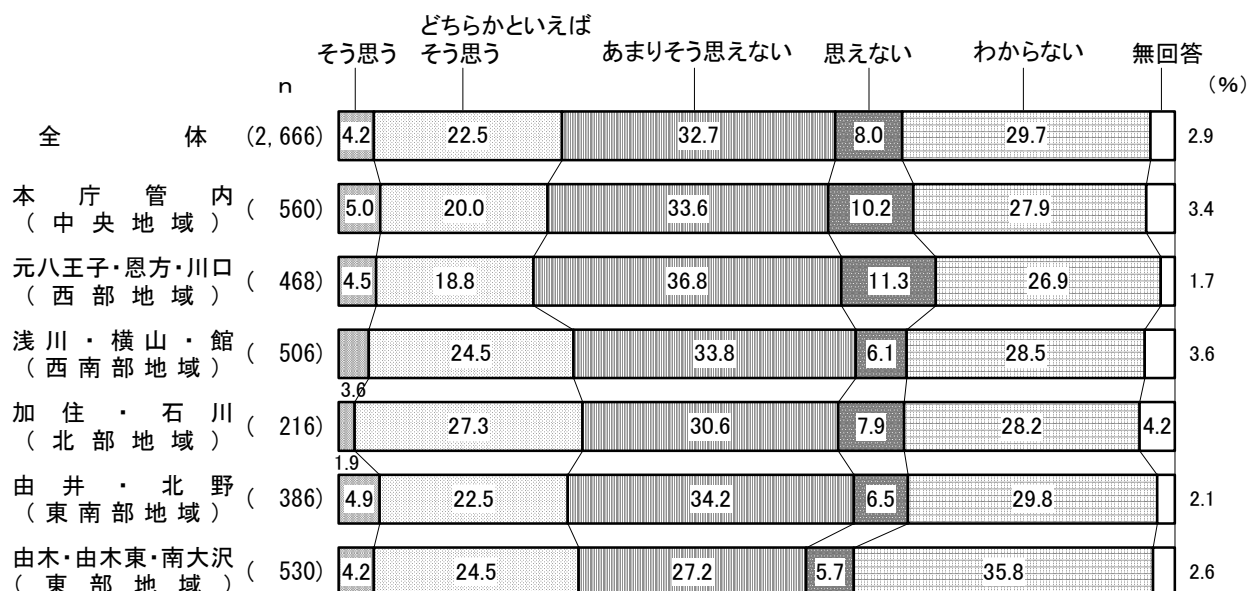
図3-32-2 市内の産業活動—性別、年齢別



性別にみると、「思えない」は男性（44.5%）が女性（37.5%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は18~29歳（33.2%）で3割強と多くなっている。一方、「思えない」は60~64歳（46.5%）で5割近くと多くなっている。（図3-32-2）

図3-32-3 市内の産業活動—居住地域別



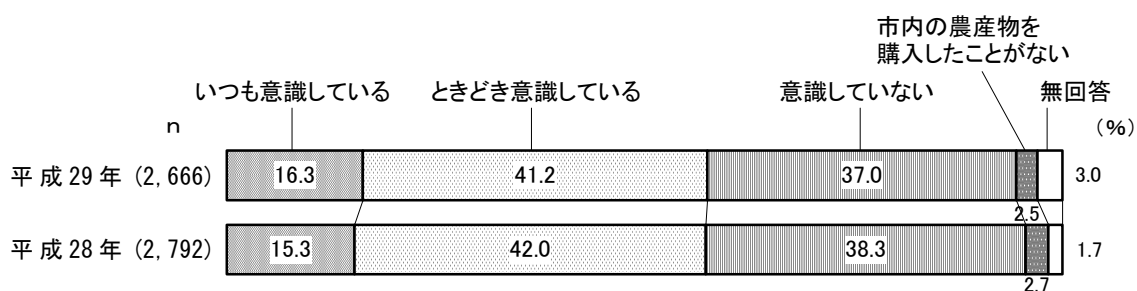
居住地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（29.2%）で3割弱と多くなっている。一方、「思えない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（48.1%）で5割近くと多くなっている。（図3-32-3）

(33) 市内の農産物の購入

◇《意識している》が6割近く

問37 あなたは、市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）していますか。
（○は1つだけ）

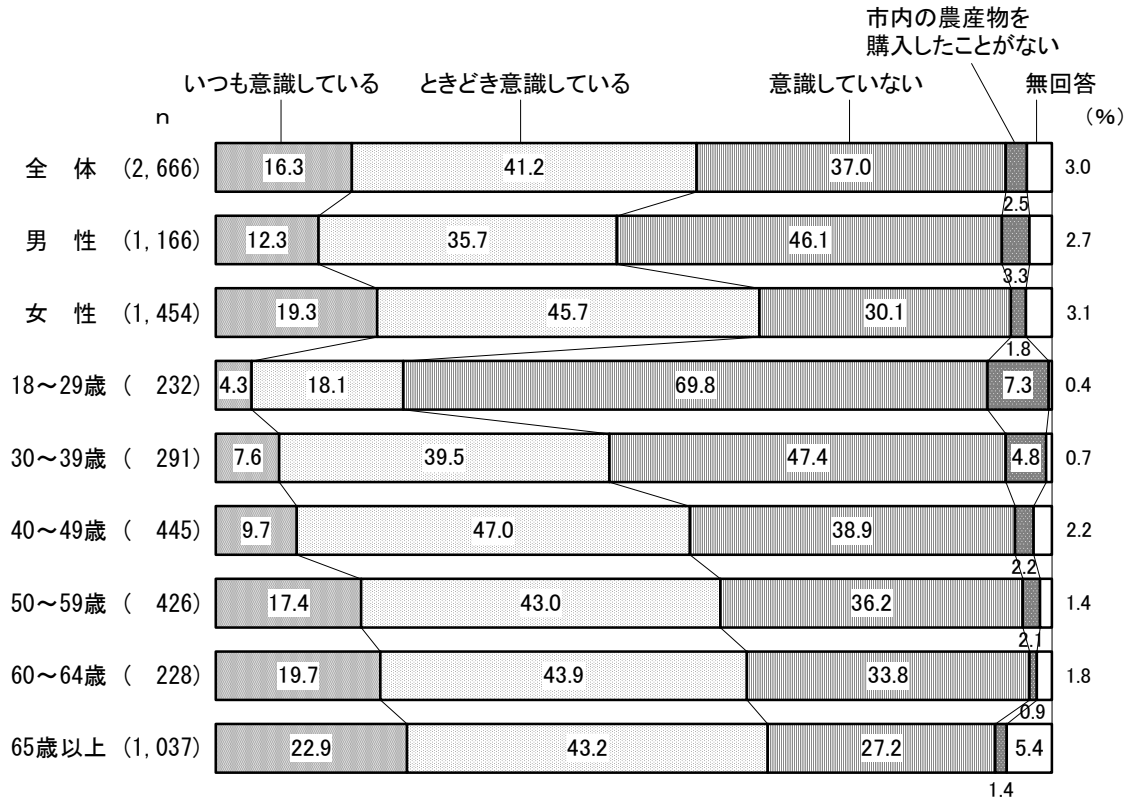
図3-33-1 市内の農産物の購入—全体、経年比較



市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）しているか聞いたところ、「ときどき意識している」（41.2%）が最も多く4割強で、これと「いつも意識している」（16.3%）の2つを合わせた《意識している》（57.5%）は6割近くとなっている。一方、「意識していない」（37.0%）は4割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-33-1）

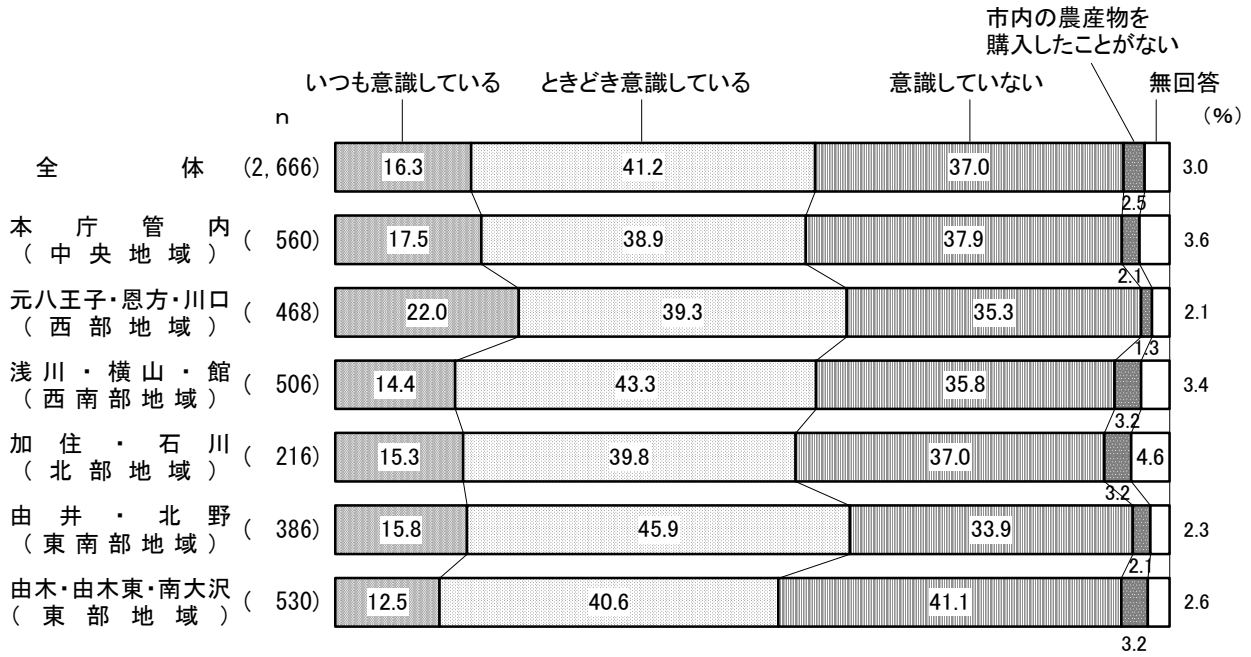
図 3-33-2 市内の農産物の購入一性別、年齢別



性別にみると、「意識している」は女性（65.0%）が男性（48.0%）より17.0ポイント高くなっている。一方、「意識していない」は男性（46.1%）が女性（30.1%）より16.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「意識している」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（66.1%）で7割近くとなっている。一方、「意識していない」は低い年代ほど割合が多くなっており、18~29歳（69.8%）で7割弱となっている。（図 3-33-2）

図3-33-3 市内の農産物の購入—居住地域別



居住地域別にみると、「意識している」は由井・北野（東南部地域）（61.7%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.3%）で6割強と多くなっている。一方、「意識していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.1%）で4割強と多くなっている。（図3-33-3）

(34) 地球環境への配慮

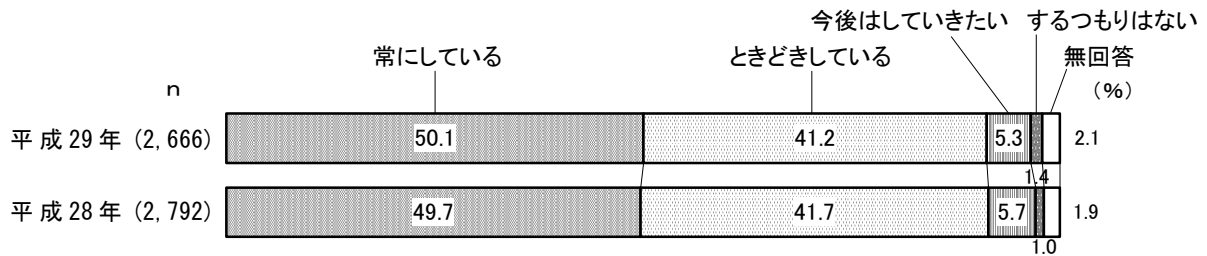
◇「常にしている」が約5割

問38 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。
(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する
- など

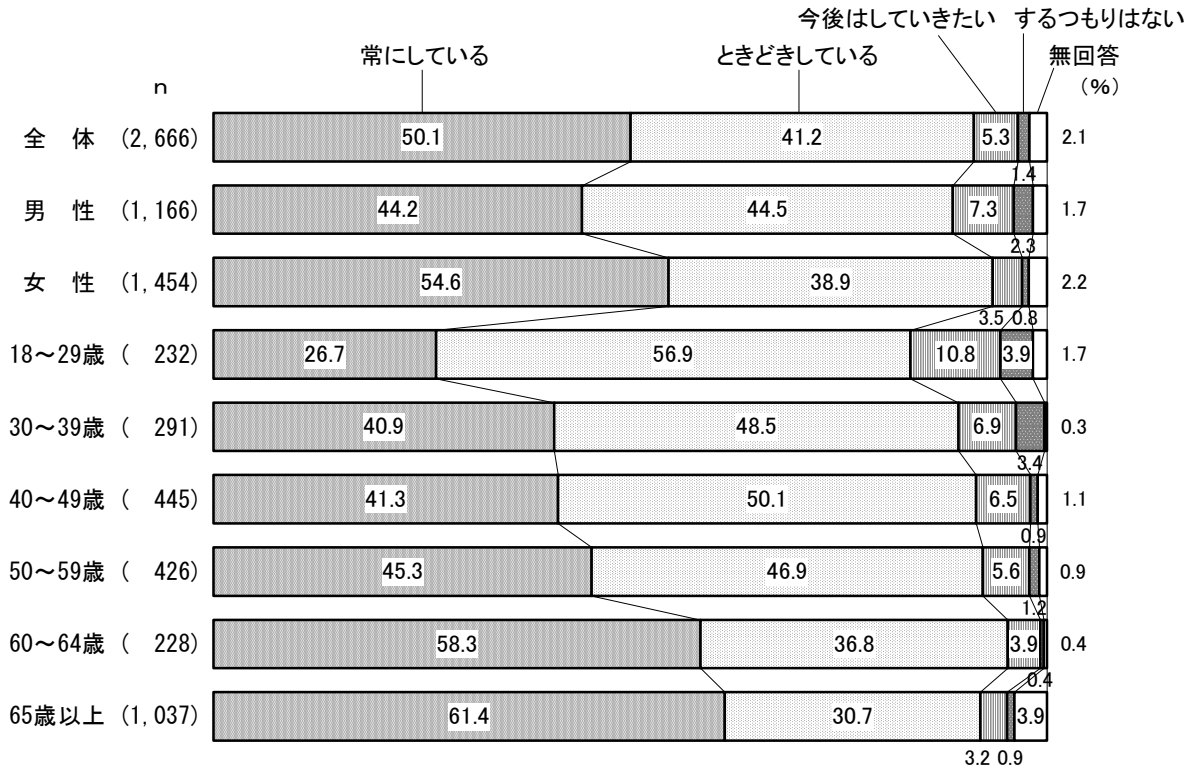
図3-34-1 地球環境への配慮－全体、経年比較



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(50.1%)が約5割で、「ときどきしている」(41.2%)が4割強となっている。

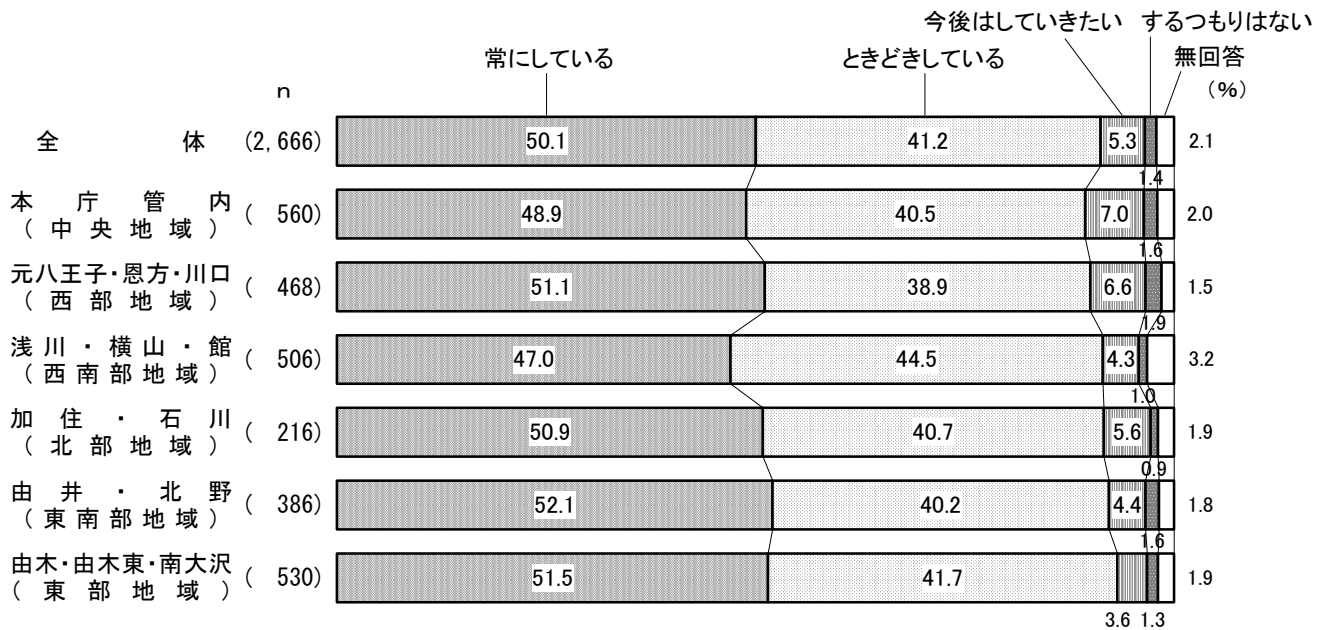
前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-34-1)

図3-34-2 地球環境への配慮—性別、年齢別



性別にみると、「常にしている」は女性（54.6%）が男性（44.2%）より10.4ポイント高くなっている。「ときどきしている」は男性（44.5%）が女性（38.9%）より5.6ポイント高くなっている。年齢別にみると、「常にしている」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（61.4%）で6割強となっている。「ときどきしている」は18~29歳（56.9%）で6割近くと多くなっている。（図3-34-2）

図3-34-3 地球環境への配慮—居住地域別



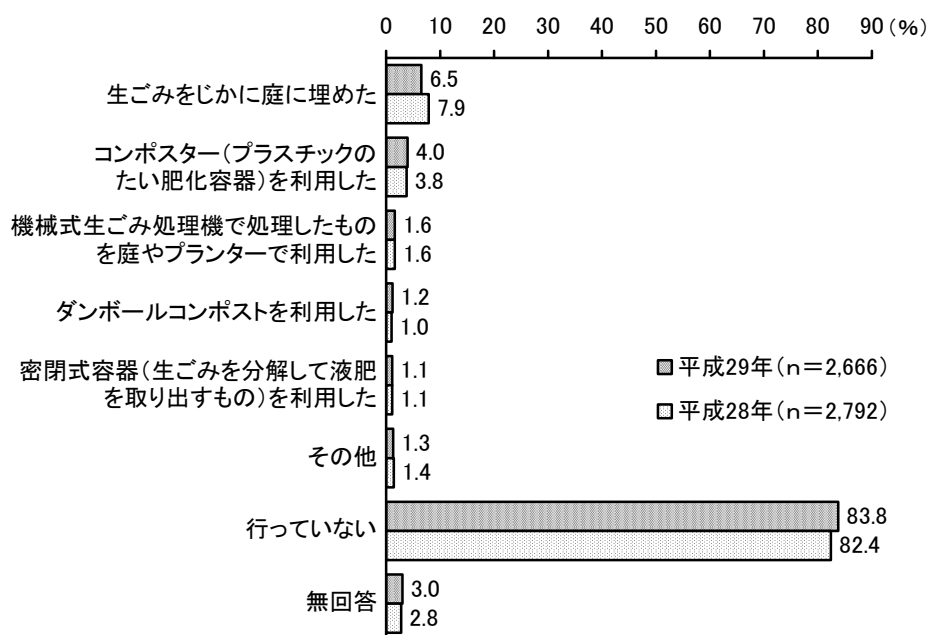
居住地域別にみると、「常にしている」は由井・北野（東南部地域）（52.1%）で5割強と多くなっている。（図3-34-3）

(35) この1年間に行った生ごみのたい肥化

◇「行っていない」が8割強

問39 あなたの世帯は、この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。
(○はいくつでも)

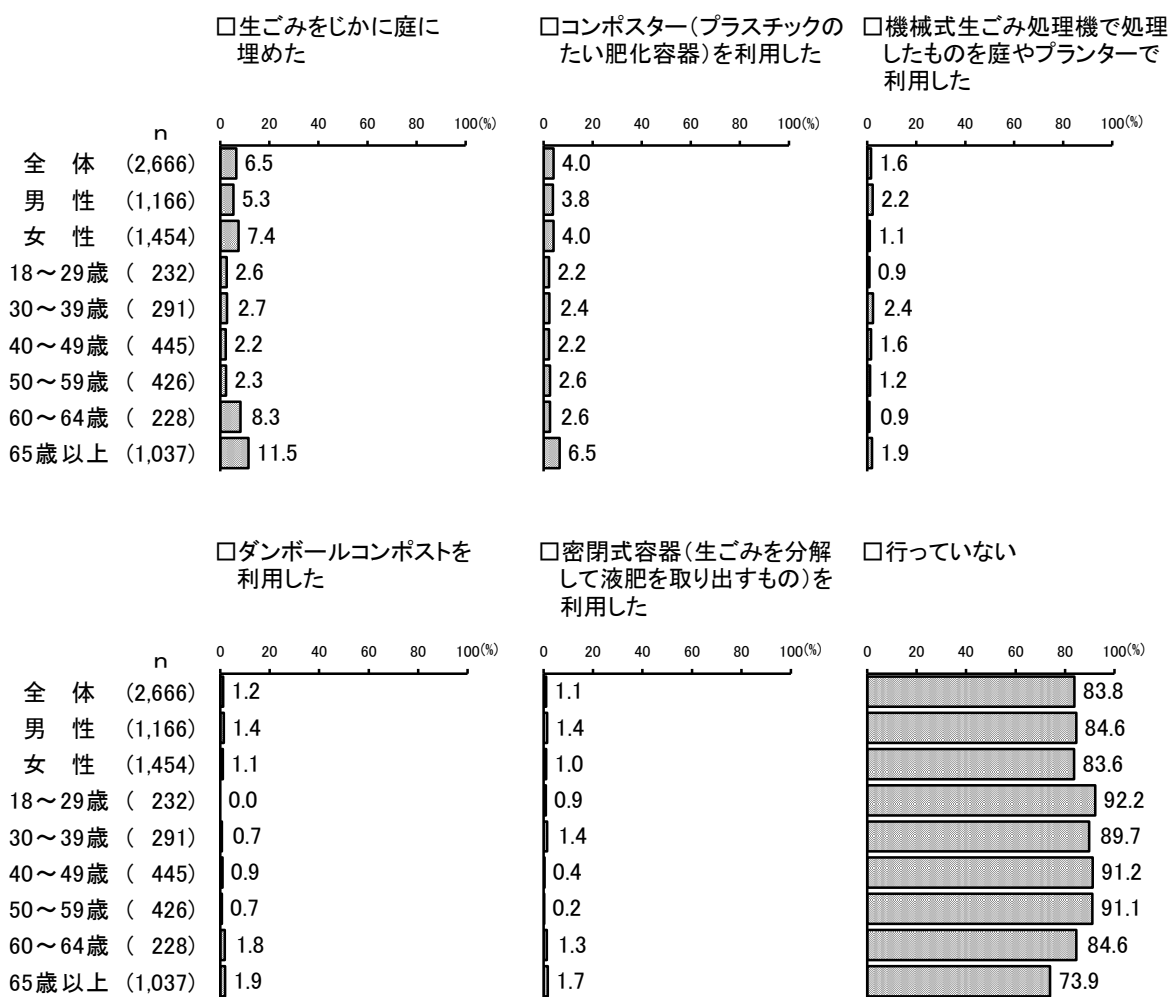
図3-35-1 この1年間に行った生ごみのたい肥化—全体、経年比較



この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」(83.8%)が8割強で多くなっている。「生ごみをじかに庭に埋めた」(6.5%)は1割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-35-1)

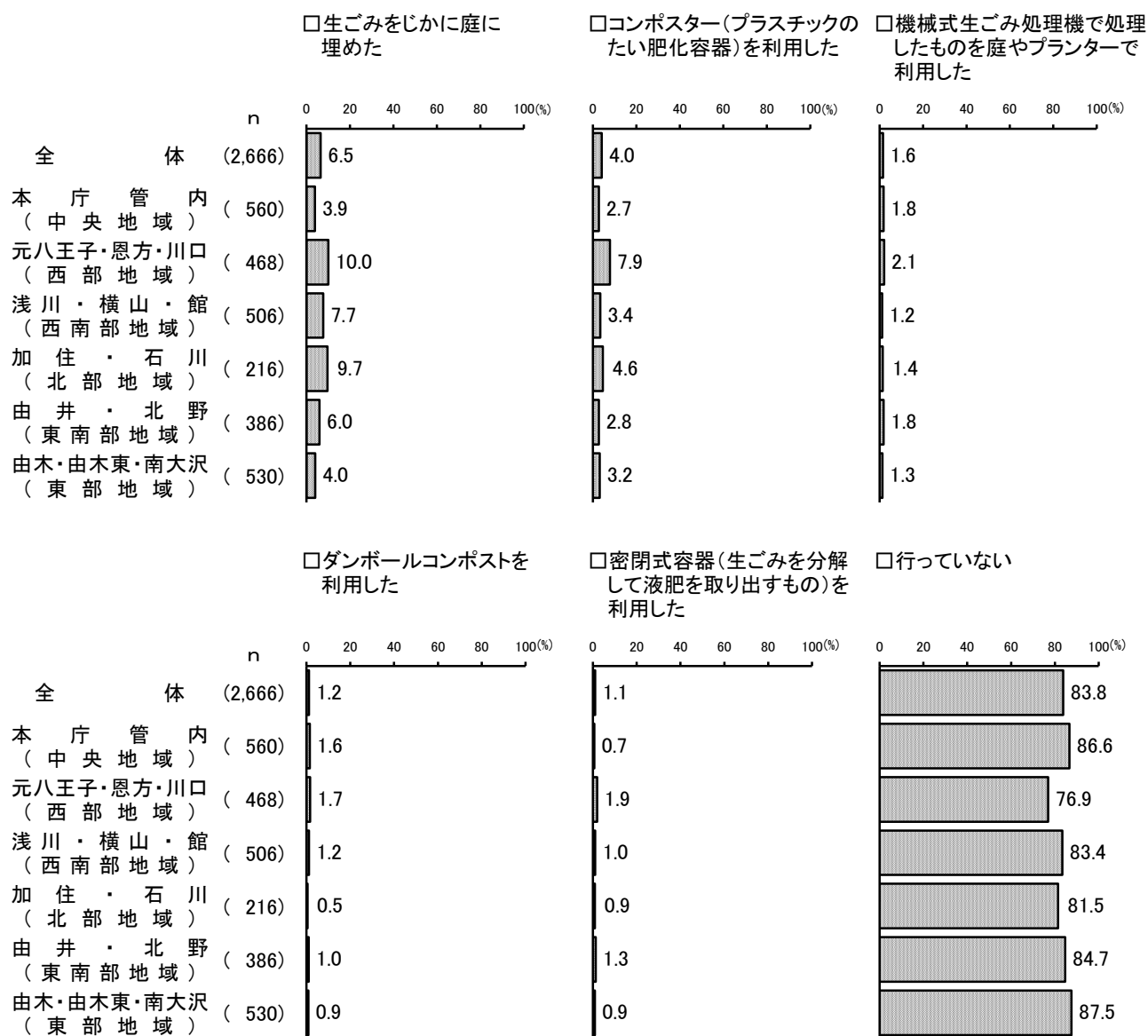
図 3-35-2 この1年間に行った生ごみのたい肥化—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上（11.5%）で1割強と多くなっている。（図 3-35-2）

図3-35-3 この1年間に行った生ごみのたい肥化—居住地域別



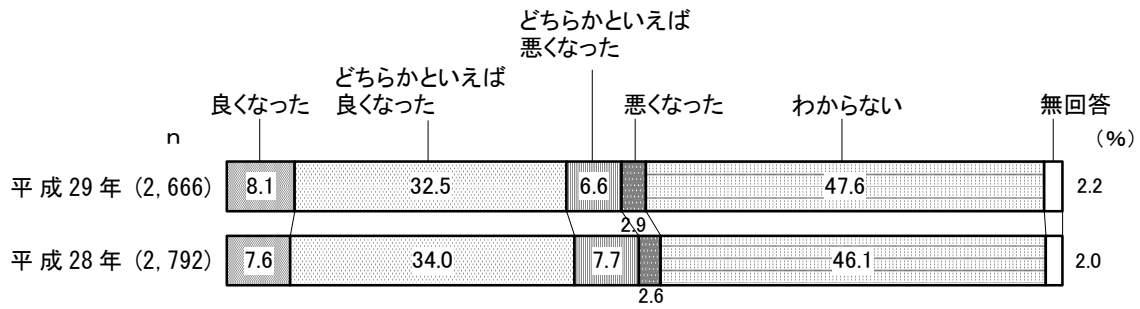
居住地域別にみると、生ごみのたい肥化を「行っていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（76.9%）で8割近くと最も少なくなっている。（図3-35-3）

(36) 市の生活環境

◇《良くなった》が約4割

問40 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなつたと思いますか。（○は1つだけ）

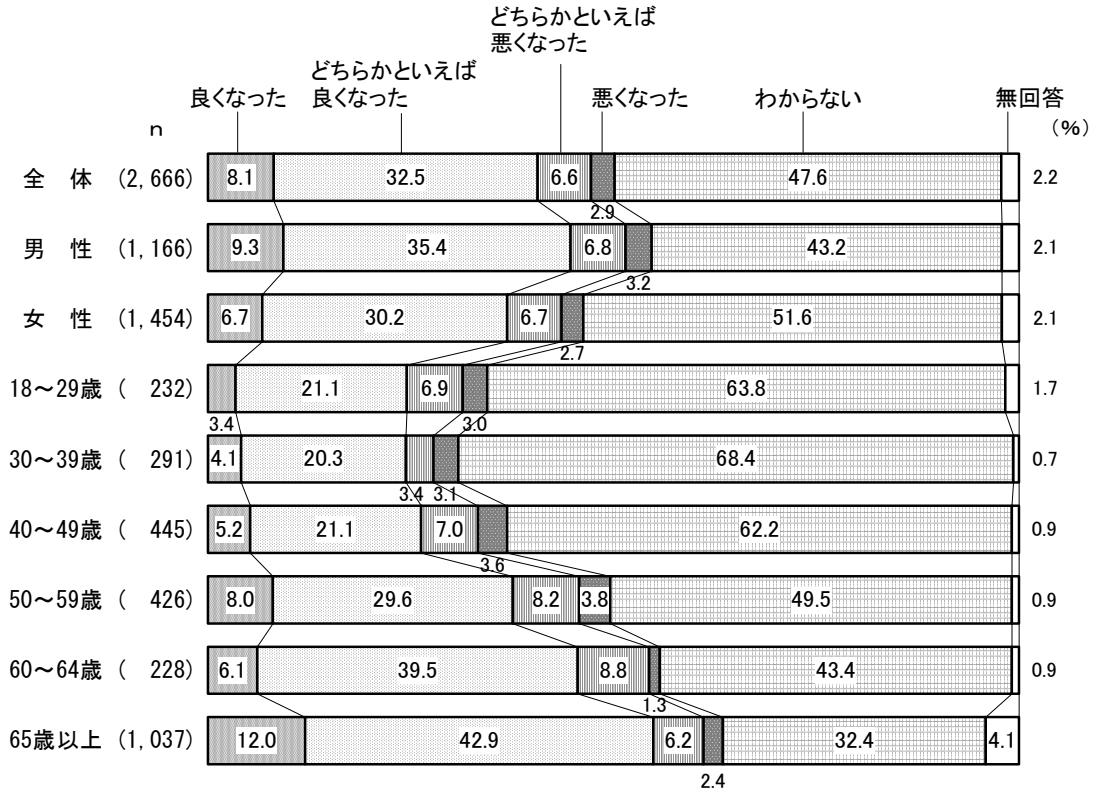
図3-36-1 市の生活環境—全体、経年比較



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなつたと思うか聞いたところ、「良くなった」（8.1%）と「どちらかといえば良くなった」（32.5%）を合わせた《良くなった》（40.6%）が約4割となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（6.6%）と「悪くなった」（2.9%）を合わせた《悪くなった》（9.5%）が1割弱となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-36-1）

図3-36-2 市の生活環境—性別、年齢別

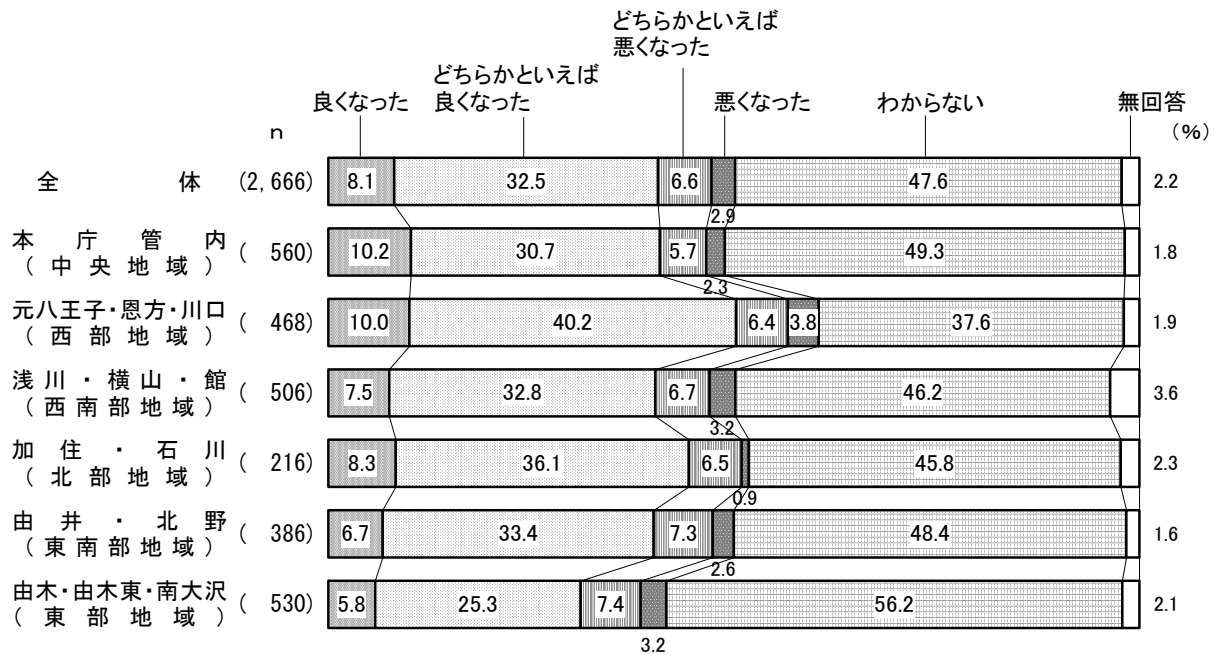


性別にみると、「良くなった」は男性（44.7%）が女性（36.9%）より7.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「良くなった」は65歳以上（54.9%）で5割台半ばと多くなっている。

(図3-36-2)

図3-36-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、「良くなった」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.2%）で約5割と多くなっている。(図3-36-3)

(37) 「生物多様性」の周知度

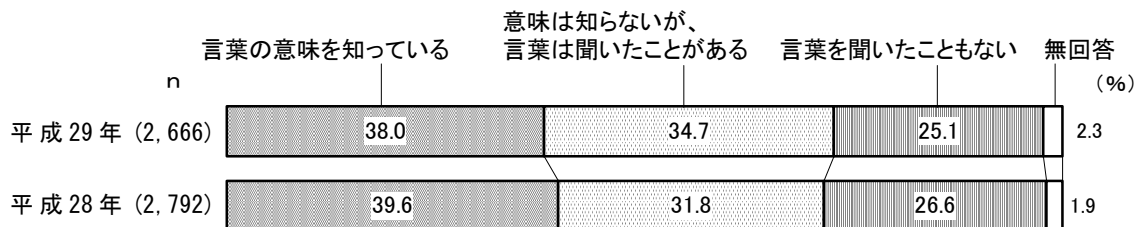
◇ 「言葉の意味を知っている」が4割近く

問41 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

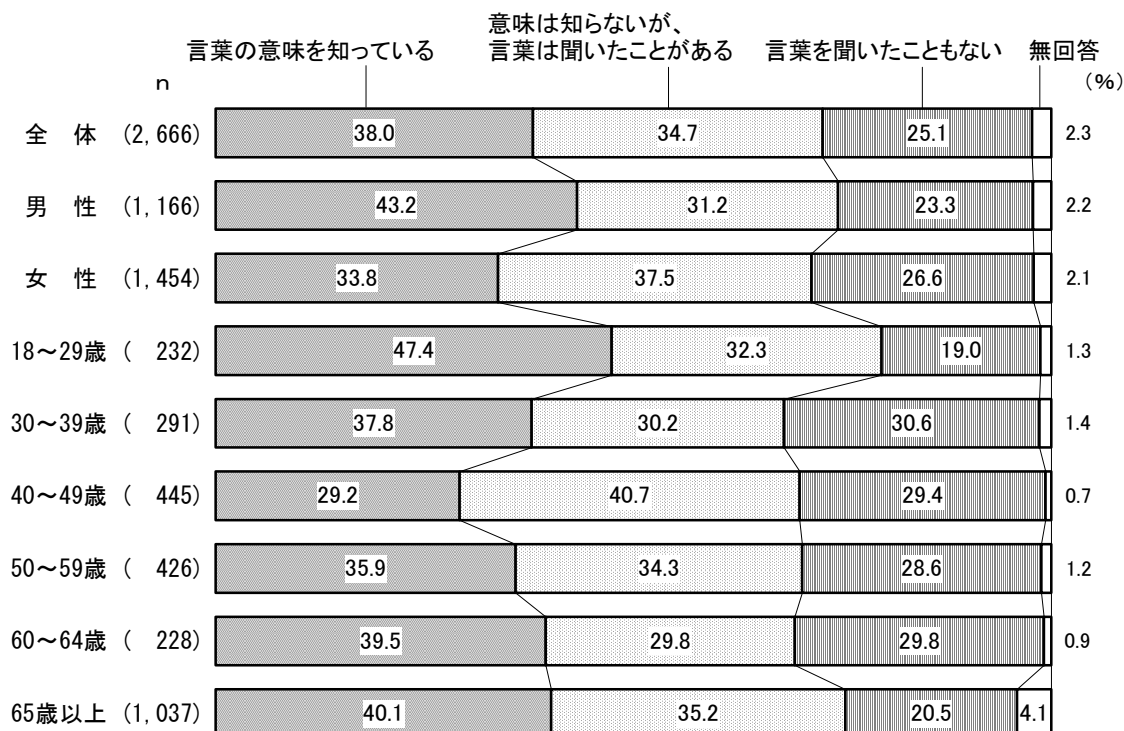
図3-37-1 「生物多様性」の周知度－全体、経年比較



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(38.0%)が4割近くとなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(34.7%)は3割台半ばで、「言葉を聞いたこともない」(25.1%)が2割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-37-1)

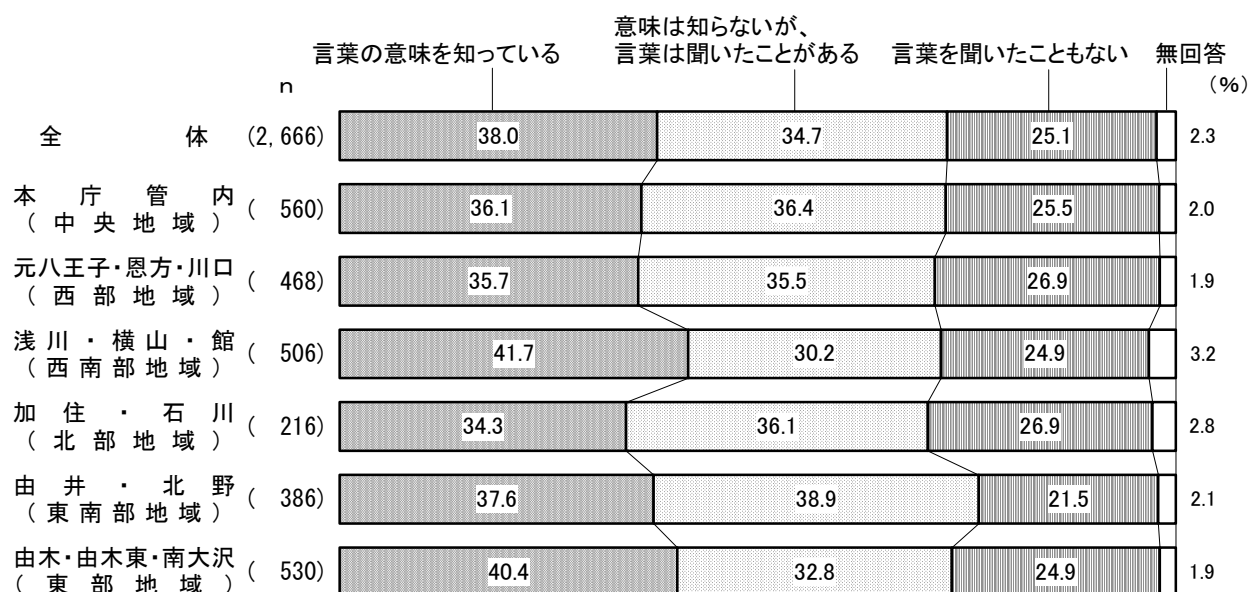
図3-37-2 「生物多様性」の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（43.2%）が女性（33.8%）より9.4ポイント高くなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は女性（37.5%）が男性（31.2%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（47.4%）で5割近くと多くなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は40～49歳（40.7%）で約4割と多くなっている。（図3-37-2）

図3-37-3 「生物多様性」の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）（41.7%）で4割強と多くなっている。（図3-37-3）

(38) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度

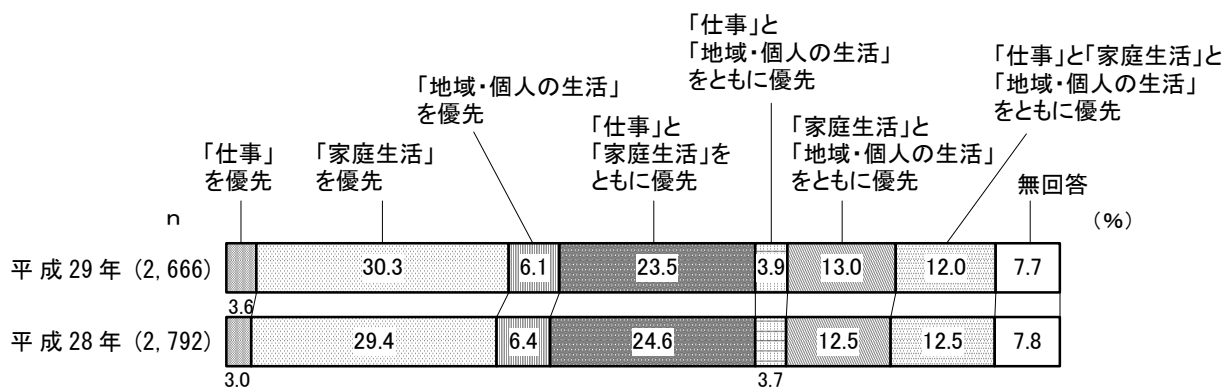
◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が約3割

問42 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

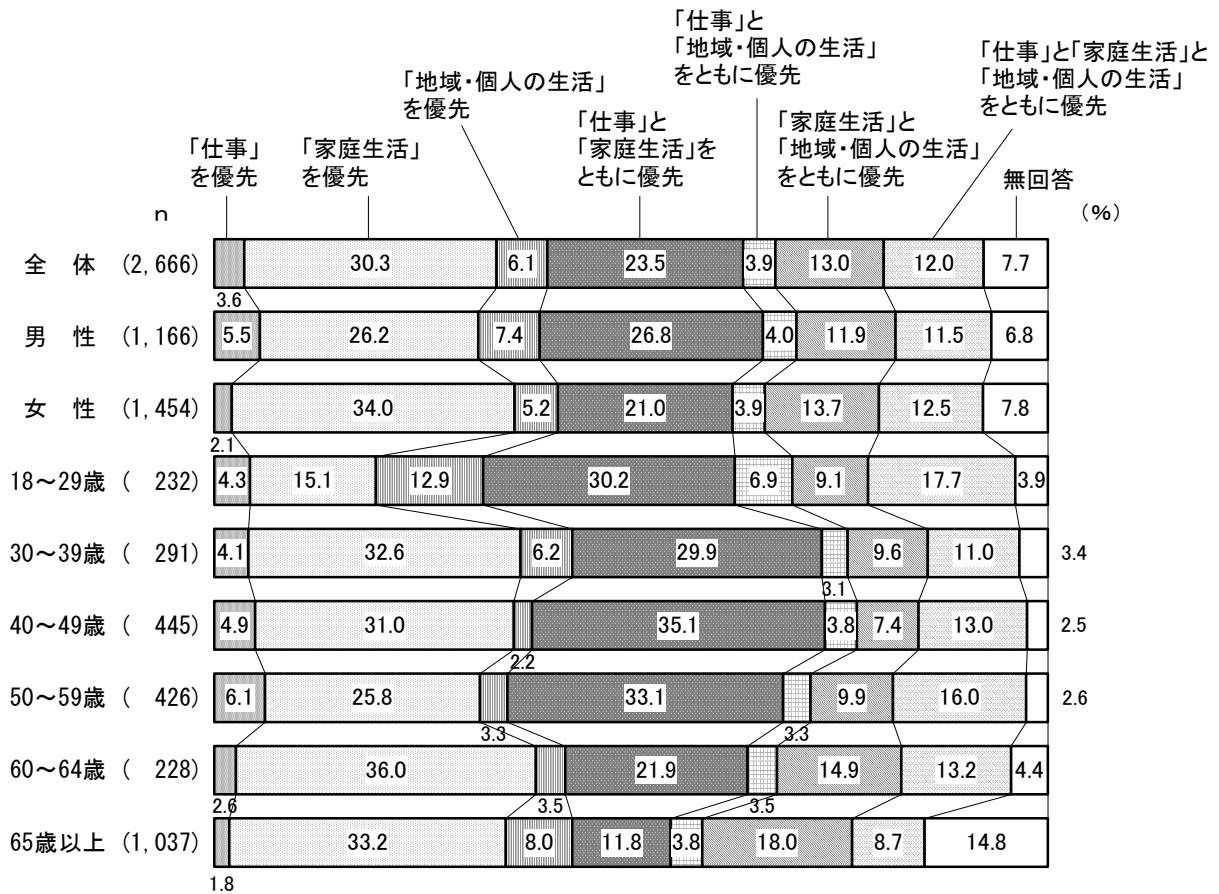
図3-38-1 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（30.3%）が最も多く約3割となっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.5%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（13.0%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（12.0%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-38-1）

図3-38-2 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—性別、年齢別

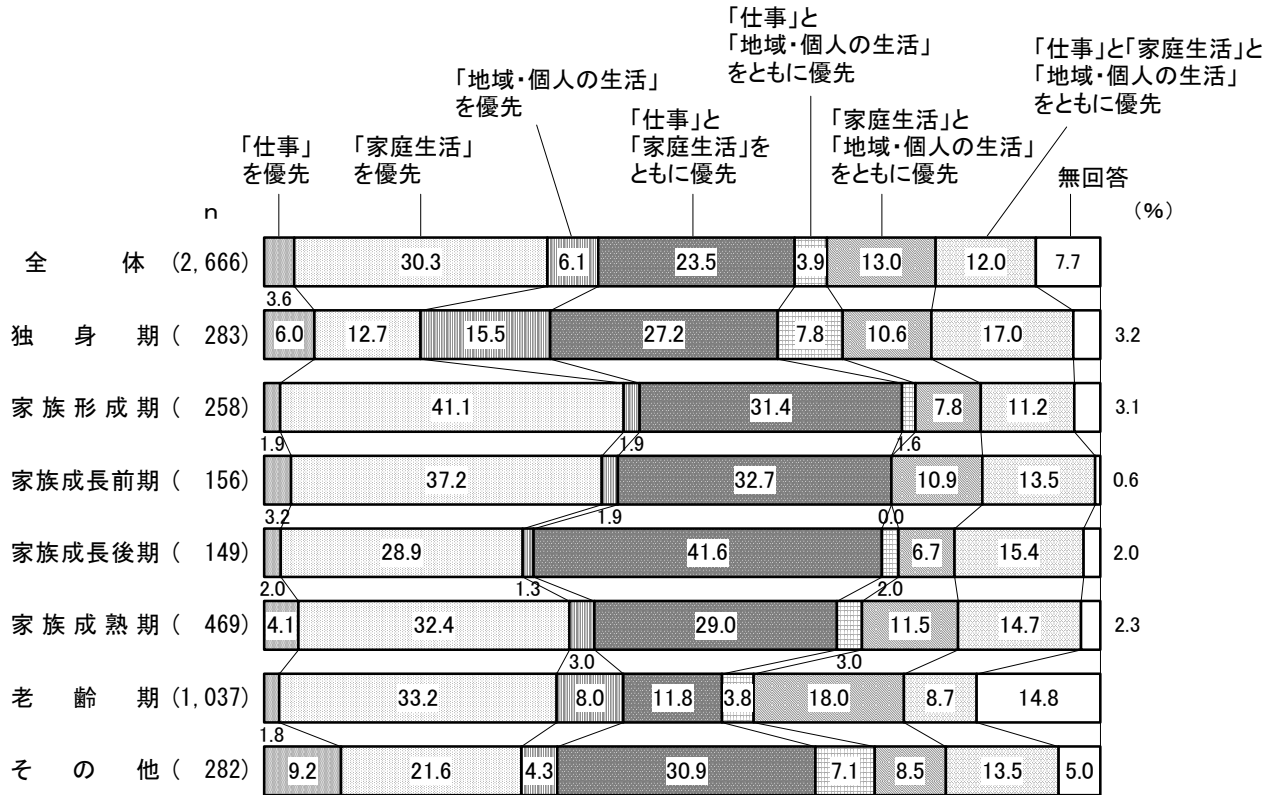


性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（34.0%）が男性（26.2%）より7.8ポイント高くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性（26.8%）が女性（21.0%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『家庭生活』を優先は60～64歳（36.0%）で4割近くと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は40～49歳（35.1%）で3割台半ばと多くなっている。

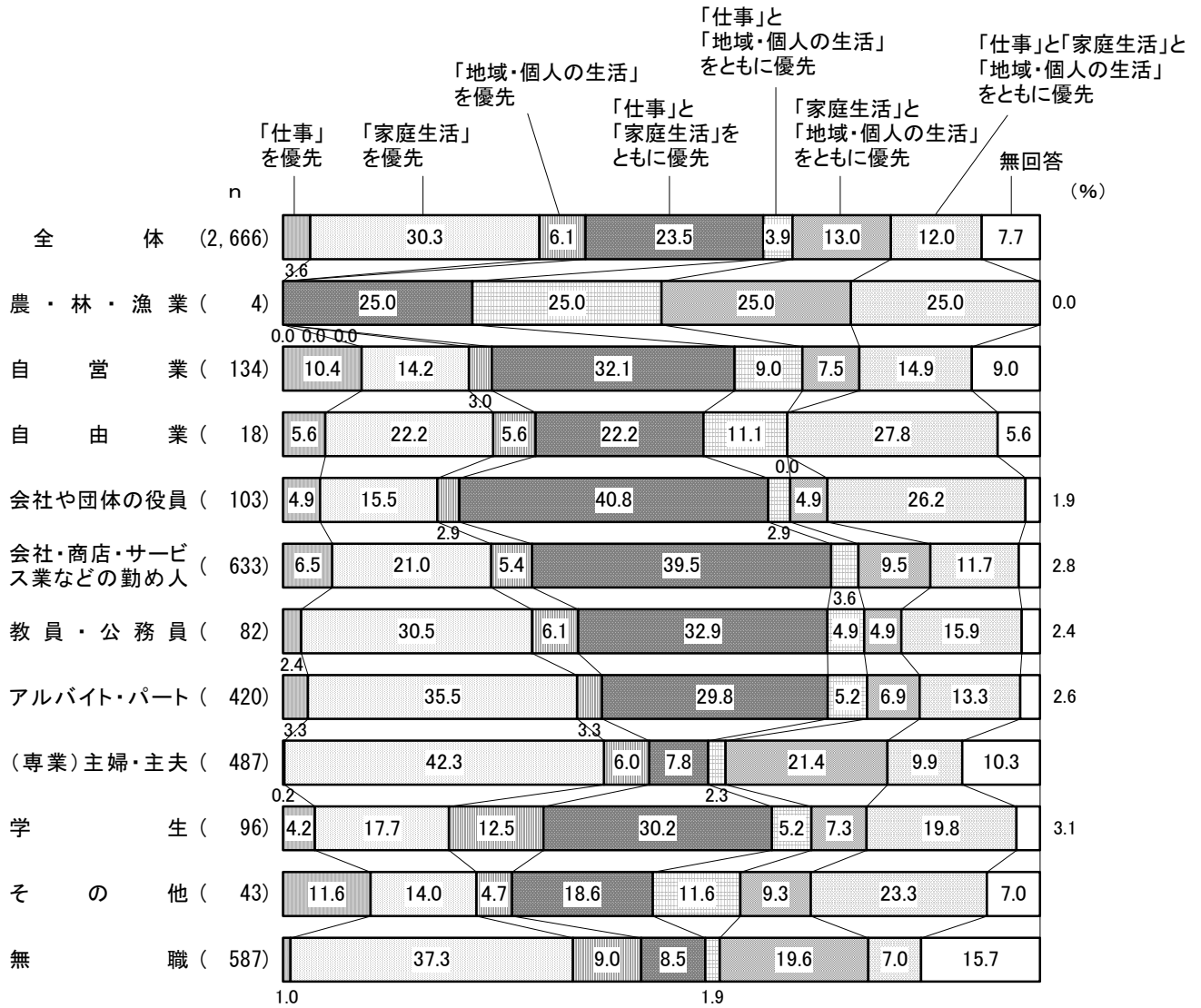
(図3-38-2)

図3-38-3 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族形成期（41.1%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（41.6%）で4割強と多くなっている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は老齢期（18.0%）で2割近くと多くなっている。（図3-38-3）

図3-38-4 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は(専業)主婦・主夫(42.3%)で4割強と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は会社や団体の役員(40.8%)で約4割と多くなっている。『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先は(専業)主婦・主夫(21.4%)で2割強と多くなっている。(図3-38-4)

(39) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度

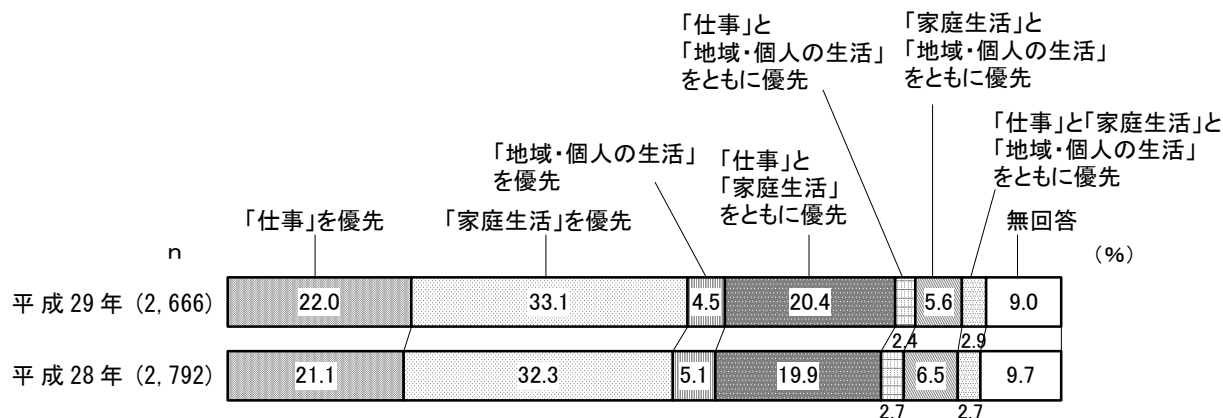
◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が3割強

問42 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

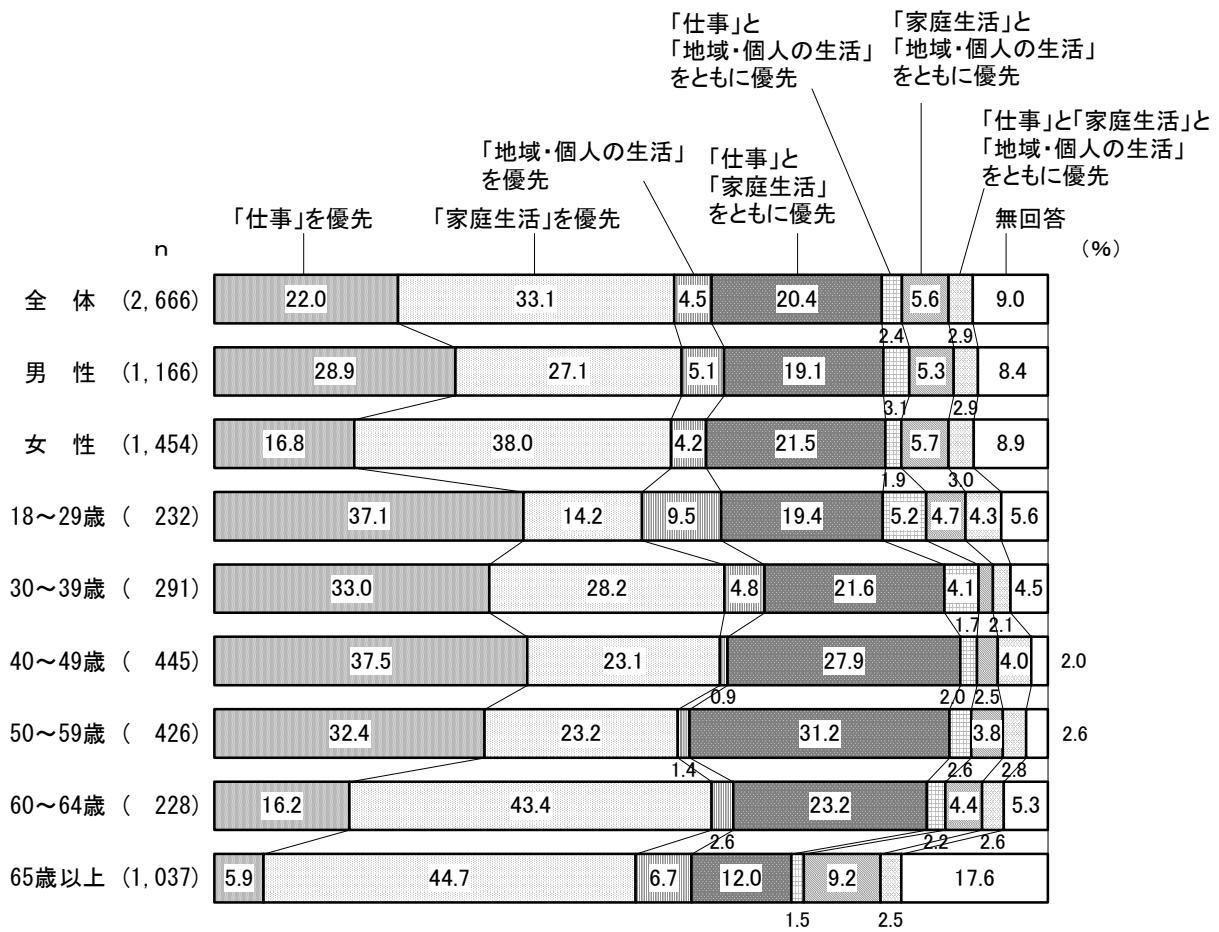
図3-39-1 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（33.1%）が最も多く3割強となっている。次いで「『仕事』を優先」（22.0%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（20.4%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-39-1）

図3-39-2 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—性別、年齢別

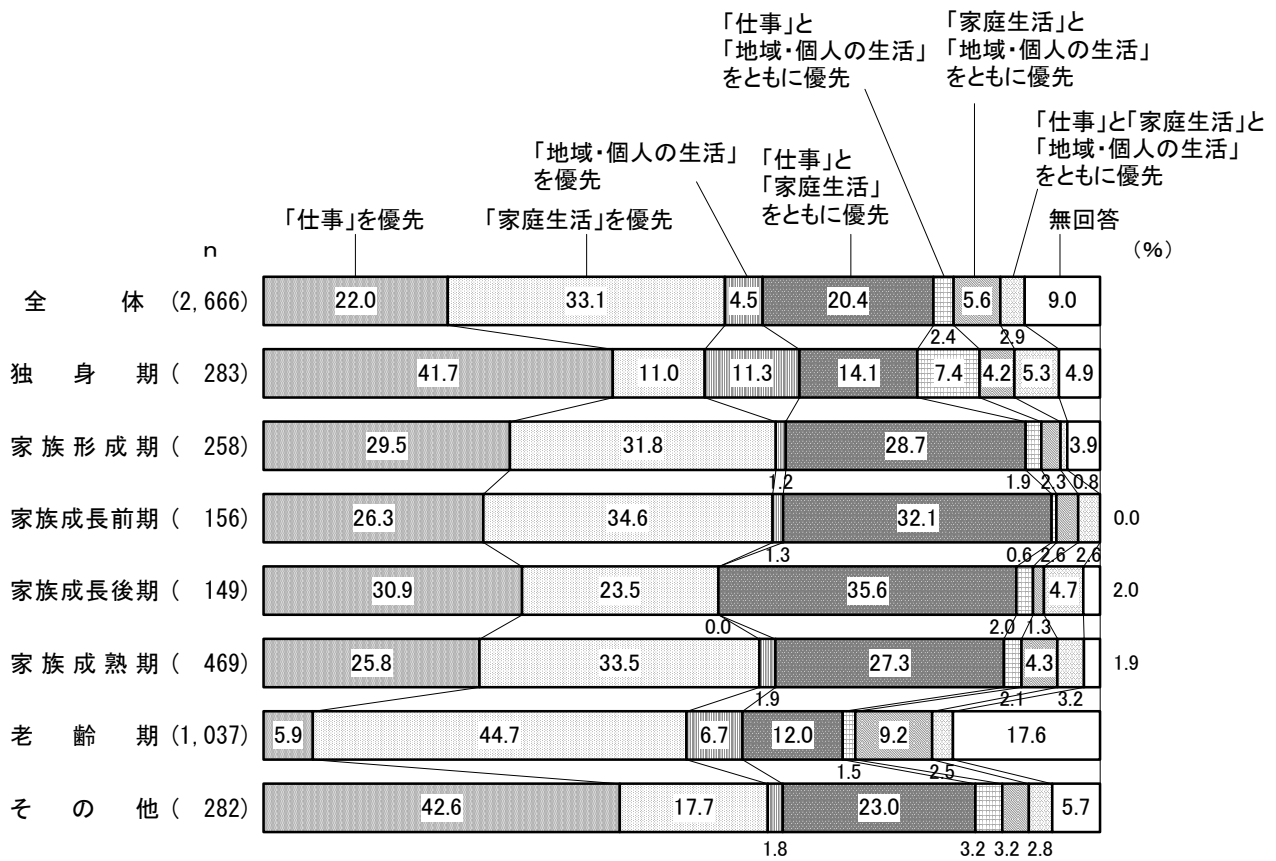


性別にみると、『仕事』を優先は男性（28.9%）が女性（16.8%）より12.1ポイント高くなっている。『家庭生活』を優先は女性（38.0%）が男性（27.1%）より10.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『家庭生活』を優先は65歳以上（44.7%）で4割台半ばと多くなっている。『仕事』を優先は18~29歳（37.1%）と40~49歳（37.5%）で4割近くと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は50~59歳（31.2%）で3割強と多くなっている。

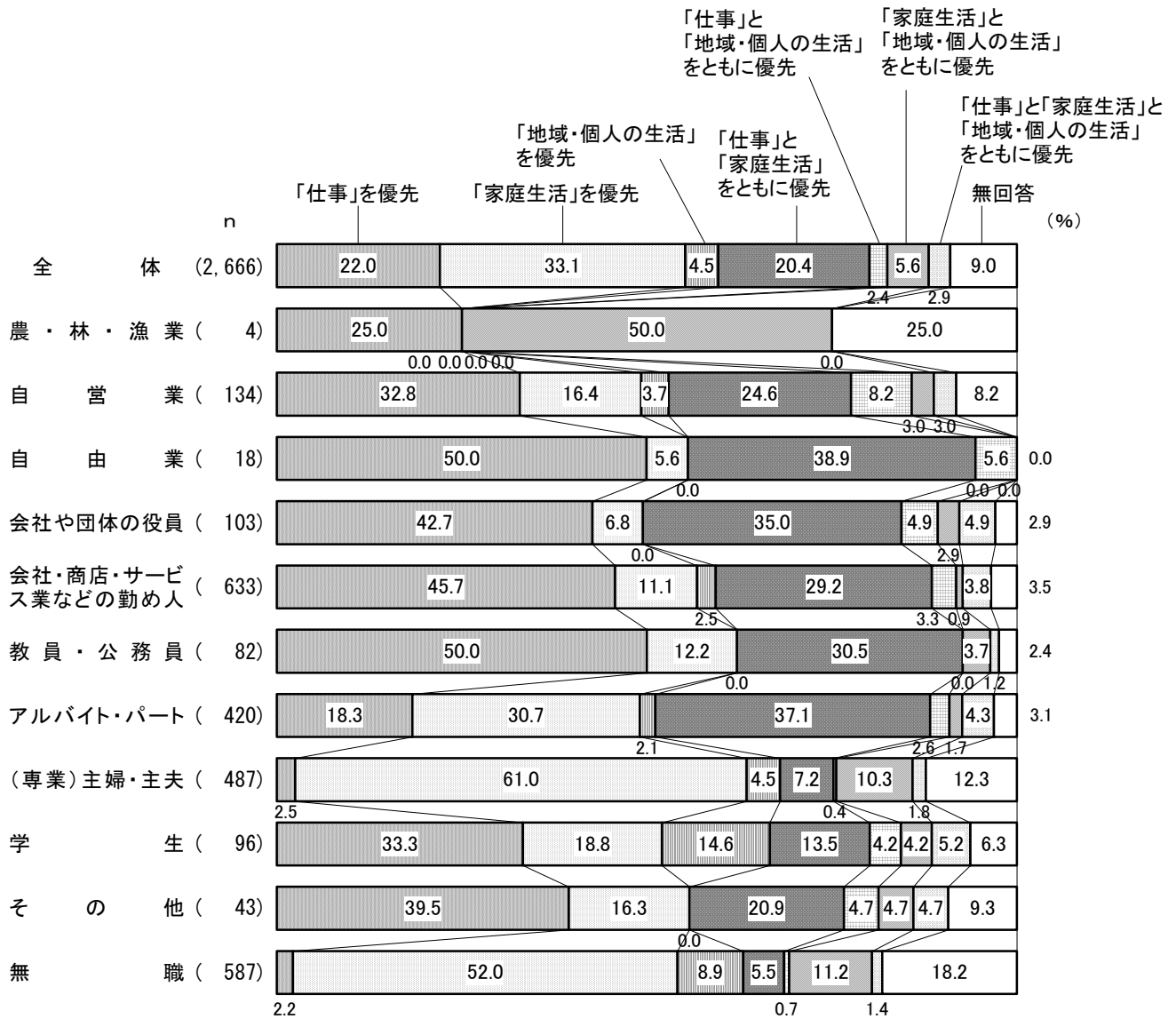
(図3-39-2)

図 3-39-3 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－ライフステージ別



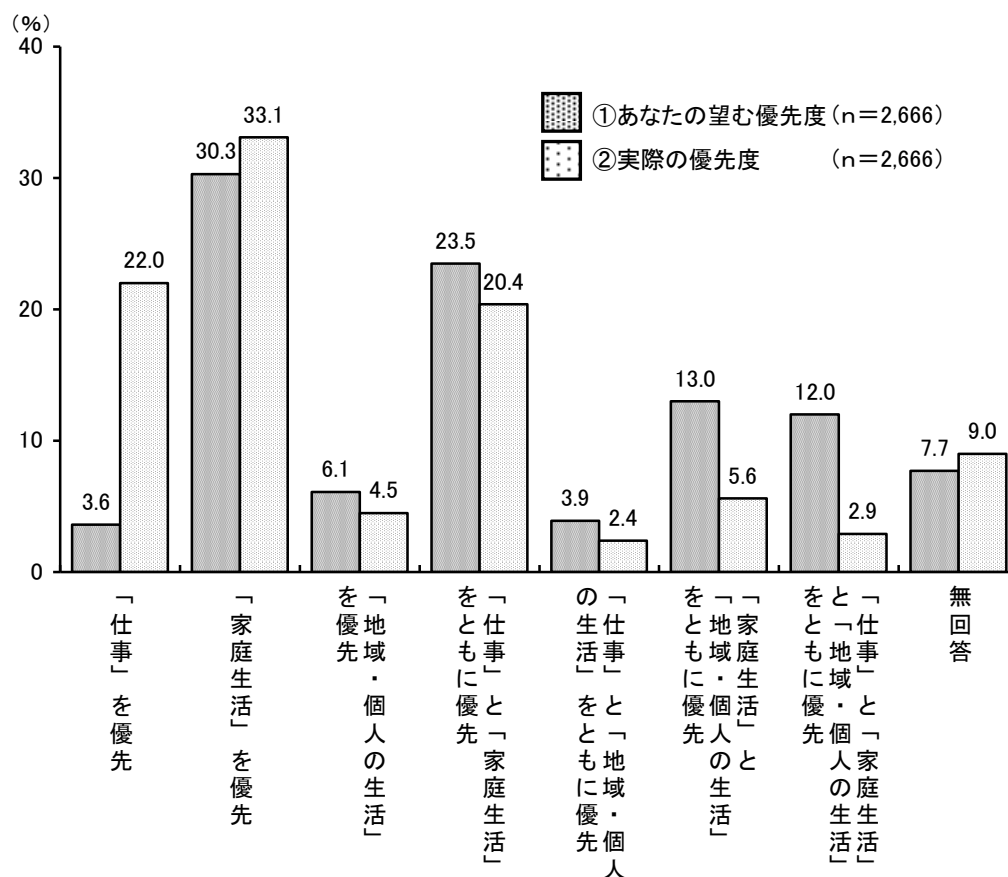
ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は老齢期（44.7%）で4割台半ばと多くなっている。「『仕事』を優先」は独身期（41.7%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（35.6%）で3割台半ばと多くなっている。（図 3-39-3）

図3-39-4 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は(専業)主婦・主夫(61.0%)で6割強と多くなっている。『仕事』を優先は自由業(50.0%)と教員・公務員(50.0%)で5割と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は自由業(38.9%)とアルバイト・パート(37.1%)で4割近くと多くなっている。(図3-39-4)

図3-39-5 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度




「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、「『仕事』を優先」は、②実際の優先度（22.0%）が①希望する優先度（3.6%）を18.4ポイント上回っている。「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は、②実際の優先度（2.9%）が①希望する優先度（12.0%）を9.1ポイント下回っている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は、②実際の優先度（5.6%）が①希望する優先度（13.0%）を7.4ポイント下回っている。（図3-39-5）

図3-39-6 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

(%)

		基数 (n)	①あなたの望む優先度							無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人	を「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	
全体		2,666	3.6	30.3	6.1	23.5	3.9	13.0	12.0	7.7
②実際の優先度	「仕事」を優先	586	11.4	20.3	6.0	37.2	4.9	7.5	11.8	0.9
	「家庭生活」を優先	882	1.0	56.8	5.4	11.5	1.5	15.2	6.2	2.4
	「地域・個人の生活」を優先	121	-	14.0	42.1	4.1	8.3	19.8	11.6	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	544	1.7	19.1	0.6	50.4	3.3	7.2	17.1	0.7
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	65	1.5	12.3	9.2	7.7	35.4	6.2	23.1	4.6
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	149	0.7	15.4	5.4	1.3	3.4	57.7	14.1	2.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	78	5.1	7.7	2.6	7.7	3.8	10.3	60.3	2.6
	無回答	241	2.1	12.0	4.1	6.2	0.8	3.3	2.5	68.9

(注)  は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際には『「仕事」を優先』している人のうち、『「仕事」を優先』することを希望する人（11.4%）は1割強となっており、『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』することを希望する人（37.2%）が4割近くで最も多くなっている。また、実際には『「仕事」を優先』以外と回答した人の中では、①希望する優先度と②実際の優先度は、一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-39-6）

図 3-39-7 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

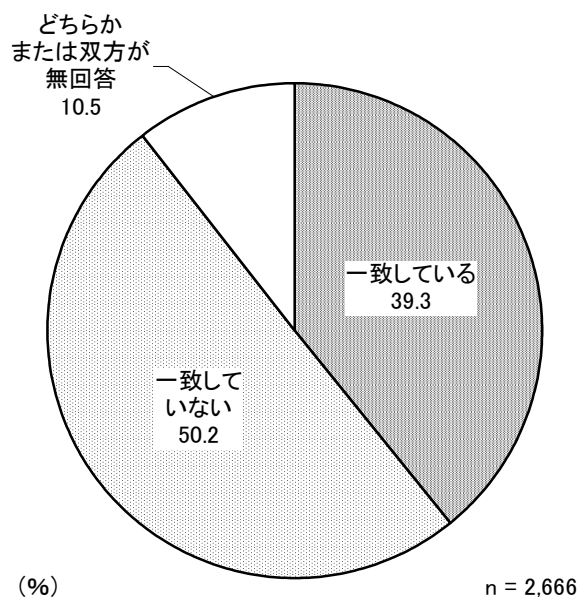


図 3-39-6 に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、2つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できている人の割合（39.3%）は4割弱となっている。

一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できていない人の割合（50.2%）は約5割となっている。（図 3-39-7）

(40) 市の相談体制の充実度

◇《《そう思う》》が4割近く

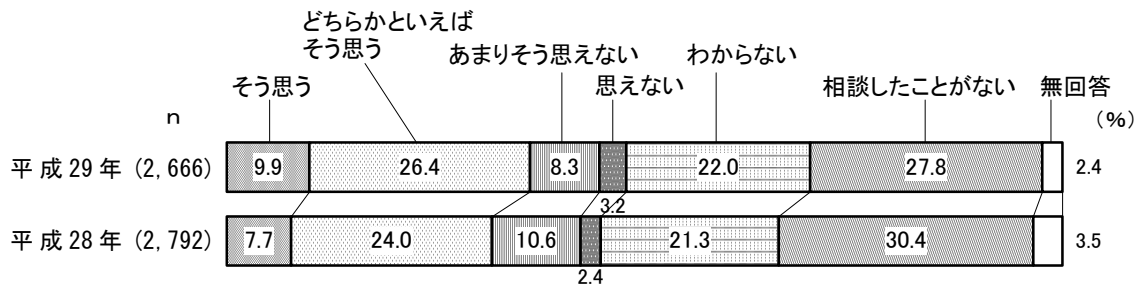
問43 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| ○人権、女性福祉、女性のための相談 | ○高齢者の福祉と介護、高齢者総合 |
| ○生活にお困りの方の自立相談 | ○専門家による成年後見制度・権利擁護相談 |
| ○法律、司法書士法律、不動産、登記、
相続・遺言等暮らしの手続 | ○ひとり親家庭、子ども家庭総合、
専門家による子育て相談 |
| ○年金・雇用保険・労働条件 | ○総合教育相談、こども電話相談 |
| ○交通事故 ○税金 ○行政 ○消費生活 | ○あなたの心の相談室、こころの健康相談 |
| ○外国人のための生活相談、行政書士相談 | ○H I Vに関する相談・検査 |
| ○地域活動への参加 ○起業 ○就職 | ○保健福祉・栄養・歯科 |
| ○住まいのなんでも相談、
住宅の増改築に関する相談 | ○理学療法士による健康相談 |
| | ○医療に関する電話相談 |
- など

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談カレンダー」（毎月1日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

図3-40-1 市の相談体制の充実度—全体、経年比較

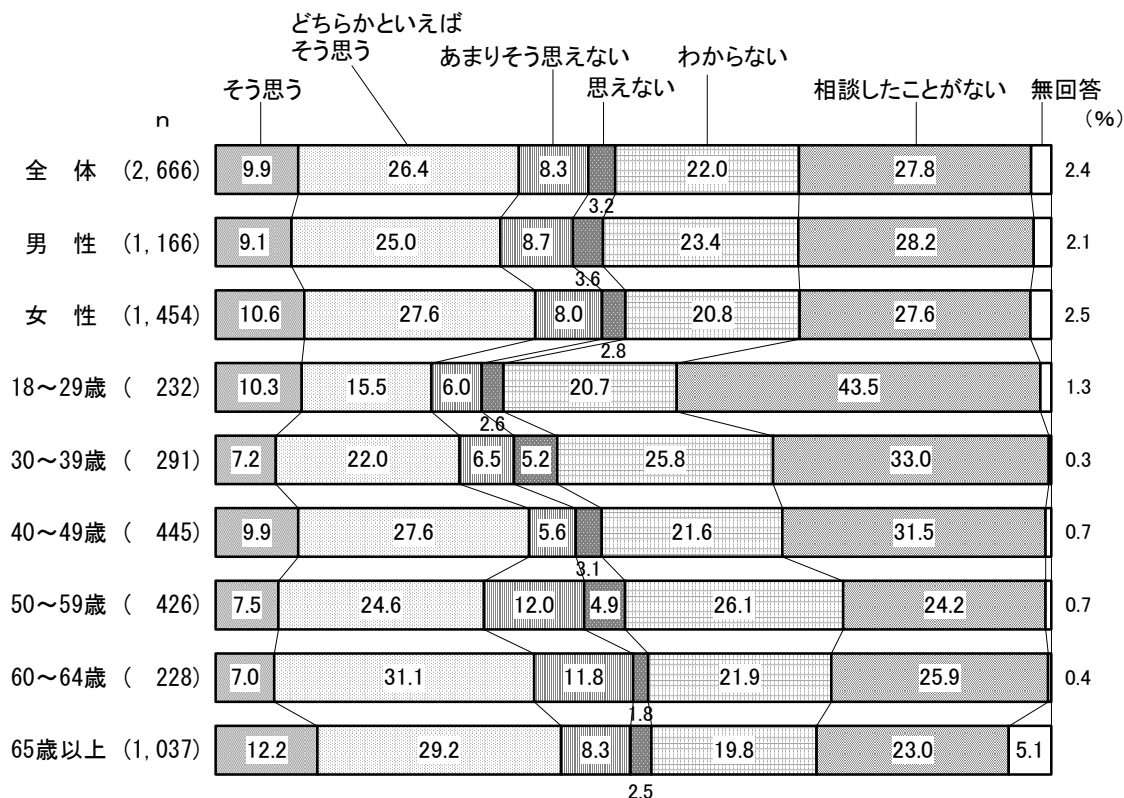


市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.9%)と「どちらかといえばそう思う」(26.4%)を合わせた《《そう思う》》(36.3%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(8.3%)と「思えない」(3.2%)を合わせた《《そう思えない》》(11.5%)は1割強となっている。また、「相談したことがない」(27.8%)は3割近くとなっている。

前回調査と比較すると、《《そう思う》》は、平成28年(31.7%)より4.6ポイント増加している。

(図3-40-1)

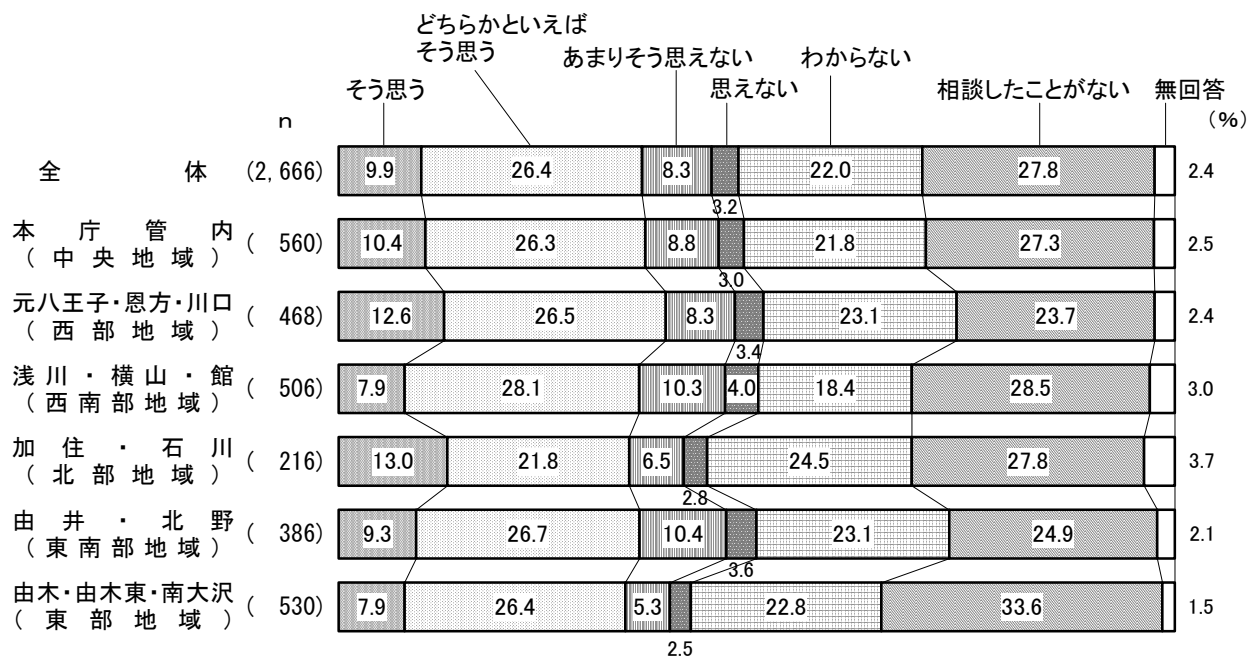
図3-40-2 市の相談体制の充実度—性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は女性（38.2%）が男性（34.1%）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（41.4%）で4割強と多くなっている。一方、「そう思えない」は50~59歳（16.9%）で2割近くと多くなっている。（図3-40-2）

図3-40-3 市の相談体制の充実度—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（39.1%）で4割弱と多くなっている。（図3-40-3）

(41) 行財政運営

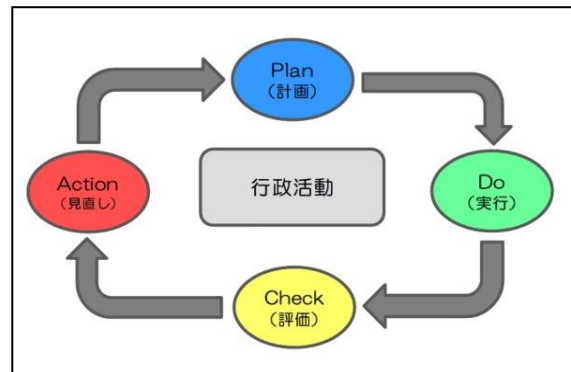
◇《そう思う》が2割台半ば

問44 市は、「持続可能な行財政運営」に向け、下欄のような取り組みにより、効果・効率的な行政運営を図るとともに、財政の健全性を確保しています。あなたは、本市において「持続可能な行財政運営」が進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

(1) 計画行政の推進

- 市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」に掲げる6つの都市像（私たちが目指すまち）の実現に向け、向こう3か年の主要な事業を示した「アクションプラン（実施計画）」を毎年策定し、計画的な行政運営を推進しています。
- 安定的・継続的な市民サービスを提供するために、計画・実行・評価・見直しのPDCAサイクルによる行政運営をしています。

PDCAサイクル



(2) 効率的な民間経営手法の活用と財産の有効活用

- 市民サービスを効果・効率的に提供するため、積極的な民間活力の導入、PFI（※）の活用などに取り組んでいます。
- 市が保有する施設を、市民ニーズを踏まえて、他の用途へ転用したり、適正な管理を行うことで、財産の有効活用を図っています。



PFIを活用して整備したエスフォルタアリーナ八王子（八王子市総合体育館）

※PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは・・・

公共施設の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用することで、民間主導による、効果・効率的な公共サービスの提供を行うことです。

(3) 健全な財政運営

- 市の借金である市債の残高をピーク時（平成12年度）の約3,200億円から約2,100億円（27年度末）に削減し、市の貯金である基金は、将来の支出に備え積極的に積み立てを行い、残高は約235億円（27年度末）となりました。
- 事業効果や経済効果を想定して安定的な税収の確保につながる政策を展開しています。

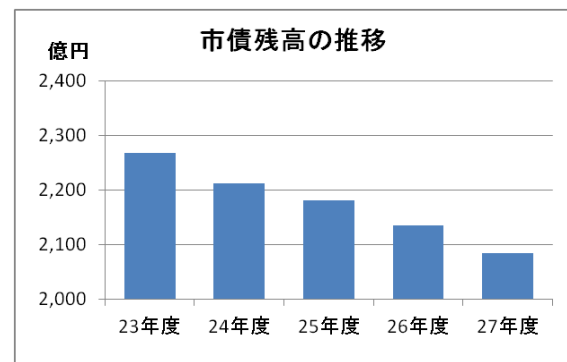
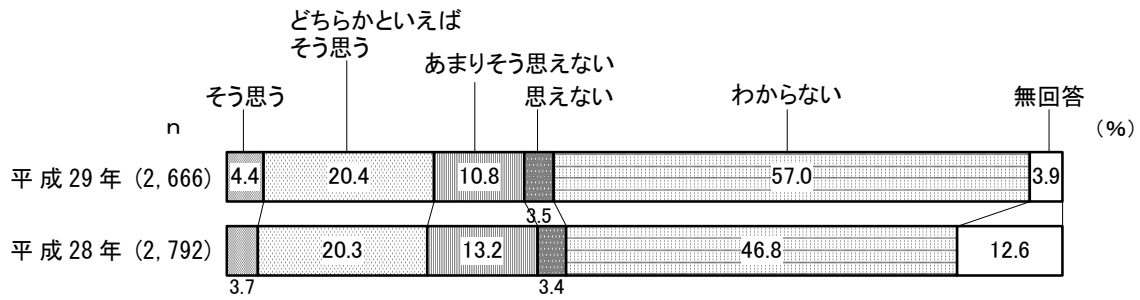


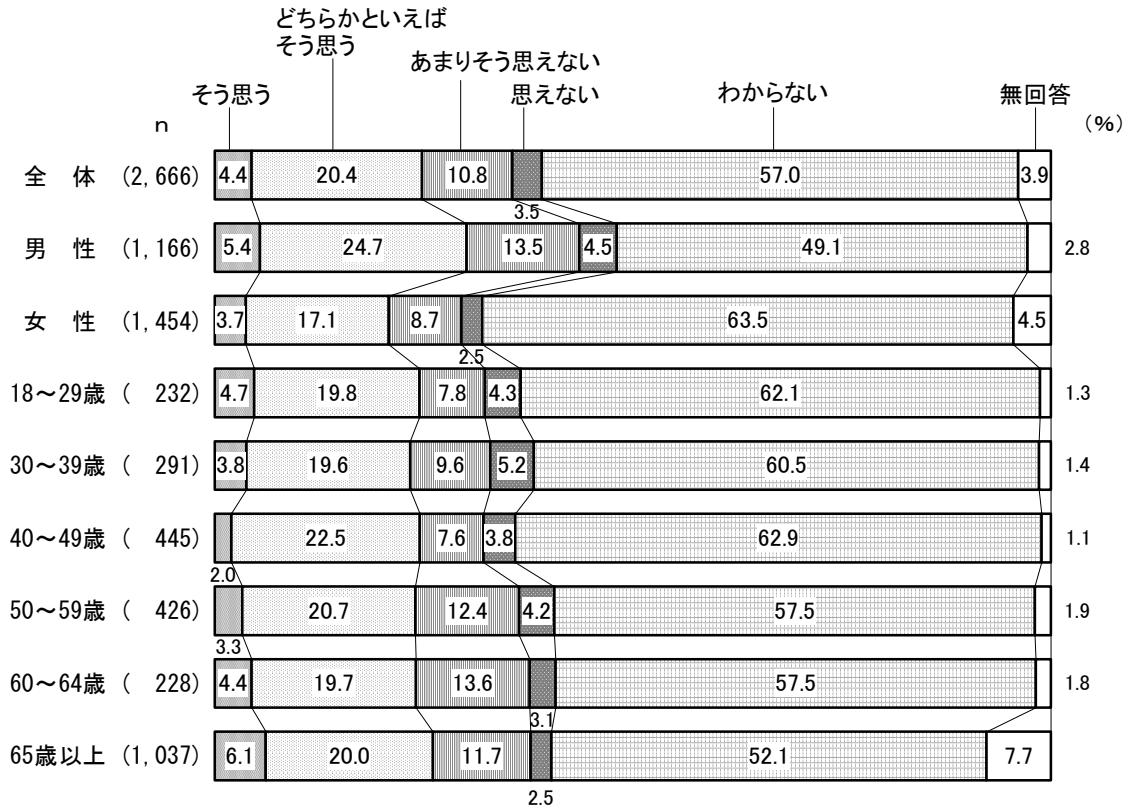
図3-41-1 行財政運営—全体、経年比較



「持続可能な行財政運営」が進んでいると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(20.4%)を合わせた《そう思う》(24.8%)が2割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思えない」(10.8%)と「思えない」(3.5%)を合わせた《そう思えない》(14.3%)が1割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、《そう思う》と《そう思えない》の割合に大きな傾向の違いはみられない。(図3-41-1)

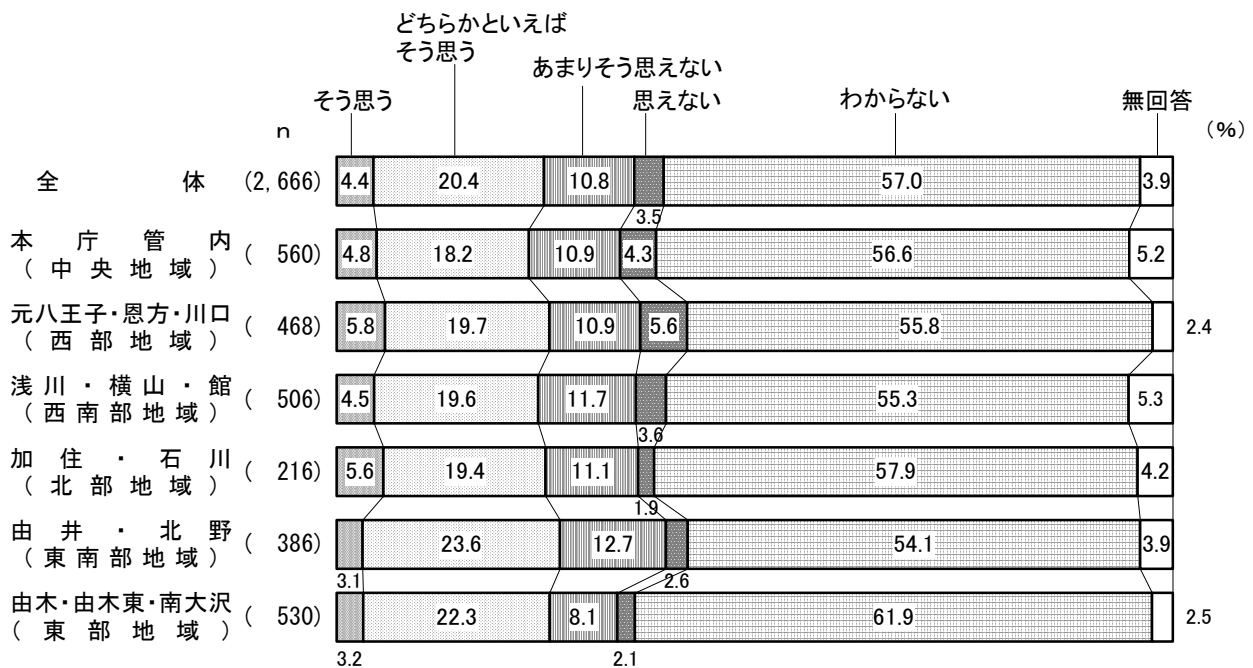
図3-41-2 行財政運営—性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は男性 (30.1%) が女性 (20.8%) より9.3ポイント高くなっている。年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上 (26.1%) で3割近くと多くなっている。

(図3-41-2)

図3-41-3 行財政運営—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は由井・北野 (東南部地域) (26.7%) で3割近くと多くなっている。(図3-41-3)